

2021 年度 早稲田大学卒業生調査  
報告書

2022 年 5 月

早稲田大学 大学総合研究センター

研究倫理番号 2021-366

## 全体要旨

本報告書は、大学総合研究センターが 2008 年度に学部に入学者を対象に実施した卒業生調査の集計、分析結果を掲載した報告書である。調査は、2021 年の 12 月末から 2022 年の 1 月末までにかけて 9,807 名を対象に大学に登録されたメールアドレス、住所にメール、ダイレクトメールを送付し、1,013 件の回答を得た（回収率 10.3%）。回収率に学部ごとの大きな偏りはないものの、本調査の回答者は在学時の成績が比較的高い層である点に留意する必要がある。

第 1 章では、本調査の概要や対象者の在学時の学習・生活環境について整理し、第 2 章では、本調査で設定したディプロマ・ポリシーに関連した学修成果（DP）の修得度のうち国際性に関する項目と在学時の学びや学生生活の関係を検証した。おもな結果は次の 3 点である。

第一に、早稲田大学の教育・学習経験は、国際性の修得に寄与していた点である。具体的に、国際性の修得度に対して、最も関連していたのは、「30.留学生と一緒に学んだ」経験であり、次に高いのは、進学理由「13.国際化が進んでいるから」であった。また、在学時の教育経験として「29.語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした」や、「14.一般教育科目」についても国際性の修得度と正に有意な関係にあった。これらは国際性の修得を目指した科目とも考えられ、大学入学前の経験や進学理由を考慮したとしても、早稲田大学の教育・学習経験は、国際性の修得に寄与していたと言える。

第二に、一方で、34、35 の留学経験についてはいずれも国際性の修得度に対して正に有意な関係にあり、長期の場合の方が短期に比べて若干高い結果となった。短期（数週間～3ヶ月未満）の留学も国際性修得に寄与していた。ただし、関連の度合いはいずれも「留学生と一緒に学んだ」経験の方が高い。

第三に、留学が現在の仕事に役立ったという点では、中長期においては役立ち度という点から高い傾向が示されるものの、短期については相対的に低く、半数が現在の仕事に（あまり）役に立っていないと認識している。

第 3 章では、在学中の学修行動（熱心な取り組み）、教育の成果（身につけたこと）、そして現在の状況（満足度・学修の仕事への活用）の個人差を説明・予測する要因を分析した。分析の結果、教育の成果に関しては、専門科目に熱心に取り組んだこと、在学中により教員に出会えた経験や、授業内容について他の学生と議論した経験があることが、全体的に個人差を説明・予測する変数であった。また、現在の状況の生活などの満足度に関しては、現在の学習活動として、職場の教育・研修プログラムに参加すること、学部 3～4 年の成績、仕事の難しい問題に直面した時に相談できる友人がいることが、比較的個人差を説明・予測する質問項目であった。さらに、大学の学びの仕事への役立ち度に関しては、在学中にその学びを熱心に取り組んだ学生ほど、それが仕事に役立っていると答えるようである。

全体的に、在学中により教員に出会えた経験はポジティブに、特別な理由なく授業を欠席した経験はネガティブに、様々な側面を比較的良好に説明・予測できるという傾向が見られるが、決定係数の大きさを考えると、今回取り上げた以外の質問項目（説明要因）についても検討していく必要があるだろう。

## 目次

第1章 調査概要と対象について.....	p. 3
1-1. 調査概要.....	p. 3
1-2. 調査対象者の在学時の学習・生活環境.....	p. 6
第2章 国際性に関する分析.....	p. 8
2-1. タイプの基本情報.....	p. 8
2-2. インプット.....	p.10
2-3. スループット.....	p.15
2-4. アウトプット.....	p.24
2-5. 役立ち度.....	p.27
2-7. 回帰分析と留学期間について.....	p.32
第3章 在学中の学修行動と教育の成果及び現在の状態の関係探究.....	p.36
3-1. 在学時の望ましい学修行動などの説明・予測.....	p.36
3-2. 教育成果などの説明・予測.....	p.40
3-3. 現在の仕事・生活の状態などの説明・予測.....	p.44
3-4. まとめ.....	p.48
付録 全体の集計データ.....	p.49

## 第1章 調査概要と対象について

大学総合研究センターは、2018年度から学部卒業後10年時点の卒業生に対して、早稲田大学の教育改善の一環として客観的データを得るために卒業生調査を実施し、2021年度は第4回目の調査を行った。

これまでの調査では、在学時の学びと卒業後のアウトプット（役立ち度や満足度）との関係に着目し分析を行い、早稲田大学の教育の効果を検証した。一方、2020年度は在学生に対して、学生生活調査を踏襲し、学修成果や学修行動を加えた学生生活・学修行動調査<sup>1</sup>を実施し、ディプロマ・ポリシーの修得についても検証が始まったところである（早稲田大学大学総合研究センター 2021、2022）。この在学生を対象とした学生生活・学修行動調査においては、全学で定める6つの項目のうち国際性に関する修得度が相対的に低いことが示された。直接的に修得度を尋ねたものではないが、特に外国語に関する大学教育の役立ち度は全国的な調査によっても、相対的に低い傾向にある。

たとえば、「外国語を使う力」を身に付けるために大学教育は役立っているか、という項目では「とても役に立っている」（8%）、「役に立っている」（22%）であり、「あまり役に立っていない」（38%）、「役に立っていない」（32%）を大きく下回り、他の能力よりも相対的に低い（文部科学省 2020<sup>2</sup>）。よって、外国語を含む国際性の修得については、早稲田大学のみ課題ではなく、国内の多くの大学に共通する課題であると考えられる。

そこで本報告書では、学部卒業後10年を経過した卒業生を対象に、国際性の修得度に関する分析を行った（第2章）。ここでは、国際性に関わる2項目の回答をもとに学生タイプを作成し、タイプごとに入学前の状況や在学時の経験の違いを検証した。また国際性を含め在学中の学修行動と教育成果、現在の状態の関係を改めて概観した（第3章）。なお調査は大学総合研究センターが実施し、データ分析、報告書執筆は同センター遠藤健（第1章、第2章）、山田寛邦（第3章）が担当し、付録作成、報告書編集補助を学生スタッフ丸川拓己が担当した。

### 1-1. 調査概要

上述した分析を行うにあたって、課題としてきたのは回収数・回収率である。特に、卒業後の転居情報が更新されていないケースがあり、第2回の2019年度は回収率5.9%と十分な回収数を得られていなかった。そこで第3回の2020年度調査からは、学内の研究倫理申請を行った上で在学時に登録されたメールアドレス宛にもウェブ回答URLを送付した。その結果、回収数・回収率は1,350件（15.4%）に増加した。第4回となる2021年度調査についても同様の手法によって実施し、前年度調査よりは低くなったものの1,013件（10.3%）と多くの回答をいただいた。調査に協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

---

<sup>1</sup> 早稲田大学大学総合研究センター、2021、『2020年度 学生生活・学修行動調査報告書』。

<sup>2</sup> 文部科学省、2020、「令和元年度『全国学生調査（試行実施）の結果について』」6月16日報道発表資料。

対象者：2008 年度学部入学者（昨年度：2007 年度学部入学者）

回収時期：2021 年 12 月 25 日～2022 年 1 月 31 日（昨年度：2020 年 12 月 26～2021 年 2 月 10 日）

調査方法：①ウェブ回答 URL を登録されたメールアドレスに送付、②ウェブ回答 URL が印刷されたダイレクトメールの郵送（昨年度：ウェブ回答 URL が印刷されたダイレクトメールの郵送）

送付数：9,807（昨年度：8,762）

回答数：1,013（昨年度：1,350）

回答率：10.3%（昨年度：15.4%）

また、分析の前に秘匿化された調査対象者（母集団）のデータ（n=9,807）と本調査結果とを結合した。調査対象者の母集団と回答者の比較によって、回答者はどのような卒業生なのか、在学時のデータからその一端を明らかにし、解釈する上での助けとなる。ここでは学部、性別、学内奨学金制度の利用、成績の情報から検討する。なお、母集団には送付先情報がなく対象とはしなかった 70 名を含む 9,877 名のデータを示す。

学部については、図 1-1 の通りである。人間科学部（通信教育課程）の割合が母集団と比較して 3.3% 高く、逆に国際教養学部は 1.8% 低いものの、全体的にそこまで大きな偏りは見られない。

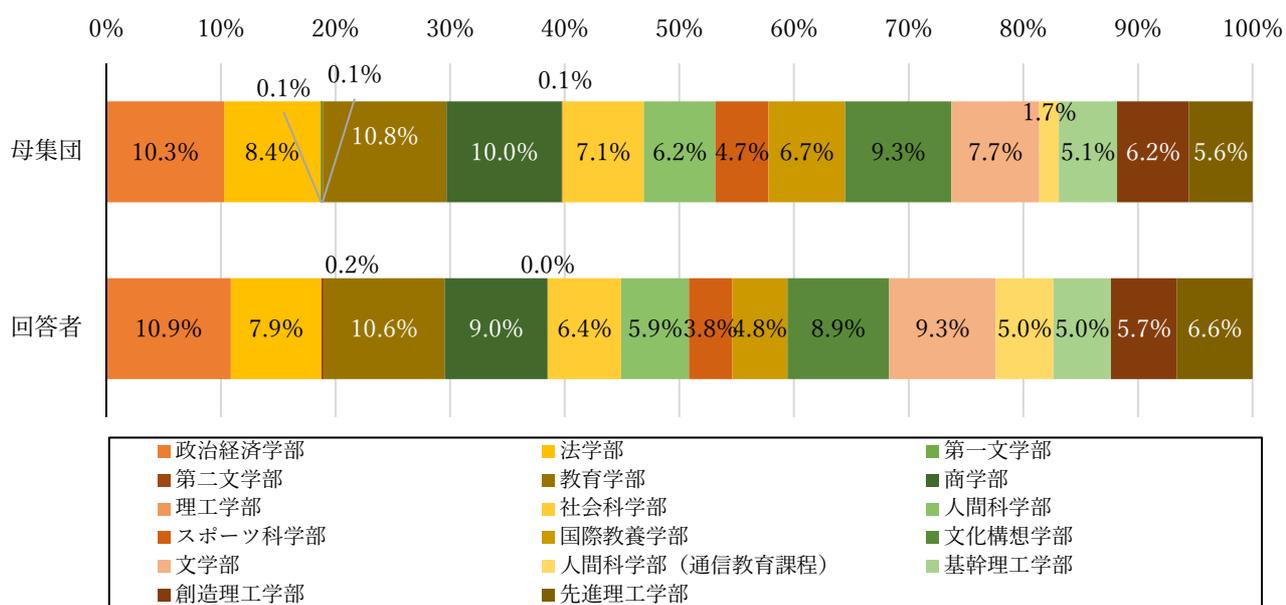


図 1-1 母集団と回答者の学部の割合

次に回答者の学内に登録された性別の割合で比較すると（図 1-2）、母集団全体と回答者の比率には大きな違いが見られなかった（図 1-3）。前年度調査では女性の方が高い傾向であったものの、本調査ではそのような傾向は確認できなかった。

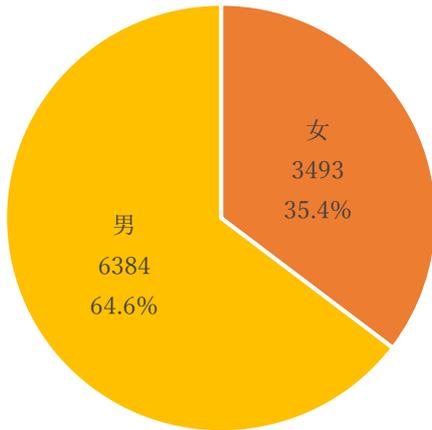


図 1 - 2 母集団・性別

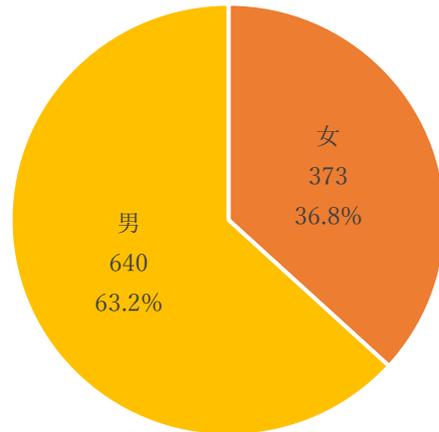


図 1 - 3 回答者・性別

成績については通算 GPA を一指標として検証する。早稲田大学の GPA は各授業の成績のグレードポイント (A+ (4)、A (3)、B (2)、C (1)、不可 (0)) に応じて点数化され、それらを平均したものが通算 GPA となる。まず母集団全体の箱ひげ図を示すと (図 1 - 4) 平均値 2.297、中央値 2.256 であった。一方、回答者は (図 1 - 5)、平均値 2.454、中央値 2.453 となり、母集団より高い値である。前回調査に引き続き、本調査の回答者は在学時の成績が比較的高い層である点に留意する必要がある。

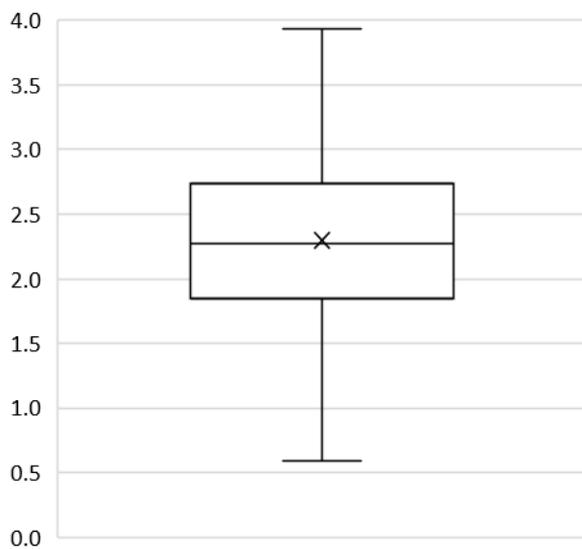


図 1 - 4 母集団・通算 GPA の箱ひげ図

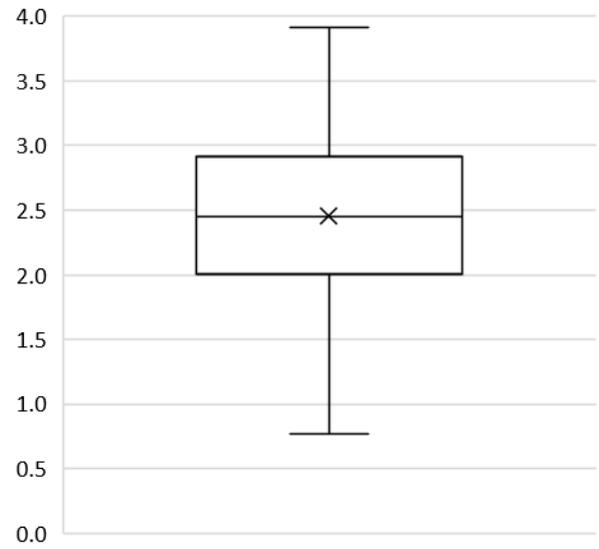


図 1 - 5 回答者・通算 GPA の箱ひげ図

## 1-2. 調査対象者の在学時の学習・生活環境

次に、本調査の対象とする2008年度学部入学生の在学時の学習・生活環境について整理する。表1-1では早稲田大学、高等教育政策、社会のカテゴリーで2008年～2011年度にかけて生じた比較的大きな出来事を作成した。

表1-1 2021年度卒業生調査対象者の在学時のおもな出来事

	早稲田大学	高等教育政策	社会
2006年		・センター試験英語で初めてリスニングが導入される	・第1次安倍政権発足
2008年4月/9月	入学		
2008年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Waseda Next 125」発表。</li> <li>・専門職大学院教職研究科設置。</li> <li>・教務部外局としてFD推進センターを10月に設置。</li> <li>・「こうはいナビ」による、学生・職員共同で新入生をサポートするプロジェクトを実施</li> <li>・「ボランティア、フィールドワーク型授業」を19科目開講</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学士課程教育の構築に向けて」(答申)</li> <li>・「質の高い大学教育推進プログラム」公募開始</li> </ul>	・リーマン・ショック
2009年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の到達目標」「半期15回分の授業計画」を明示するようシラバス項目の見直しを実施</li> <li>・「Course N@vi」は約17,000科目中約5,000科目で活用</li> </ul>		・政権交代
2011年	東日本大震災復興支援室設置 被災学生の就学支援、被災地域支援、研究を通じた復興支援を展開		東日本大震災
2012年3月/9月	標準年限卒業		

まず、基本的な前提として理解しておくべきは、調査対象者が在学していた期間、特に入学と卒業時点で早稲田大学、社会にとって大きな出来事が生じていた点である。調査対象者が入学した2008年は早稲田大学の創立125周年の翌年にあたり、当時の白井総長の式辞において、教育面では、少人数による対面英語教育「チュートリアル・イングリッシュ」、「1万人の文章表現」、「1万人の数学」などを学部横断型ゼミの「テーマカレッジ」（現在：グローバルエデュケーションセンターの教育に該当）を準備し、課外活動としてもサークル活動、ボランティア活動もあり、これらを通じて「真に高い人間力」が育てられると述べている（早稲田大学校友会 2008<sup>3</sup>）。

2008年度の事業計画では教育の早稲田の実現として以下の9つの項目を掲げた。①教職大学院の新設②教育学部初等教育学専攻の新設、③政治学研究科ジャーナリズムコース開設④、附属中学校の設置準備、⑤全学基盤教育の推進、⑥グローバルカレッジ構想の実現、⑦田無学生寮、西早稲田学生寮の開

<sup>3</sup> 早稲田大学校友会、2008、『早稲田学報』1169、pp.46-47.

寮、⑧奨学金制度の充実、⑨多様なニーズに応えるキャリア支援・教育の充実（早稲田大学校友会 2008、p.39<sup>4</sup>）。⑤についてはすでに述べた通り、テーマカレッジとして具体化されていった。

2008年に早稲田大学は「Waseda Next 125」を発表し、創立150年に向けた各改革のロードマップを示した。同年には、FD推進センターが設置され、教育のグローバル化として海外からの留学生の受入れ、日本人学生の海外留学の促進、世界各国からの留学生との交流の充実を図ったと報告した（早稲田大学校友会 2009<sup>5</sup>）。以上のように、調査対象者が在学している間に、全学基盤教育の充実と教育のグローバル化推進を図っていったことが特徴としてあげられる。

2008年入学者が3年生であった2011年3月には東日本大震災が発生した。早稲田大学では東日本大震災復興支援室を設置し、①被災学生の就学支援、②被災地域支援、③研究を通じた復興支援を展開した。2011年度学部卒業式において、当時の鎌田総長は被災地支援の活動を通じて成長した学生が、今後の社会の発展を支えてくれるものと期待していた（早稲田大学校友会 2012<sup>6</sup>）。

また、高等教育政策においては、2008年に文部科学省中央教育審議会にて「学士課程教育の構築に向けて」が答申され「学士力」が示され、また経済産業省においては「社会人基礎力」が示されるなど、大学と社会を繋ぐコンピテンスの獲得と、その獲得に向けた学士課程プログラムの質保証に関する議論、実践が本格化した時期にあたる。具体的には、大学教育改革を促進する教育GP事業の公募が始まり、2008年に公募された「質の高い大学教育推進プログラム」には国際教養学部の「多文化・多言語社会に向けての教養教育」が採択された。

このように調査対象者の在学中は、昨年度の調査対象者と同様、全学的に教育改善の取り組みが実行され始めた時期にあたり、かつ教育組織の改革によって新たに誕生した文学部・文化構想学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部は2年目にあたる。これらの基本情報も本報告書のなかで適宜参照する。

---

<sup>4</sup> 早稲田大学校友会、2008、『早稲田学報』1170。

<sup>5</sup> 早稲田大学校友会、2009、『早稲田学報』1176。

<sup>6</sup> 早稲田大学校友会、2012、『早稲田学報』1193。

## 第2章 国際性の修得に関する分析

### 2-1. タイプの基本情報

第2章では、まず学修成果の一つとして設定した国際性の修得についてタイプを作成し、それぞれのタイプのインプット（2-2）やスループット（2-3）、アウトプット（2-4）、役立ち度（2-5）ごとに傾向を示し、次に国際性を従属変数とした回帰分析と留学期間の差異（2-6）の結果を示す。これらの分析を通して、国際性がどのようなメカニズムのもとで修得されているのか、そこに早稲田大学での教育経験がどのように活かされたのかを提示する。

タイプを作成するにあたって使用した質問項目の教示文は「早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。—多様性を受け入れられる」と「早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。—外国語を理解し、話せる」であり、それぞれ、「身につけていない」、「あまり身につけていない」、「まあまあ身についた」、「身についた」の4件法で尋ねた。この2項目の結果は図2-1の通りである。「異文化を理解できる」については、「まあまあ身についた」は38.9%であり、「身についた」は37.8%であった。一方で、「外国語を理解し、話せる」については、「まあまあ身についた」は24.5%であり、「身についた」は14.4%となっており、外国語の修得により課題があるようだ。

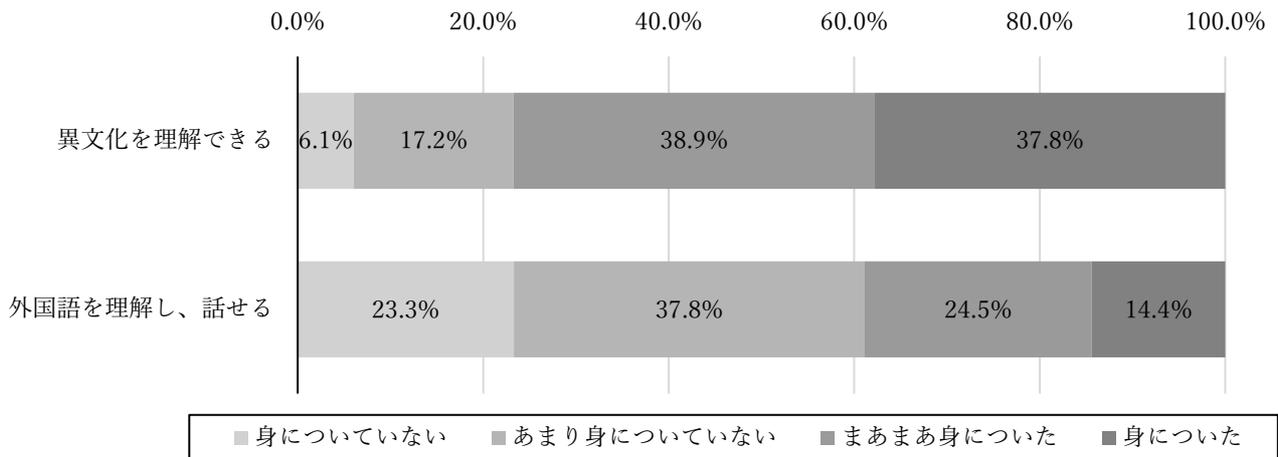


図2-1 国際性に関する項目の修得度

次に、これらの回答をより「身についた」が高くなるように1～4まで得点化し、それを合算して国際性得点とした。なお、両者の相関係数は.442と中程度の相関であった。この得点は以下のヒストグラムに示したように分布し（図2-2）、2と3を「国際低」群、4～6を「国際中」群、7と8を「国際高」群とした「国際タイプ」を作成した。3つのタイプの分布を学部別（匿名）に示したものが図2-3になる。学部によってタイプの分布がかなり異なっている。「国際高」群が最も多いのは、E学部で53.8%であり、この学部には「国際低」群は0%となった。次に「国際高」群が多いのは、K学部で、25.0%であった。一方、「国際高」群が最も少ないのは、L学部の1.9%であり、学部ごとに分布が異なる点も前提として把握しておく必要がある。

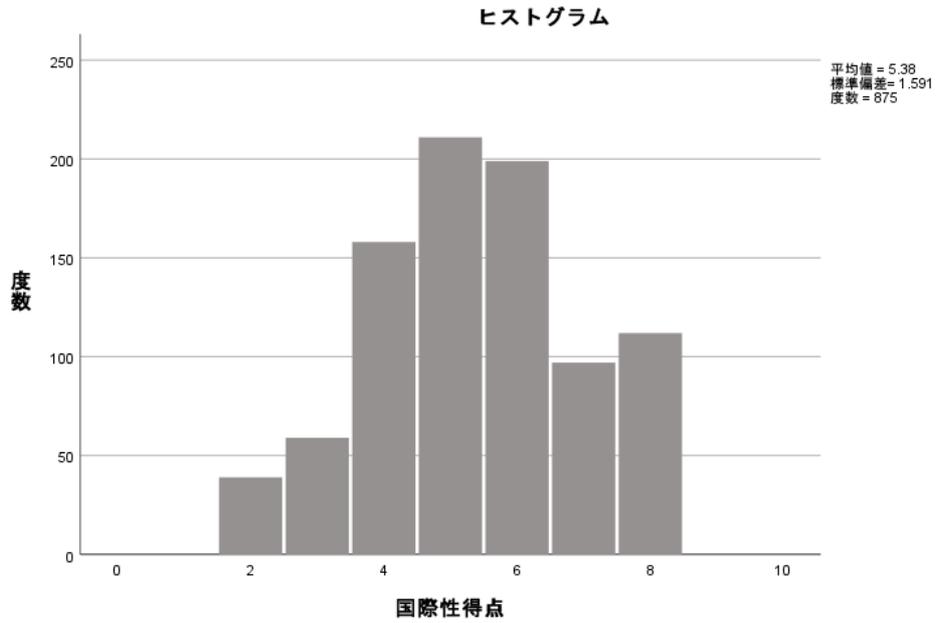


図 2-2 国際性得点のヒストグラム

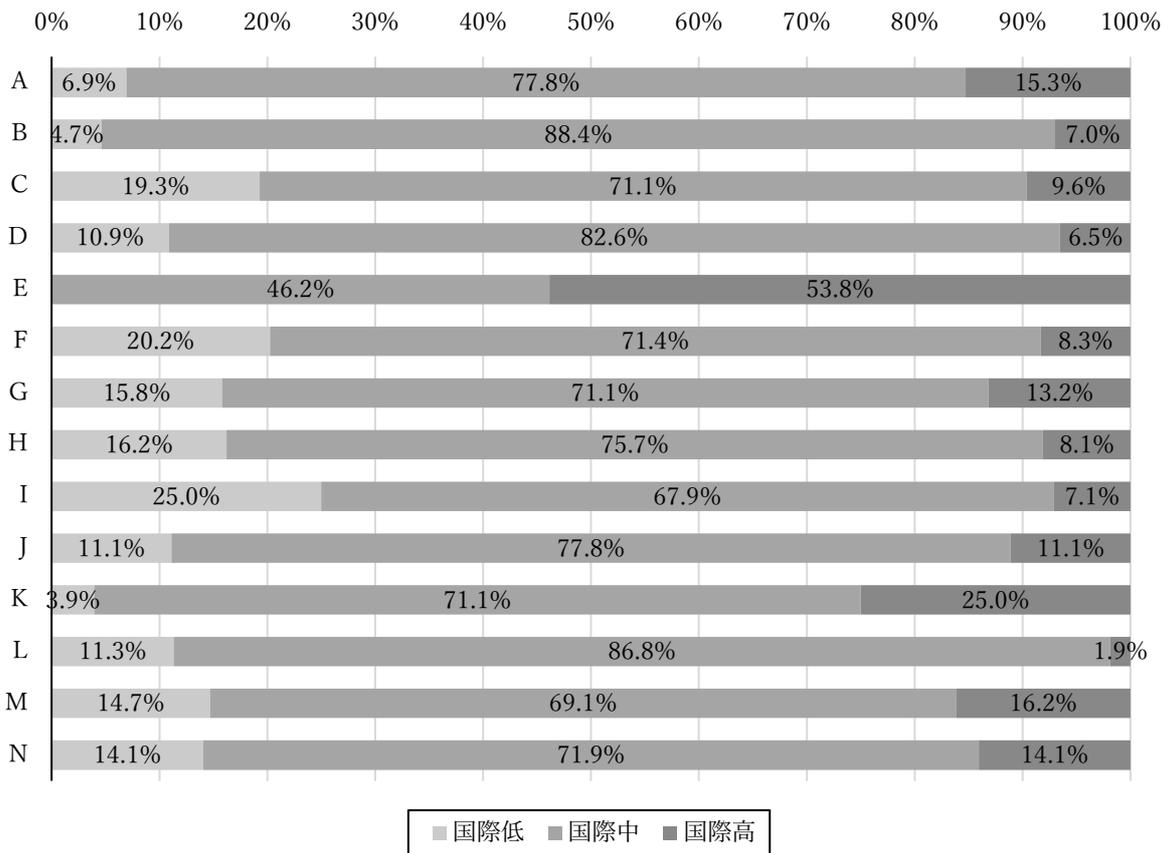


図 2-3 志望度タイプの分布 (入試区分別)

以下ではインプット (2-2) やスループット (2-3)、アウトプット (2-4)、役立ち度 (2-5) についてタイプ別の分析結果を示していく。

## 2-2. インプット

- ・勉強したい分野がその学部にあったから

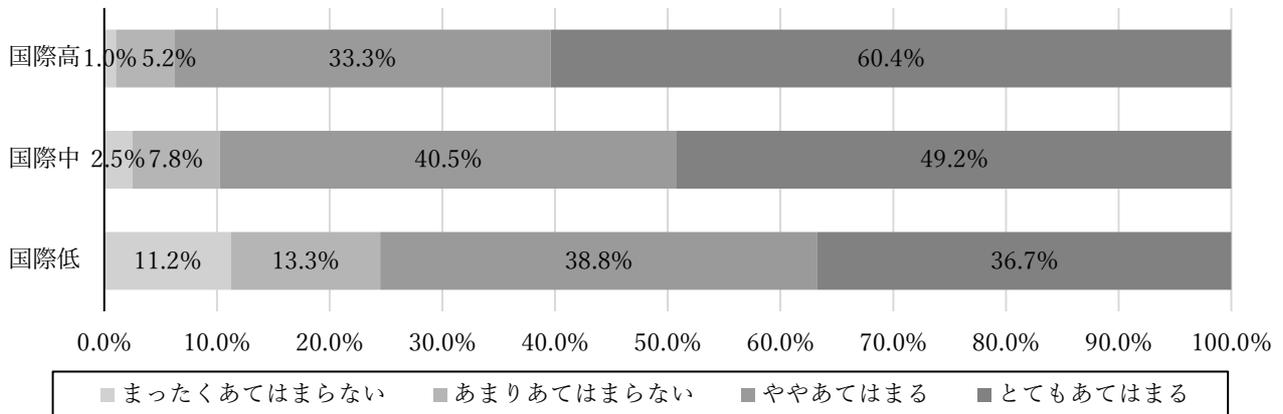


図2-4 受験理由\_勉強したい分野がその学部にあったから (国際タイプ別)

- ・就職に有利であると思ったから

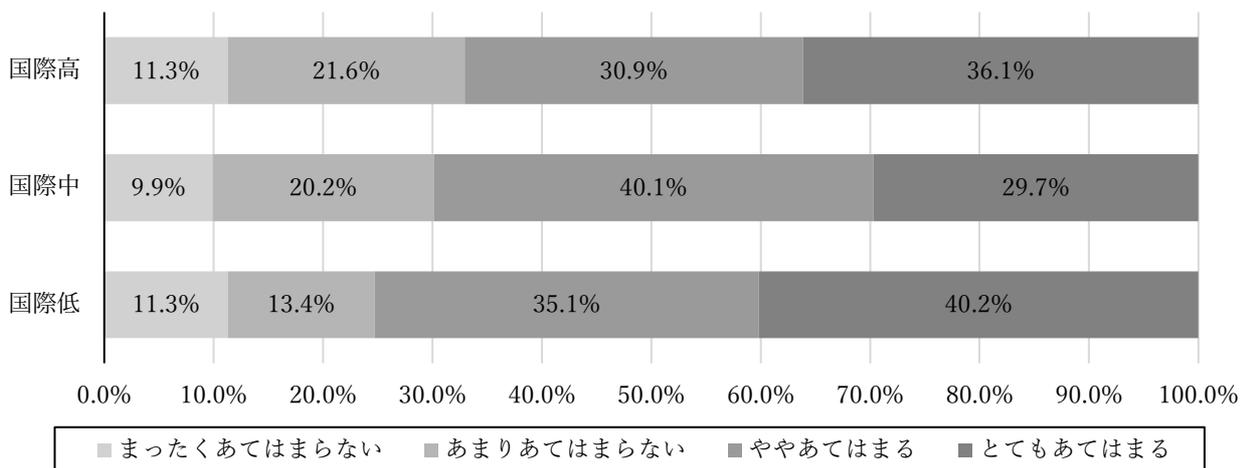


図2-5 受験理由\_就職に有利であると思ったから (国際タイプ別)

- ・将来の希望する職業分野を勉強できるから

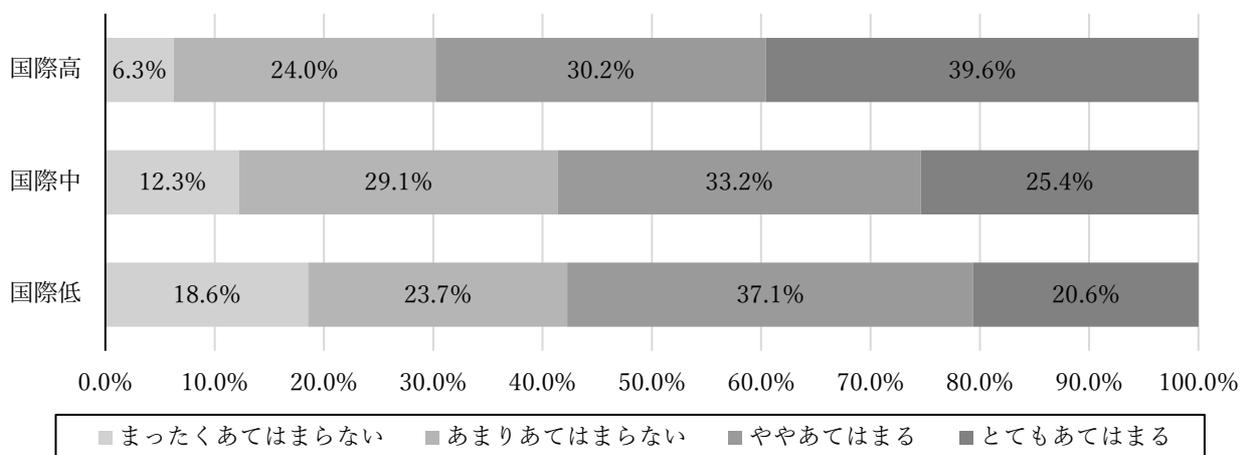


図2-6 受験理由\_将来の希望する職業分野を勉強できるから (国際タイプ別)

・資格の取得が有利であるから

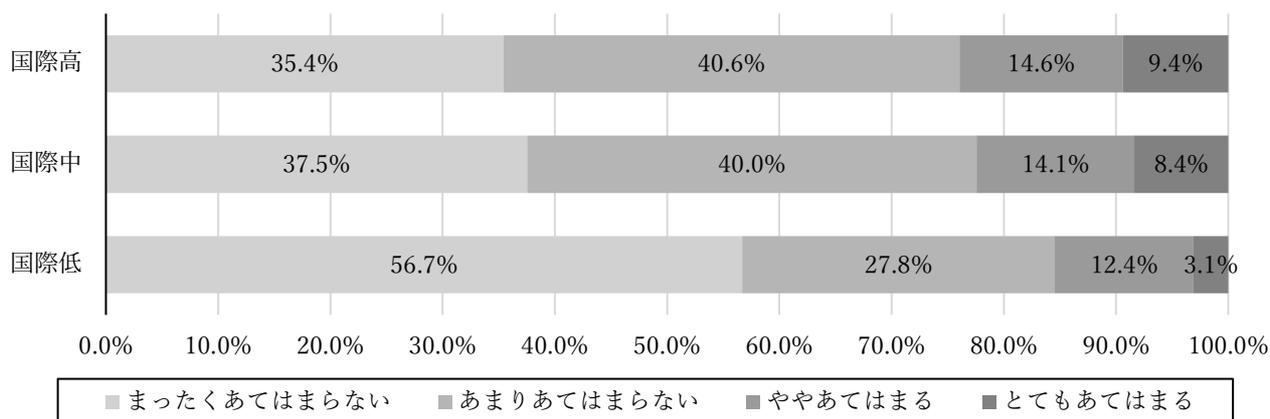


図 2-7 受験理由\_資格の取得が有利であるから (国際タイプ別)

・指導してほしい教員がその学部にいるから

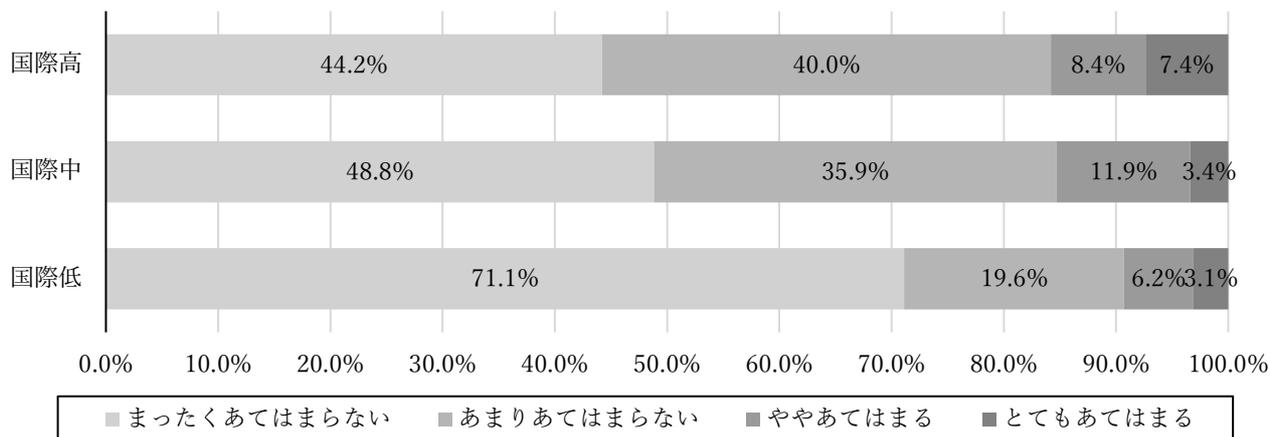


図 2-8 受験理由\_指導してほしい教員がその学部にいるから (国際タイプ別)

・学力 (偏差値など) が適当であったから

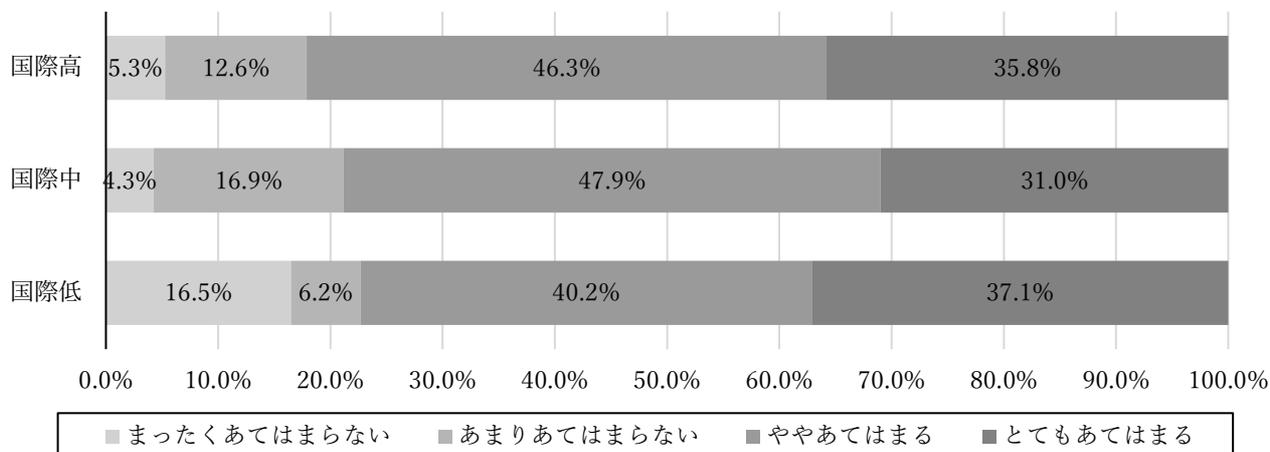


図 2-9 受験理由\_学力 (偏差値など) が適当であったから (国際タイプ別)

・進路選択の幅が広い学部を選択した

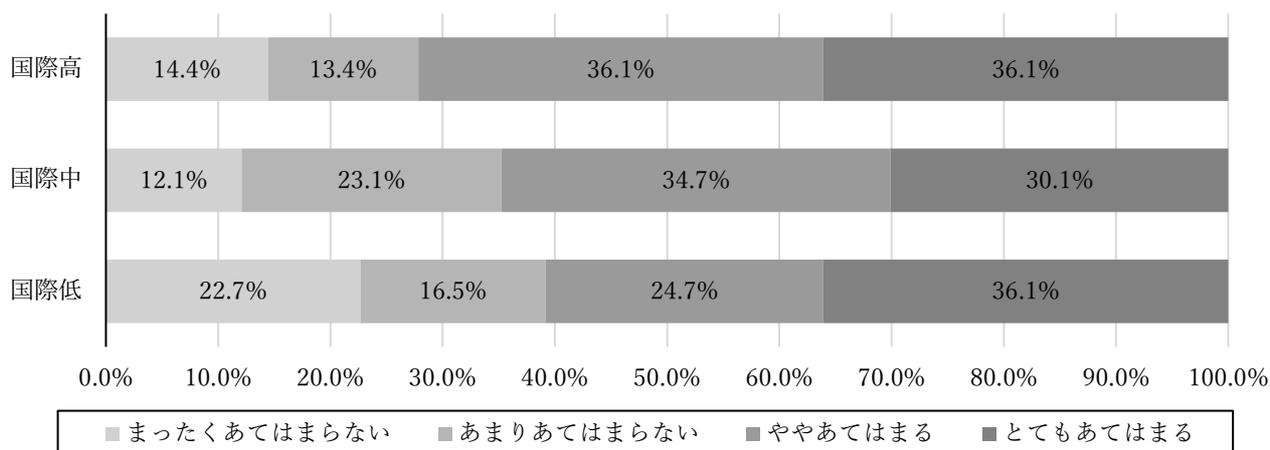


図 2-10 受験理由\_進路選択の幅が広い学部を選択した (国際タイプ別)

・高校の先生や家族または塾などで勧められたから

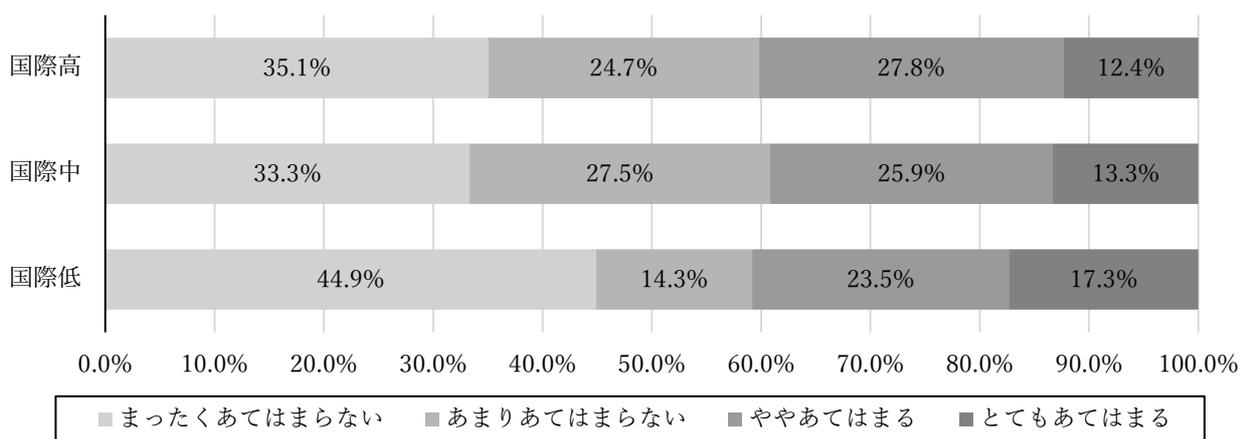


図 2-11 受験理由\_高校の先生や家族または塾などで勧められたから (国際タイプ別)

・伝統・校風が好きだから

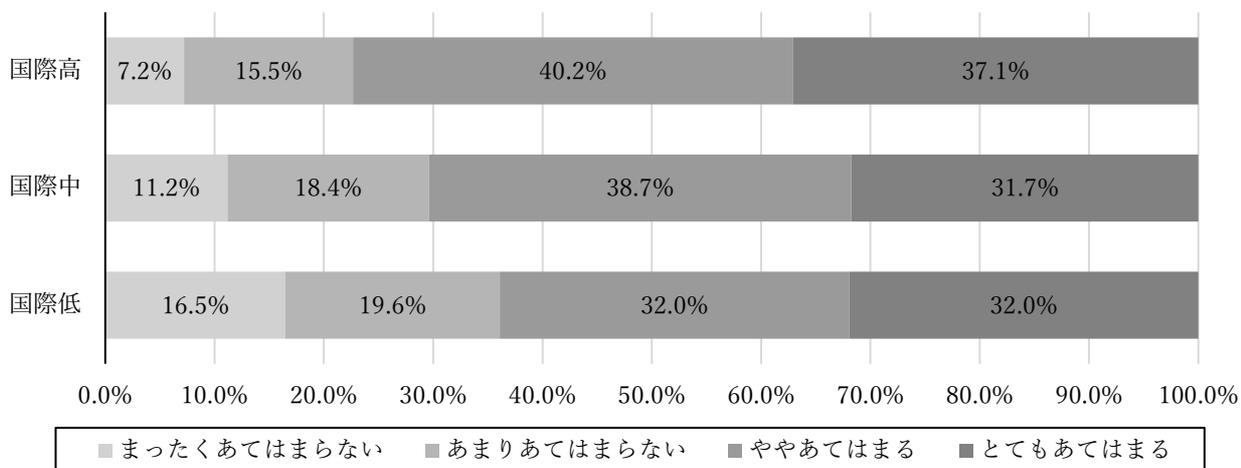


図 2-12 受験理由\_伝統・校風が好きだから (国際タイプ別)

・国際化が進んでいるから

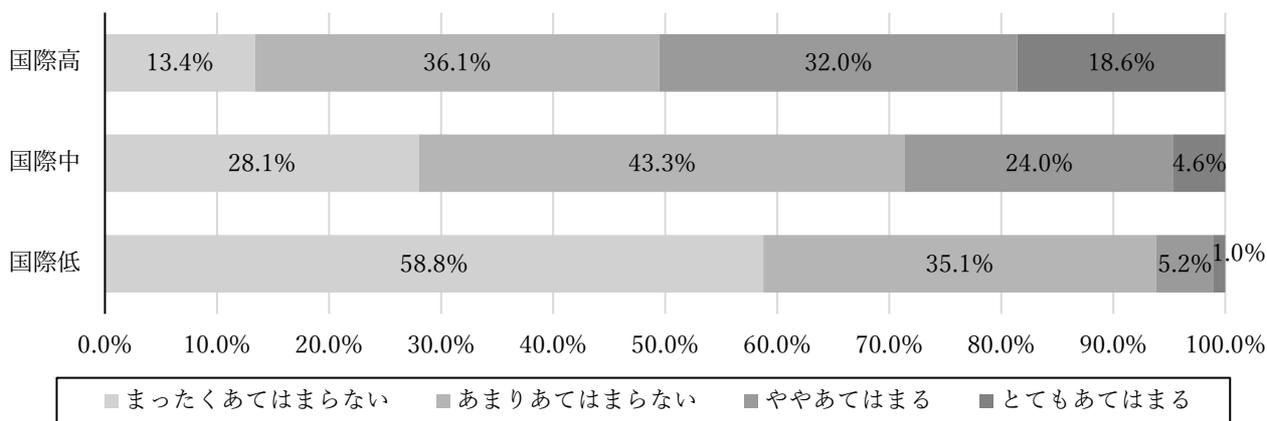


図 2-13 受験理由\_国際化が進んでいるから (国際タイプ別)

・中学3年の時の成績

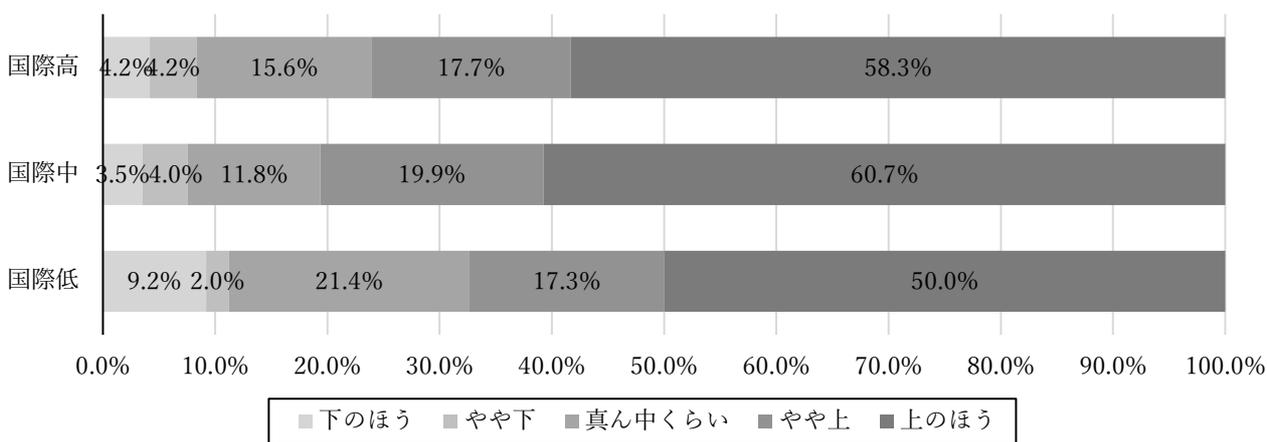


図 2-14 中学3年の時の成績 (国際タイプ別)

・高校3年の時の成績

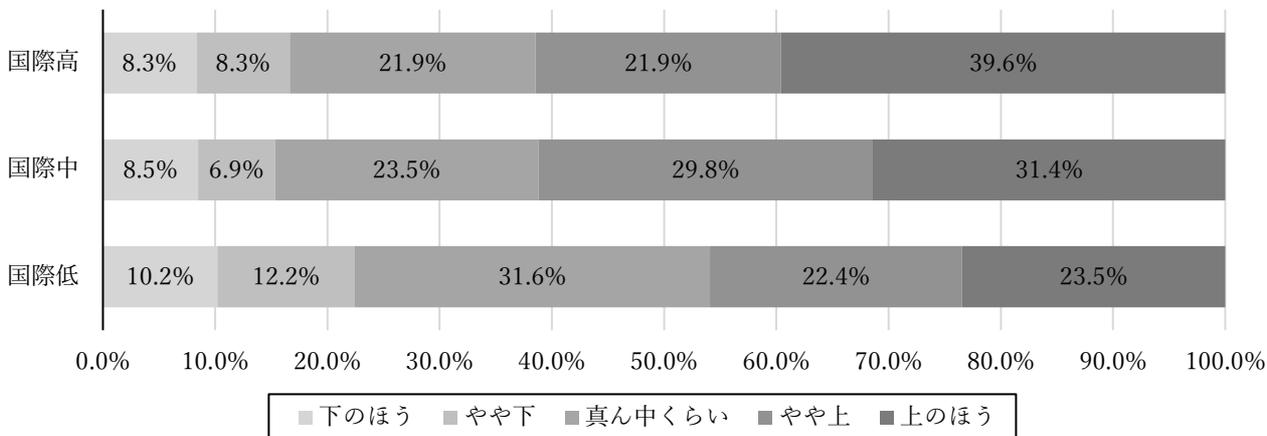


図 2-15 高校3年の時の成績 (国際タイプ別)

- ・少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した

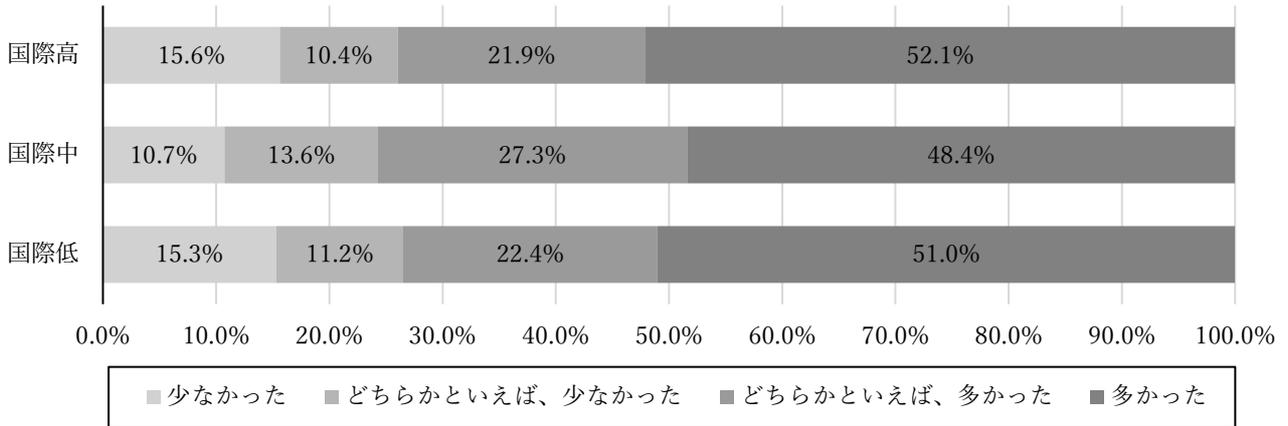


図 2-16 中学時の経験（1）勤勉性（国際タイプ別）

- ・学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ

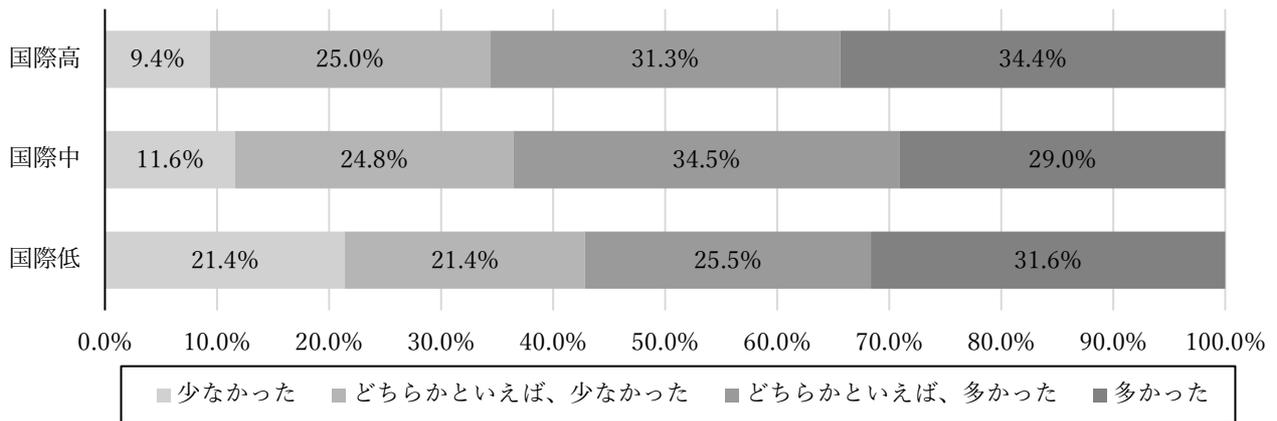


図 2-17 中学時の経験（2）まじめさ（国際タイプ別）

- ・なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた

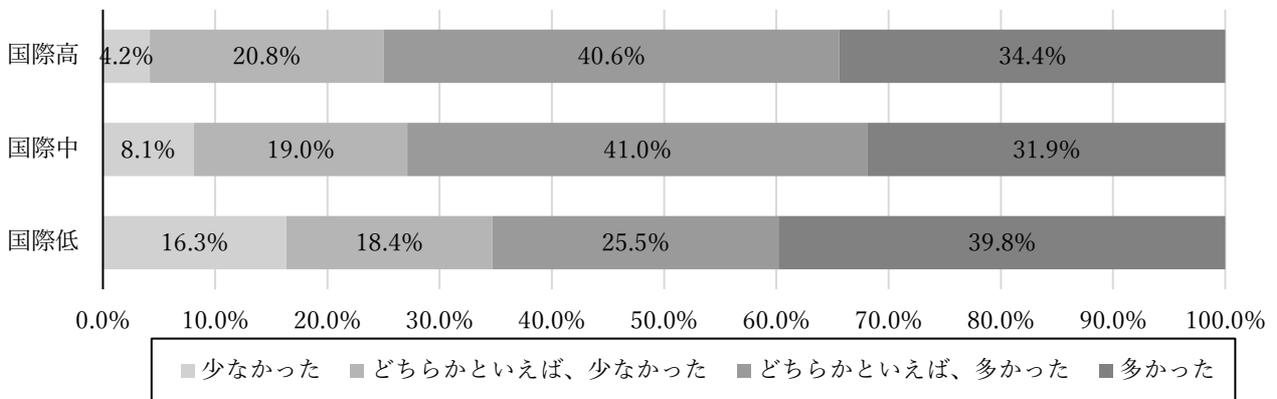


図 2-18 中学時の経験（3）忍耐力（国際タイプ別）

・高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。

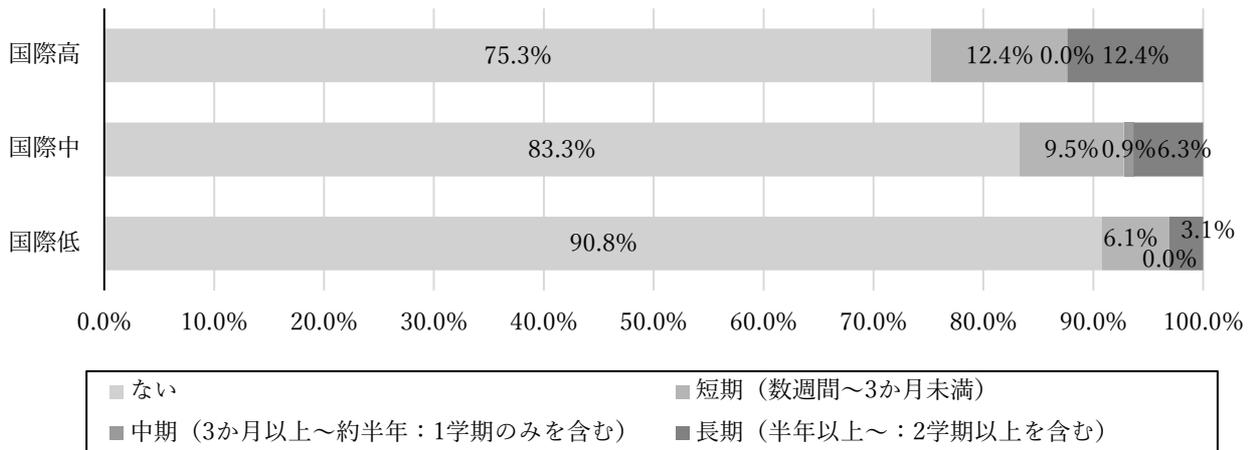


図 2-19 高校卒業までの海外経験

### 2-3. スループット

・専門科目

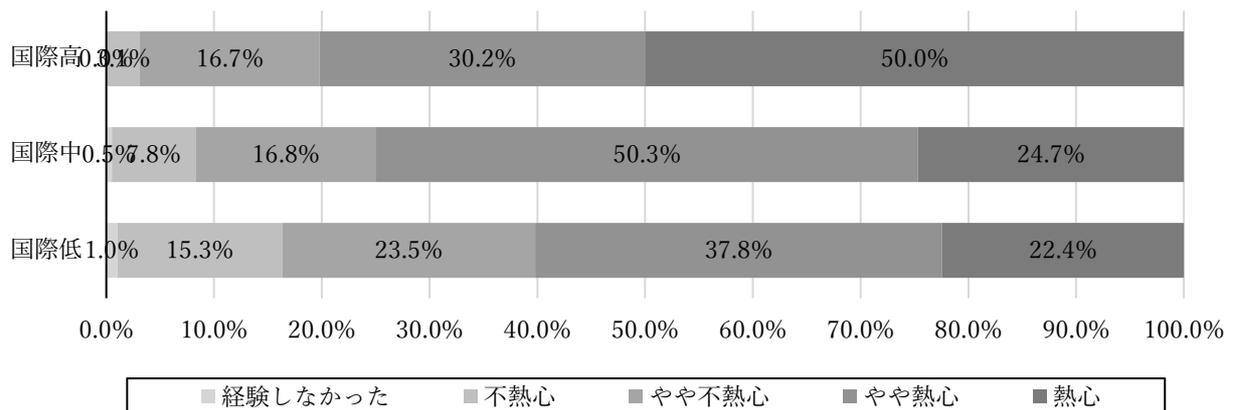


図 2-20 在学時の活動の熱心さ\_\_専門科目 (国際タイプ別)

・一般科目

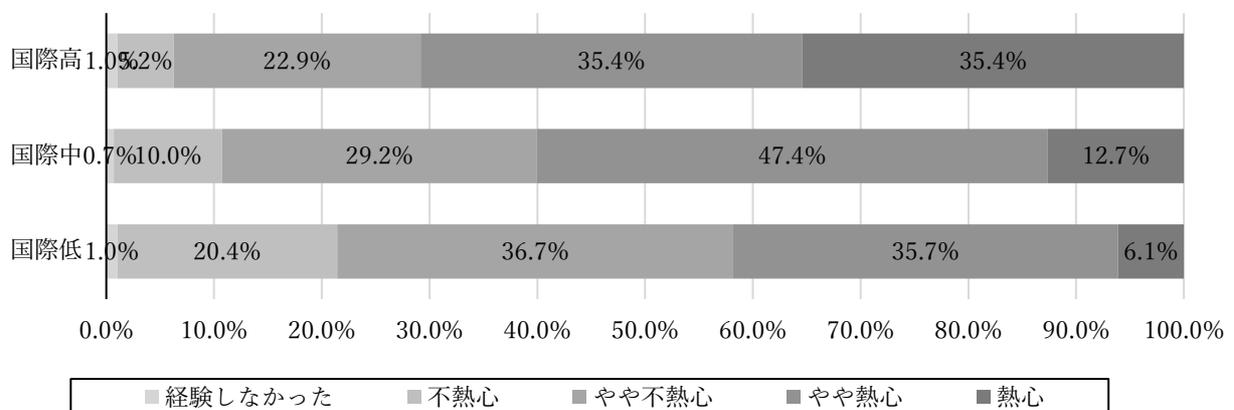


図 2-21 在学時の活動の熱心さ\_\_一般教育科目 (国際タイプ別)

・ゼミ

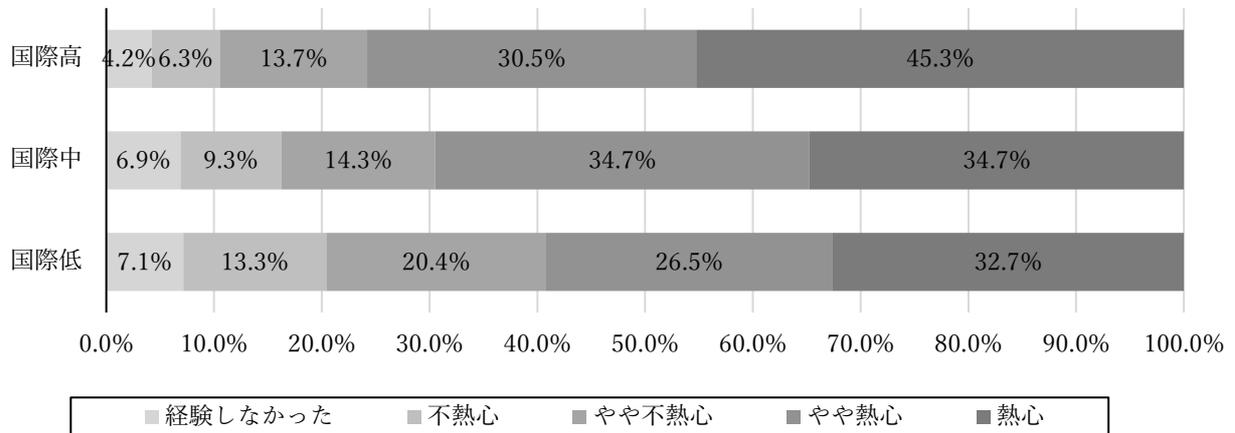


図 2-22 在学時の活動の熱心さ\_\_ゼミ (国際タイプ別)

・卒業論文作成

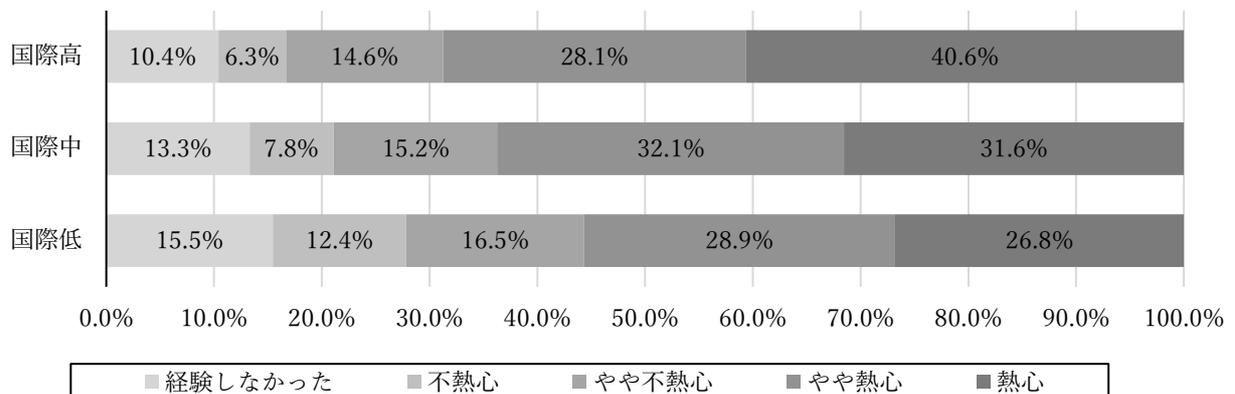


図 2-23 在学時の活動の熱心さ\_\_卒業論文作成 (国際タイプ別)

・部活動、サークル活動

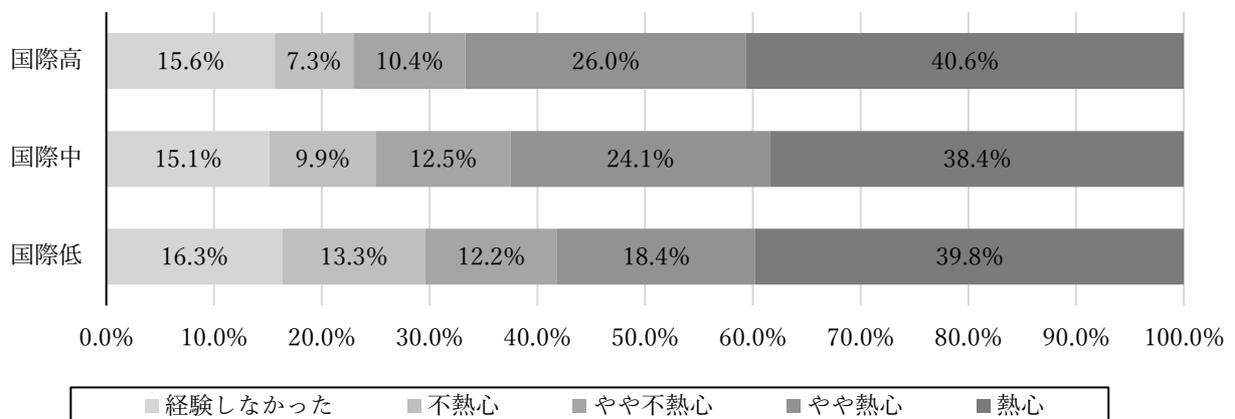


図 2-24 在学時の活動の熱心さ\_\_部活動、サークル活動 (国際タイプ別)

・学内のアルバイト

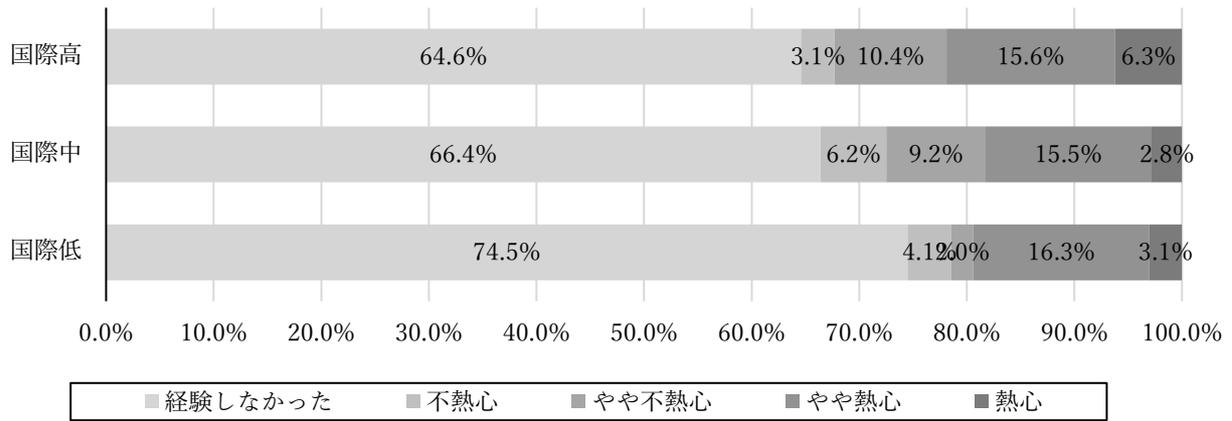


図 2-25 在学時の活動の熱心さ\_\_学内のアルバイト (国際タイプ別)

・学外のアルバイト・定職

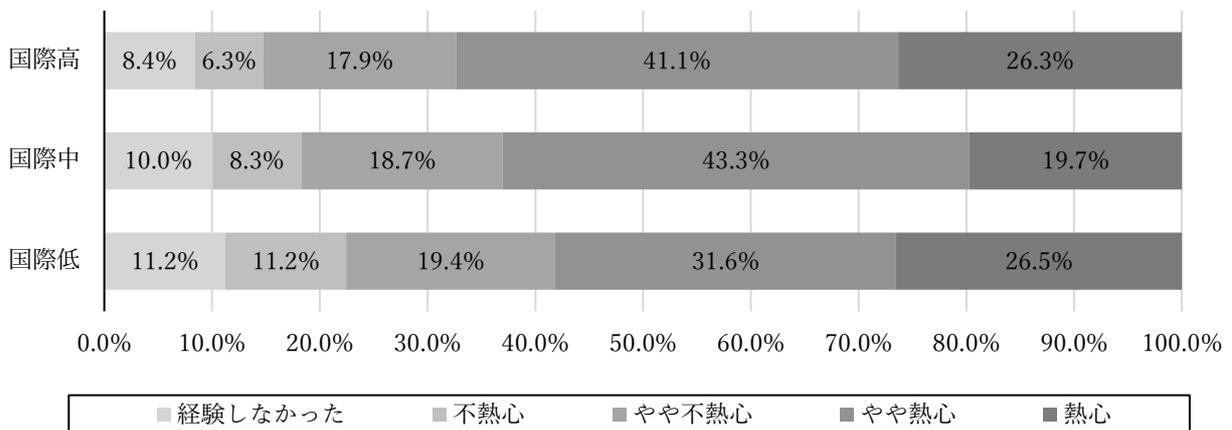


図 2-26 在学時の活動の熱心さ\_\_学外のアルバイト・定職 (国際タイプ別)

・ボランティア

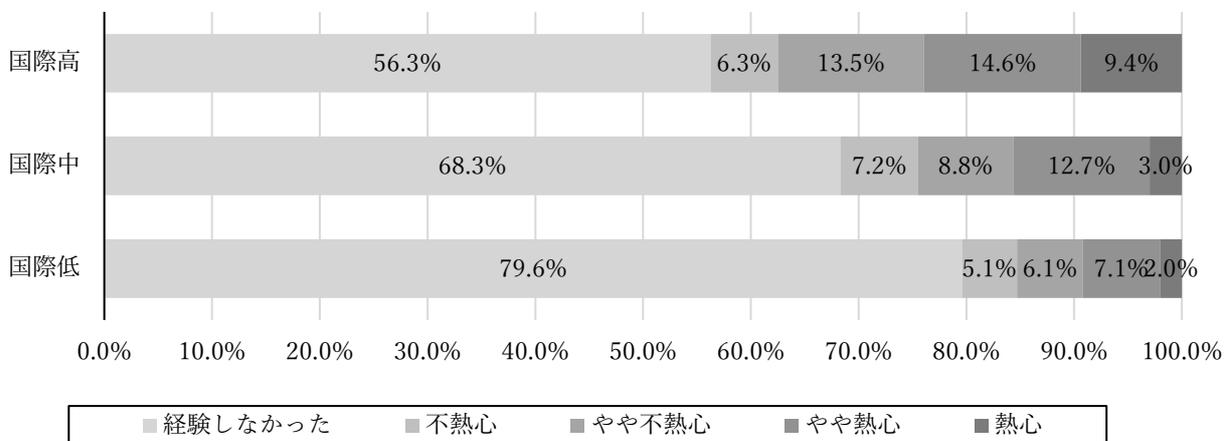


図 2-27 在学時の活動の熱心さ\_\_ボランティア (国際タイプ別)

・インターンシップ

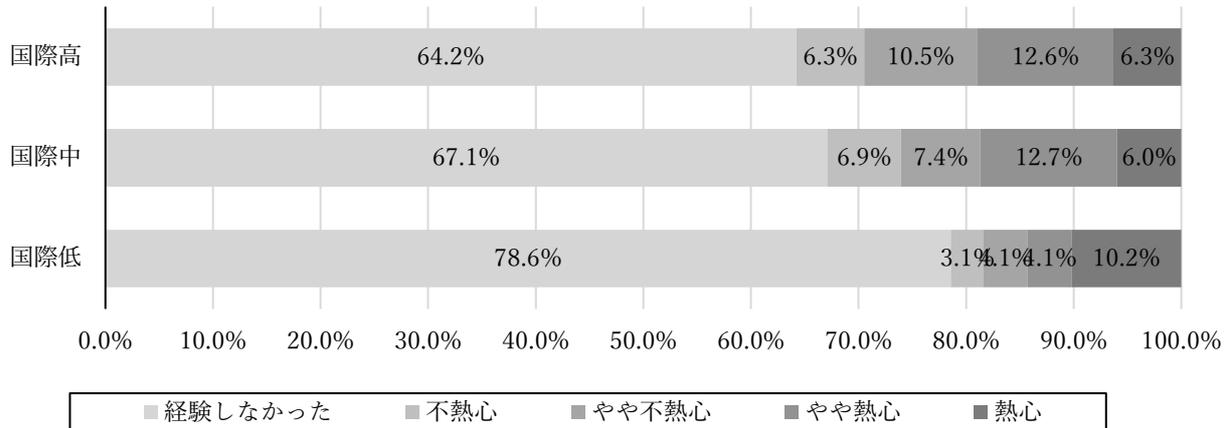


図 2-28 在学時の活動の熱心さ\_\_インターンシップ (国際タイプ別)

・早稲田大学以外での勉強

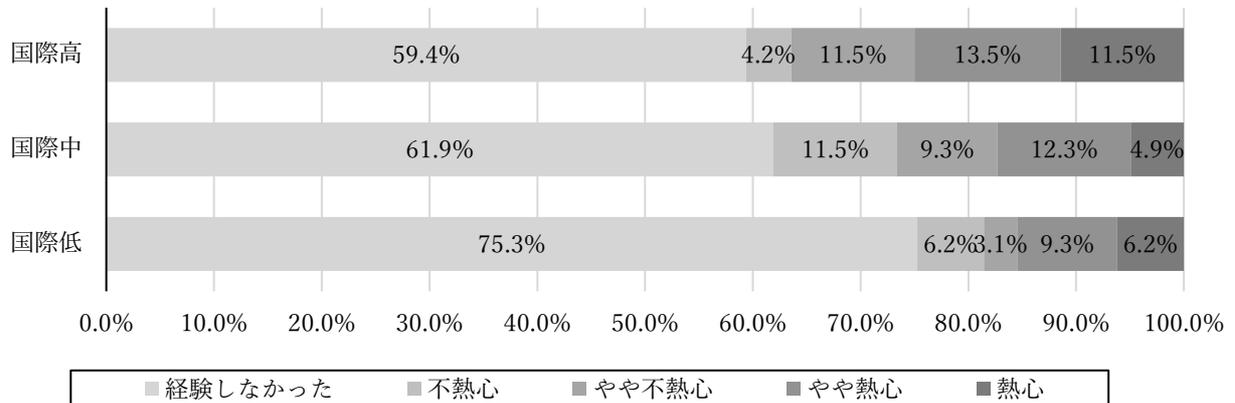


図 2-29 在学時の活動の熱心さ\_\_早稲田大学以外での勉強 (国際タイプ別)

・資格取得や教職、国家試験勉強

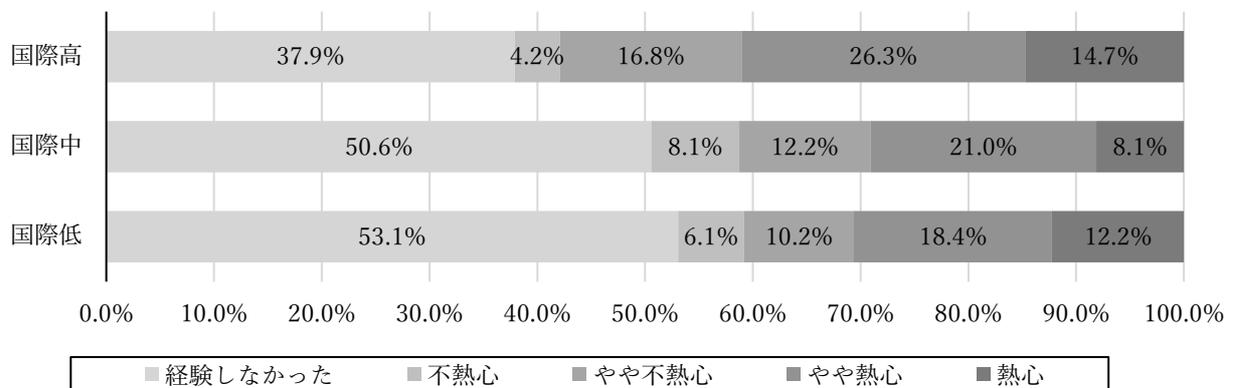


図 2-30 在学時の活動の熱心さ\_\_資格取得や教職、国家試験勉強 (国際タイプ別)

・大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）

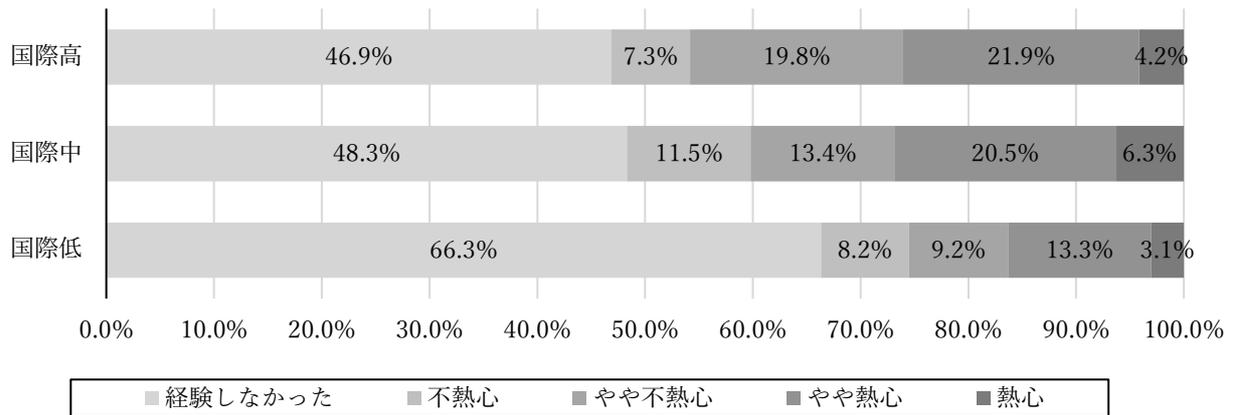


図 2-31 在学時の活動の熱心さ\_\_大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）（国際タイプ別）

・図書館を利用した

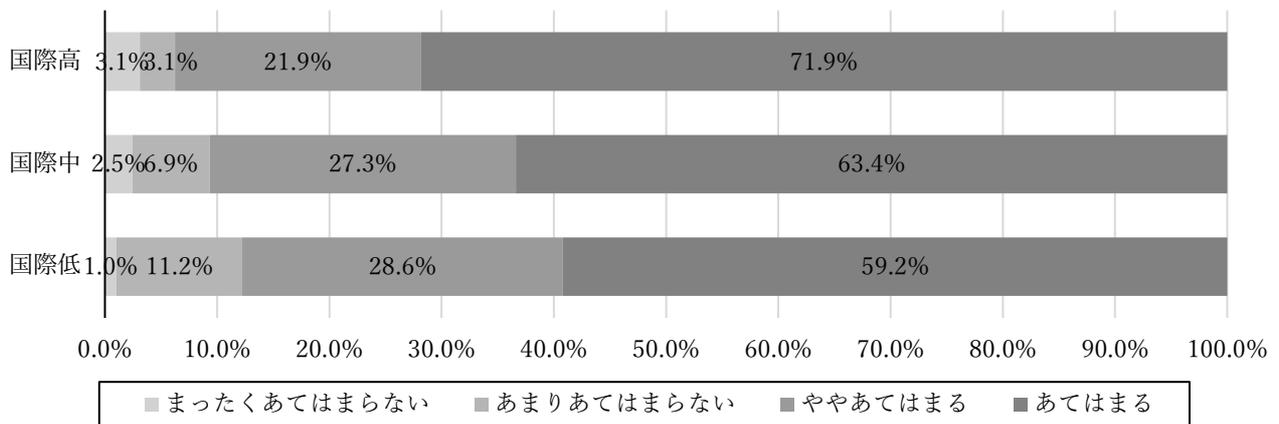


図 2-32 在学時の活動\_\_図書館の利用（国際タイプ別）

・読書（漫画や雑誌を除く）をした

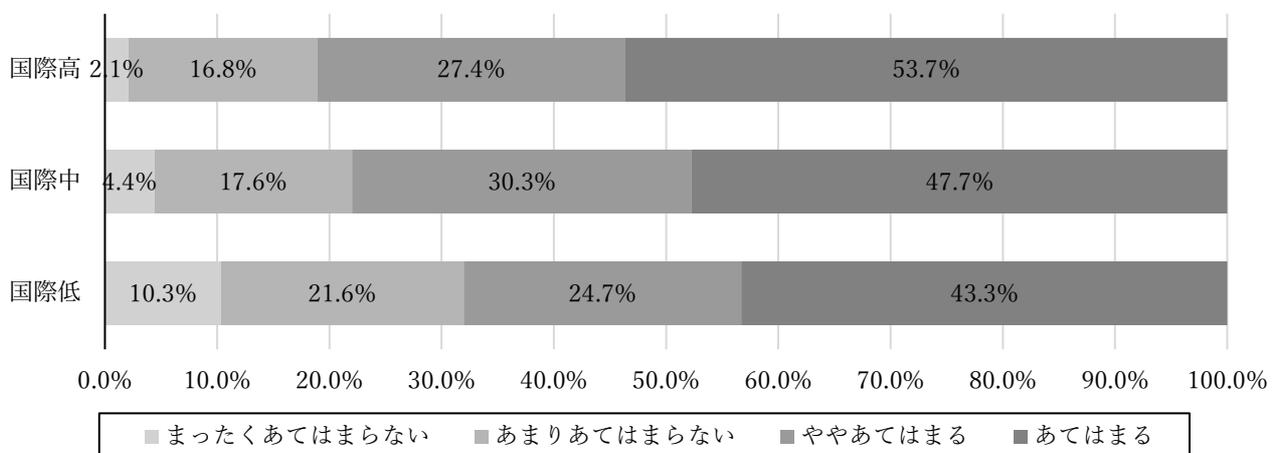


図 2-33 在学時の活動\_\_読書（国際タイプ別）

・自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした

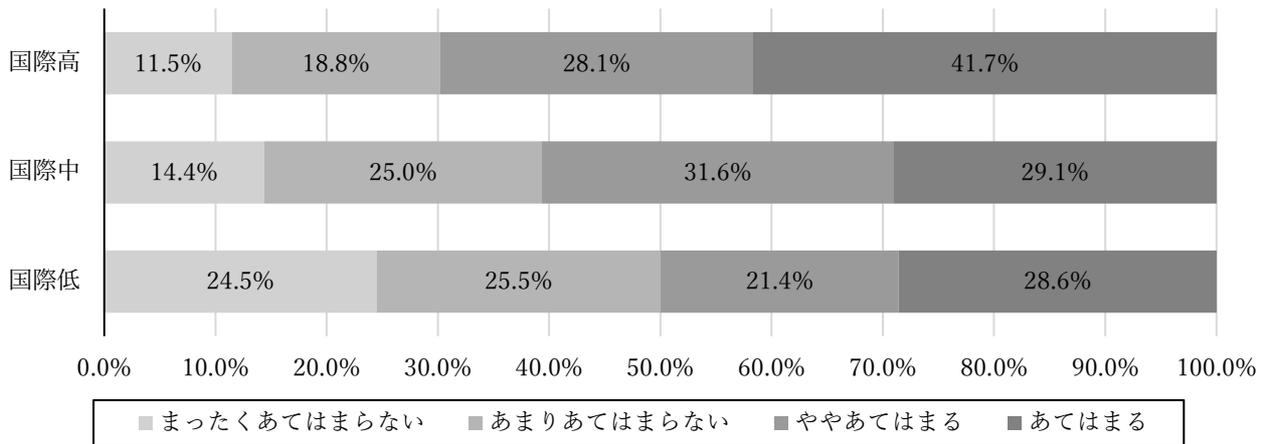


図 2-34 在学時の活動\_研究・発表 (国際タイプ別)

・授業内容について、他の学生と議論した

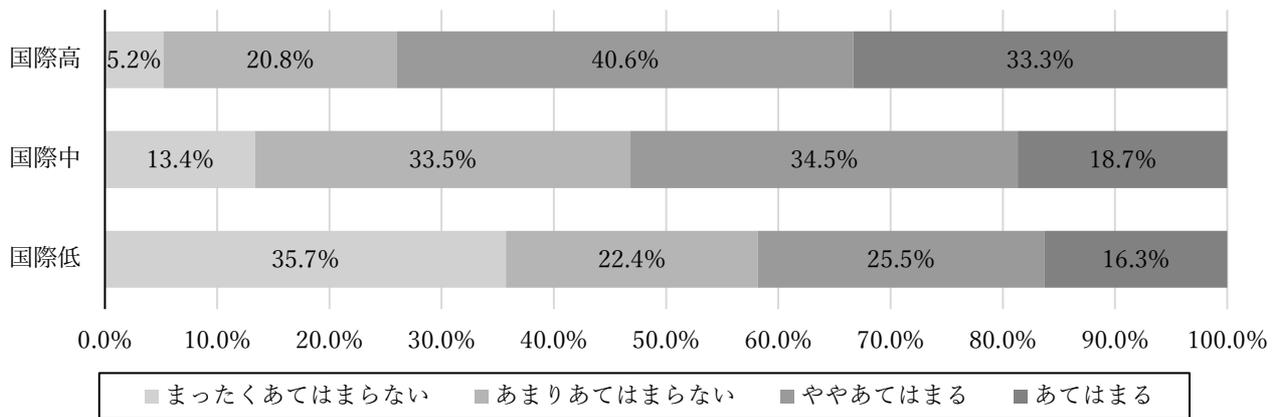


図 2-35 在学時の活動\_授業内容についての学生との議論 (国際タイプ別)

・授業内容について、教員と議論した

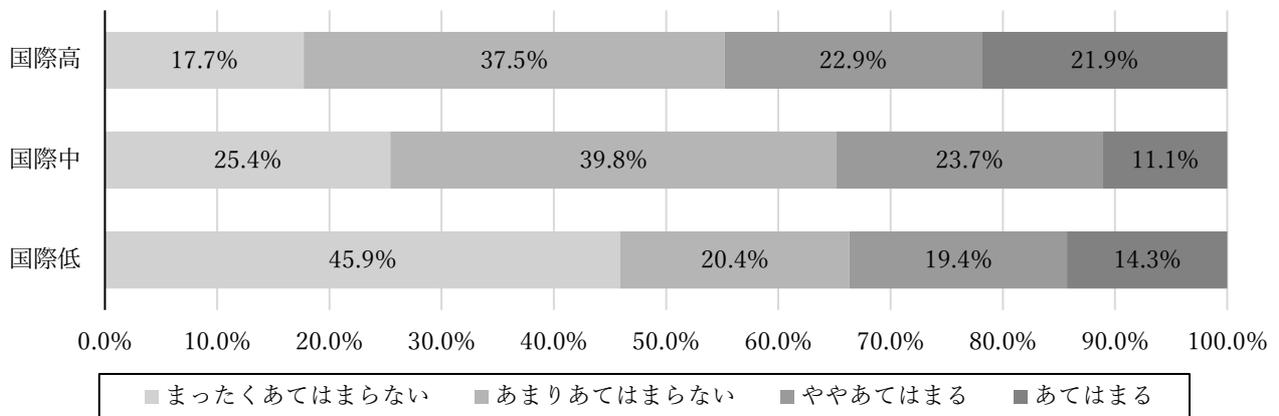


図 2-36 在学時の活動\_授業内容についての教員との議論 (国際タイプ別)

・語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした

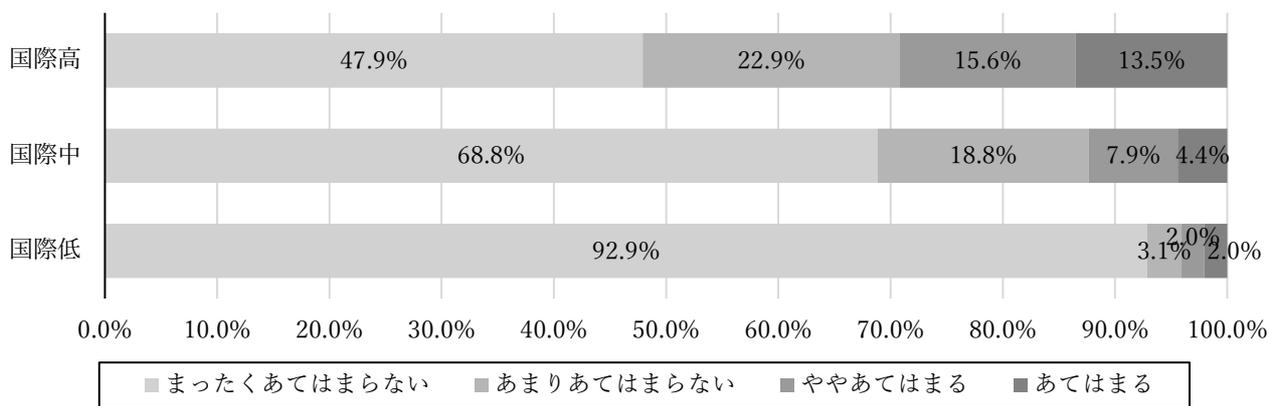


図 2-37 在学時の活動\_外国語での議論や発表（語学の授業以外）（国際タイプ別）

・留学生と一緒に学んだ

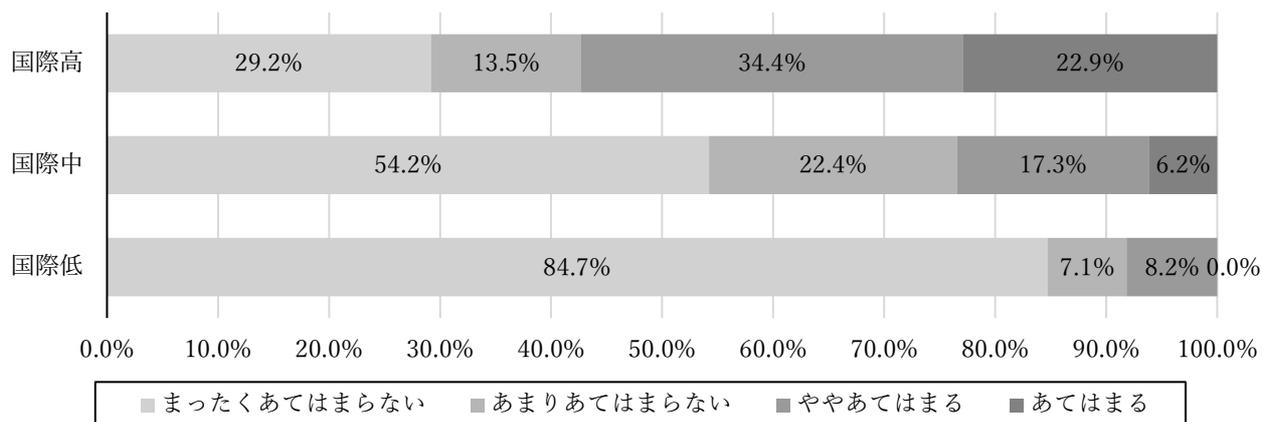


図 2-38 在学時の活動\_留学生との学習（国際タイプ別）

・授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）

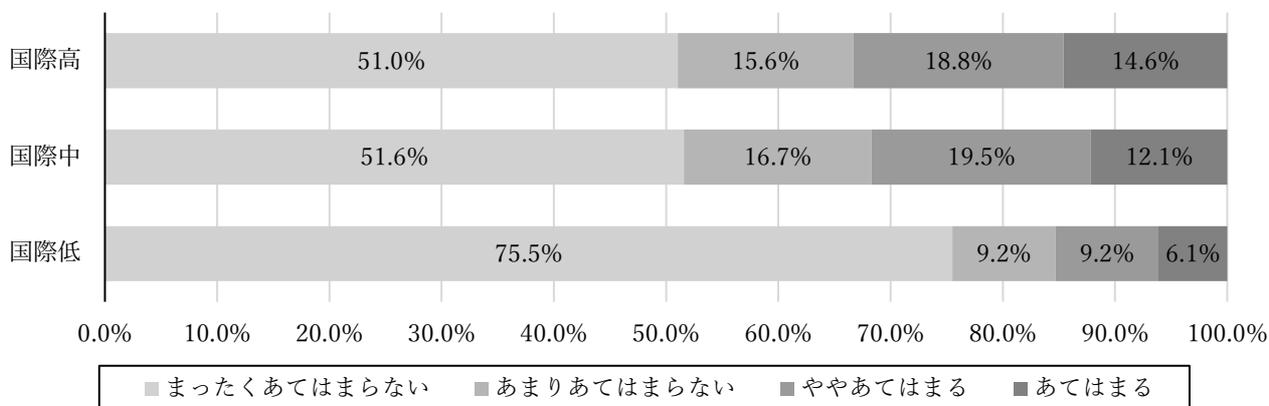


図 2-39 在学時の活動\_授業の一環としての大学外での学び（国際タイプ別）

・特別な理由なく授業を欠席した

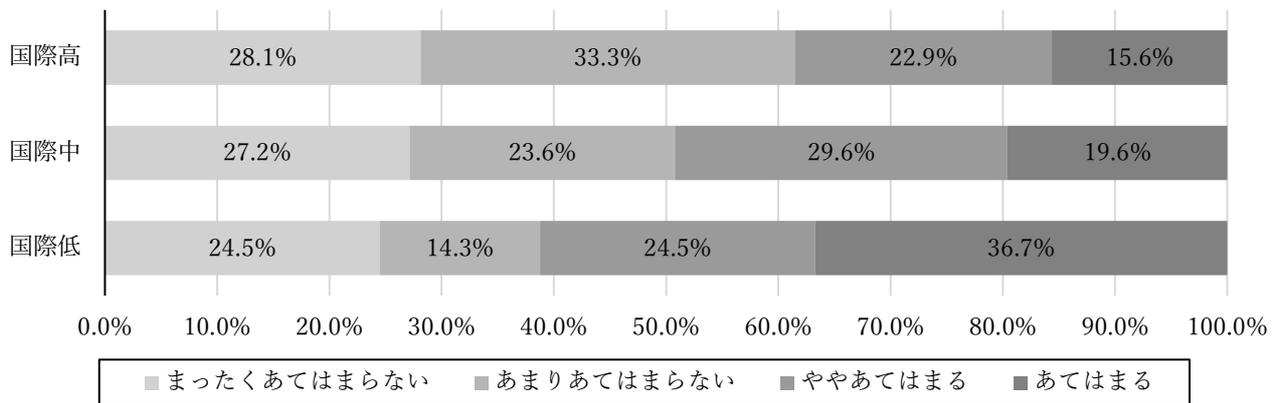


図 2-40 在学時の活動\_\_特別な理由のない授業の欠席（国際タイプ別）

・よい教員に巡り合えた

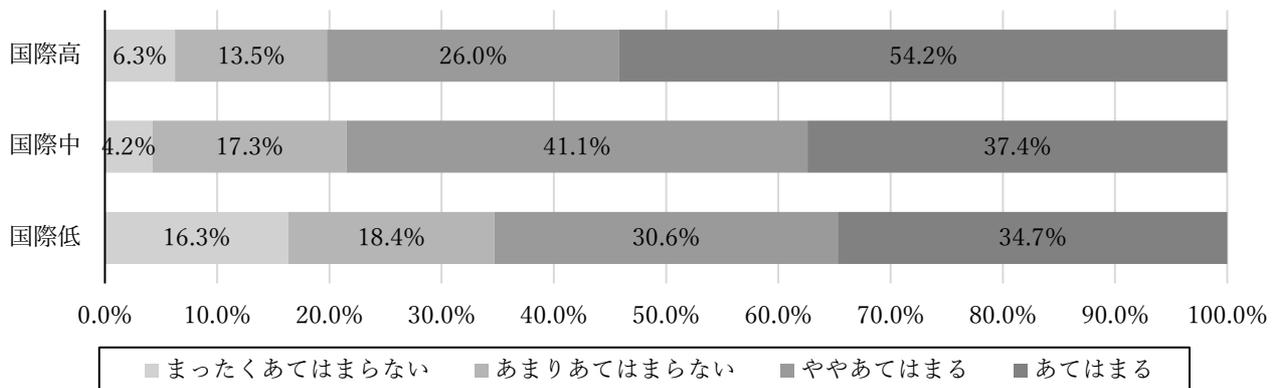


図 2-41 在学時の活動\_\_よい教員との出会い（国際タイプ別）

・大学（学部）在学中に留学をしたことはありますか。

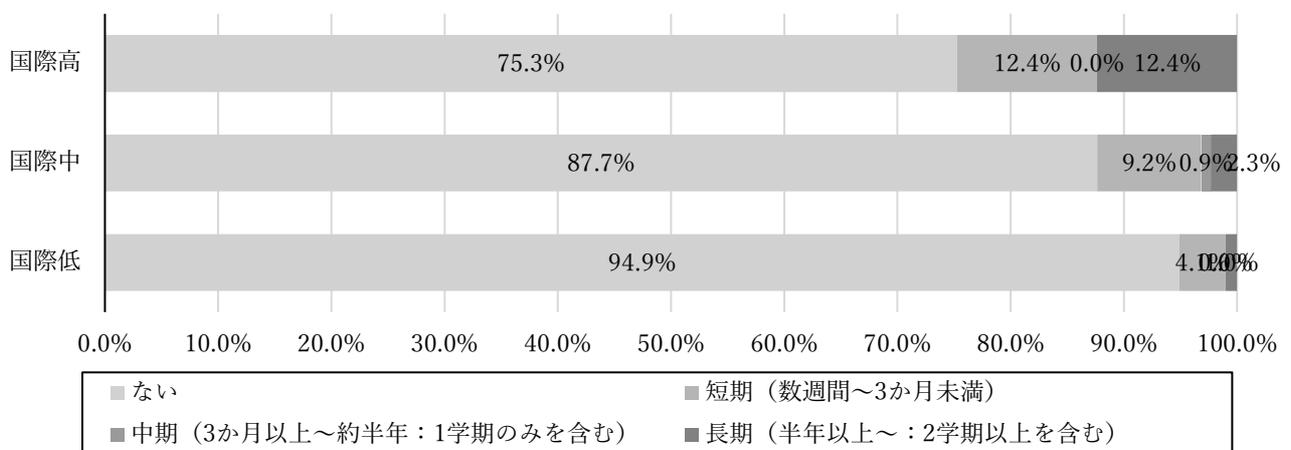


図 2-42 留学経験（国際タイプ別）

・学部の成績（1～2年）

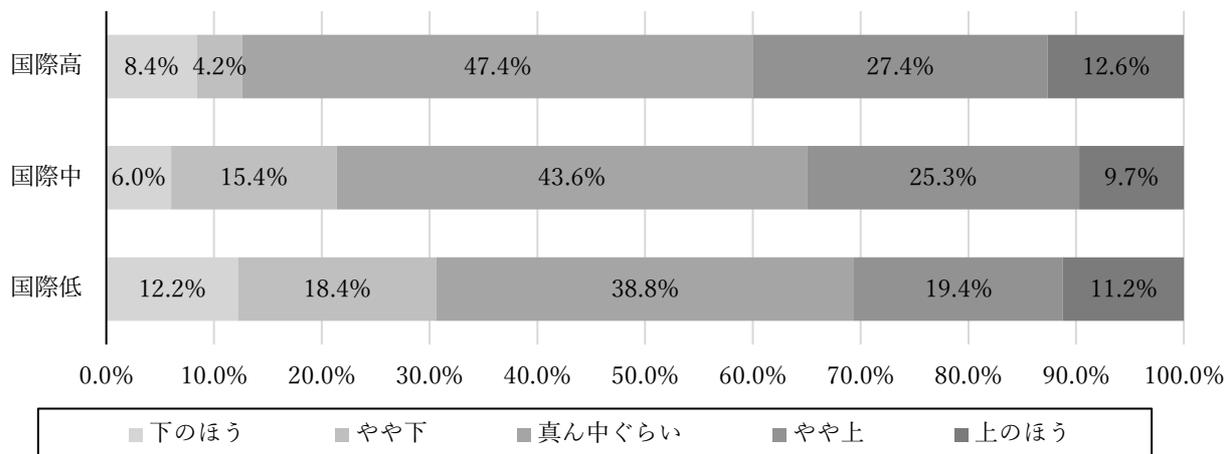


図2-43 在学時の成績（1～2年）（国際タイプ別）

・学部の成績（3～4年）

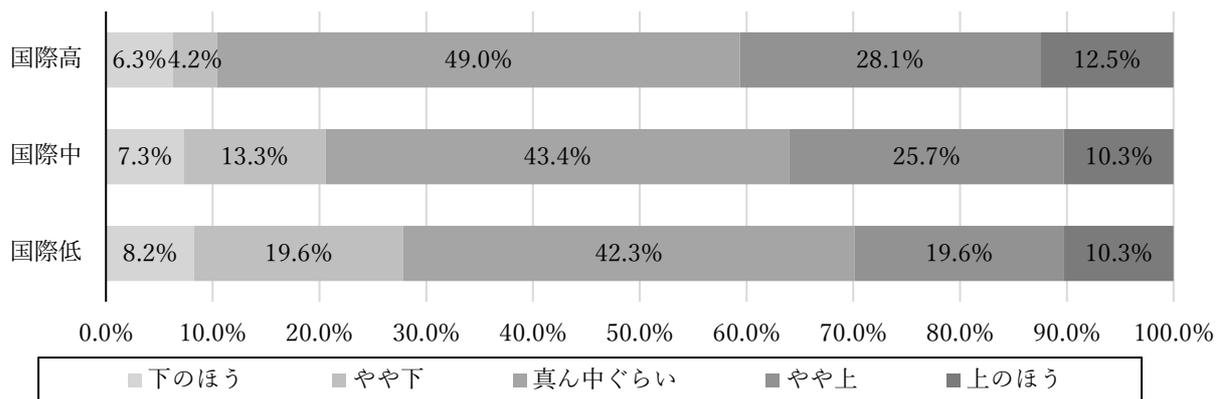


図2-44 在学時の成績（3～4年）（国際タイプ別）

## 2-4. アウトプット

- ・既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる

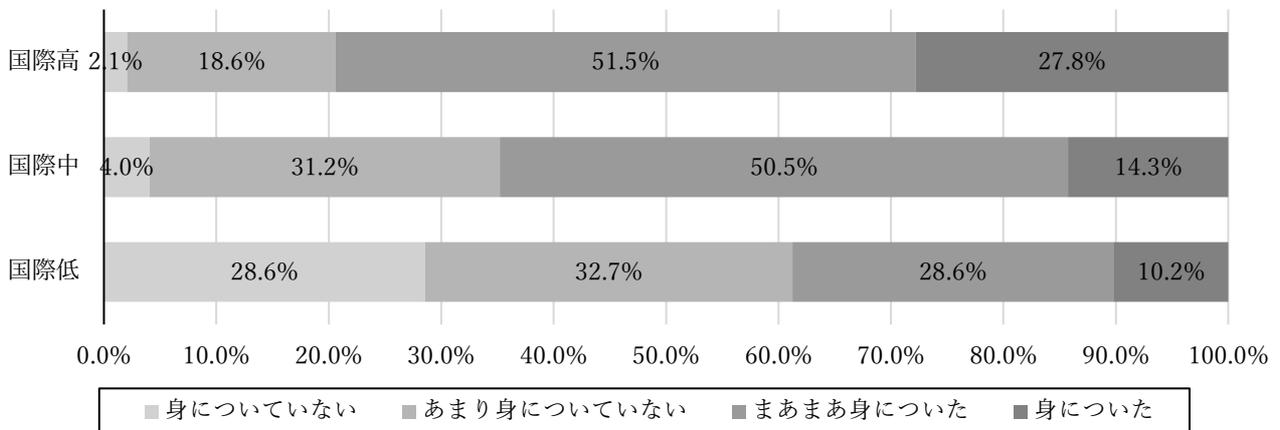


図2-45 学部で身につけたもの\_アイデア創出力（国際タイプ別）

- ・物事を論理的に考えることができる

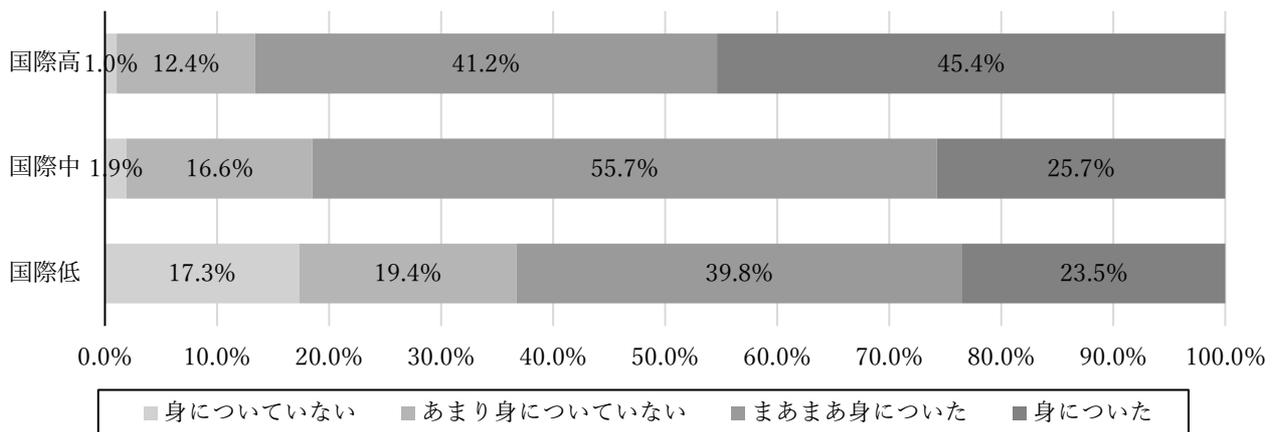


図2-46 学部で身につけたもの\_論理的思考力（国際タイプ別）

- ・課題の解決方法を提案できる

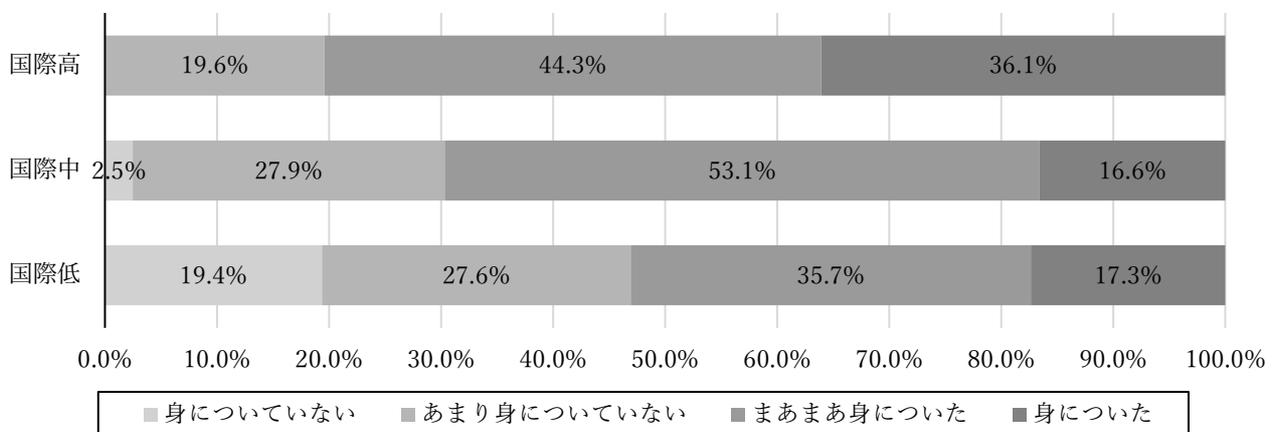


図2-47 学部で身につけたもの\_課題解決力（国際タイプ別）

・自分の考えを分かりやすく表現できる

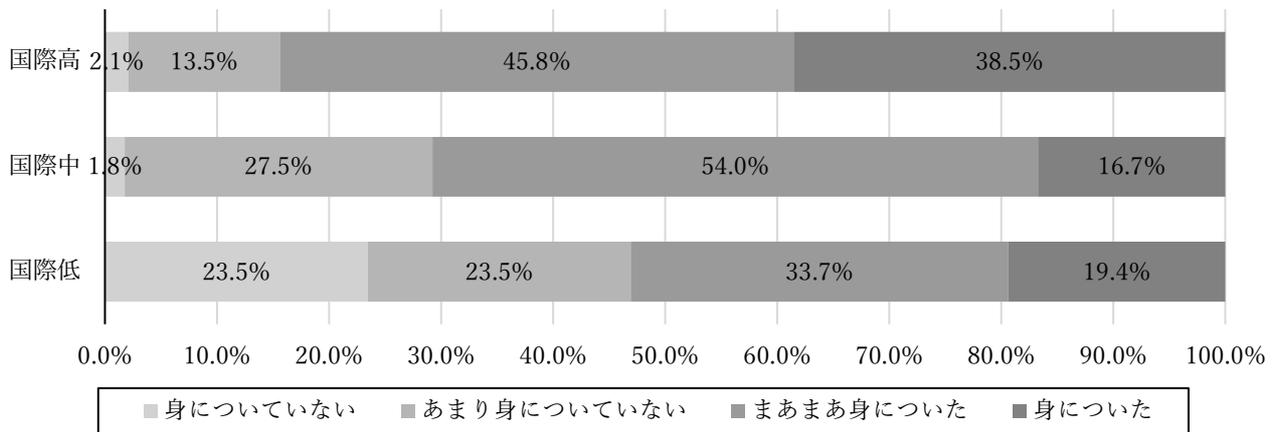


図 2-48 学部で身につけたもの\_表現力・プレゼンテーション能力 (国際タイプ別)

・相手の状況や考え方を尊重できる

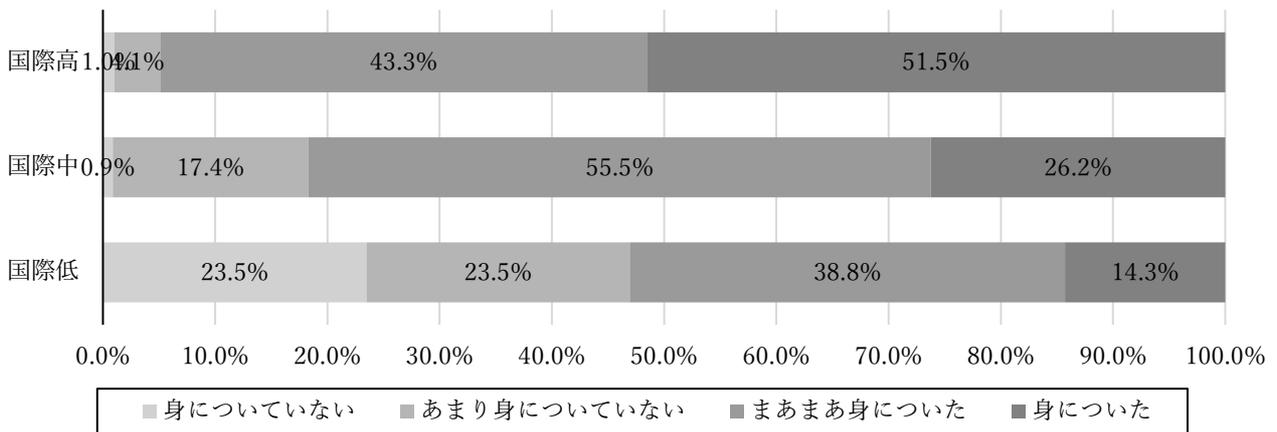


図 2-49 学部で身につけたもの\_相手の状況や考え方を尊重できる (国際タイプ別)

・物事を多面的に考えることができる

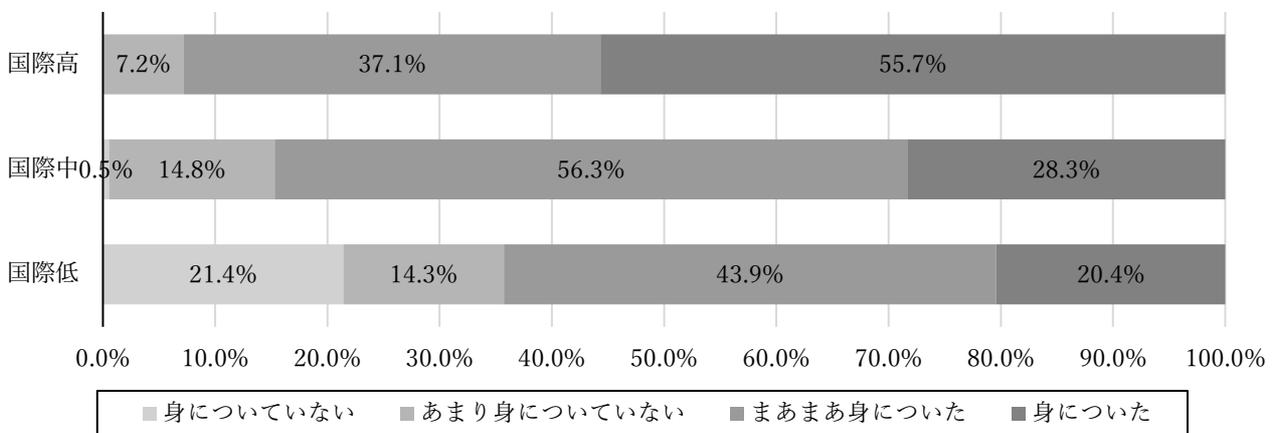


図 2-50 学部で身につけたもの\_物事を多面的に考えることができる (国際タイプ別)

・健全に批判することができる

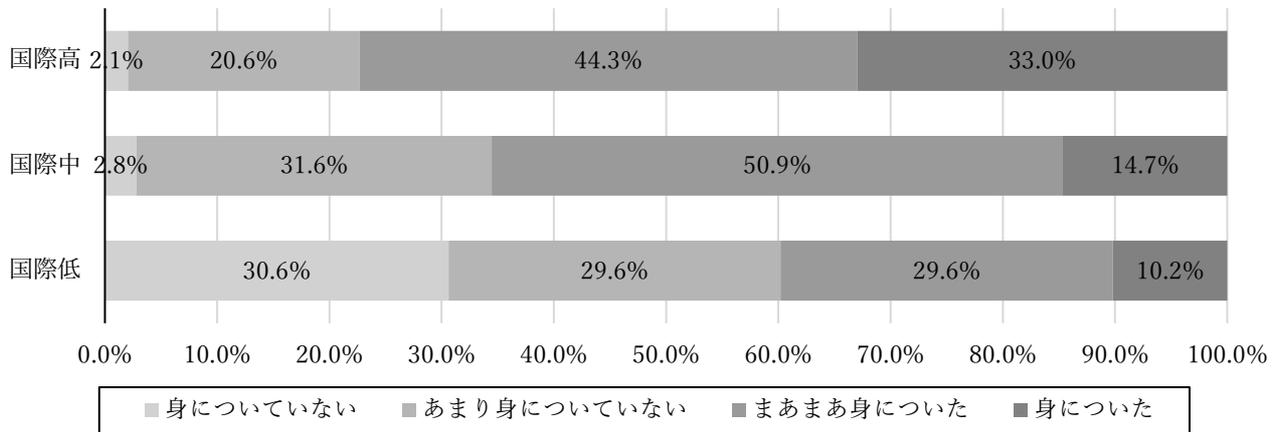


図 2-51 学部で身につけたもの\_\_健全に批判することができる (国際タイプ別)

・多様性を受け入れられる

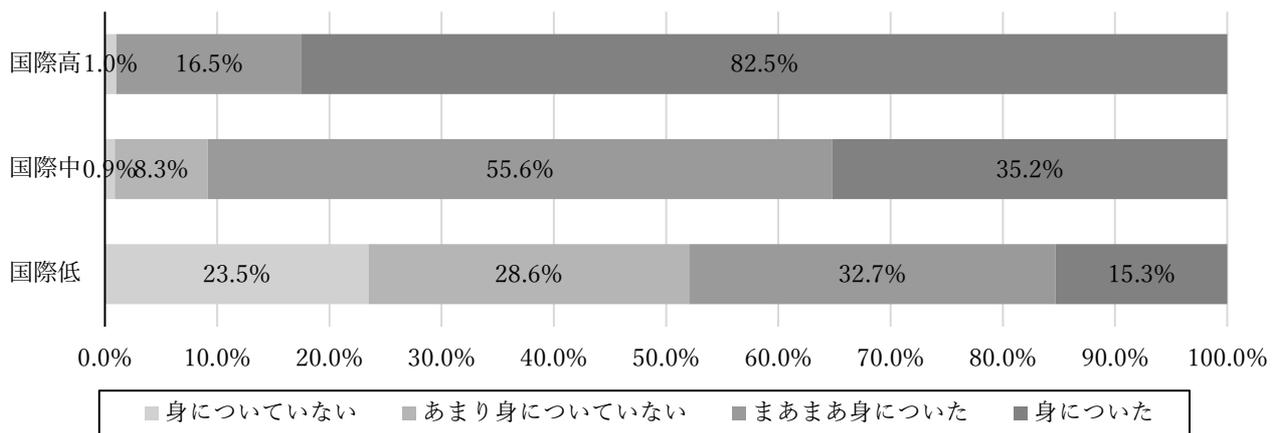


図 2-52 学部で身につけたもの\_\_多様性を受け入れられる (国際タイプ別)

・あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。

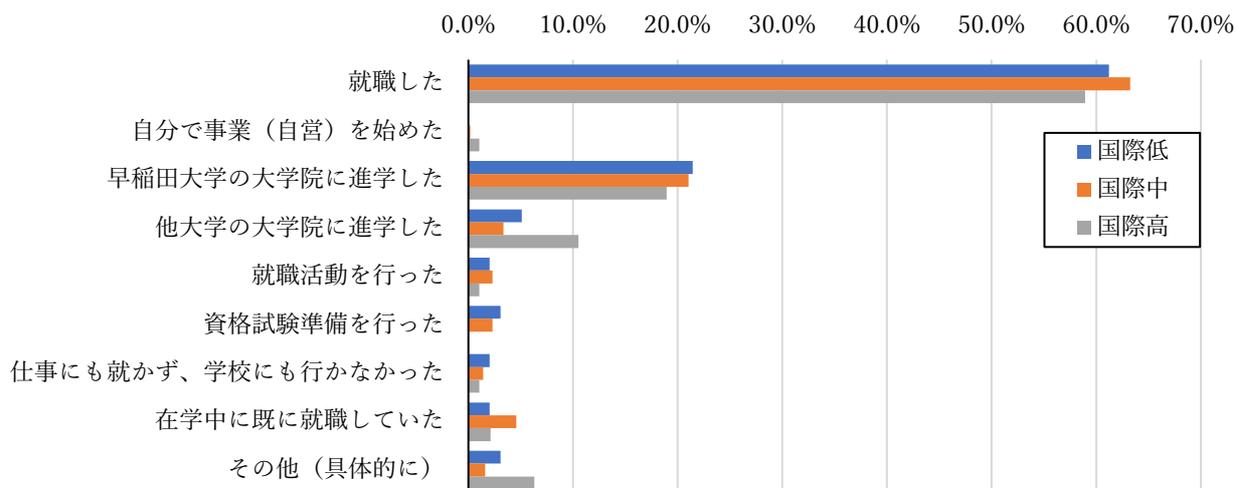


図 2-53 学部卒業後の進路選択（国際タイプ別）

## 2-5. 役立ち度

・専門科目

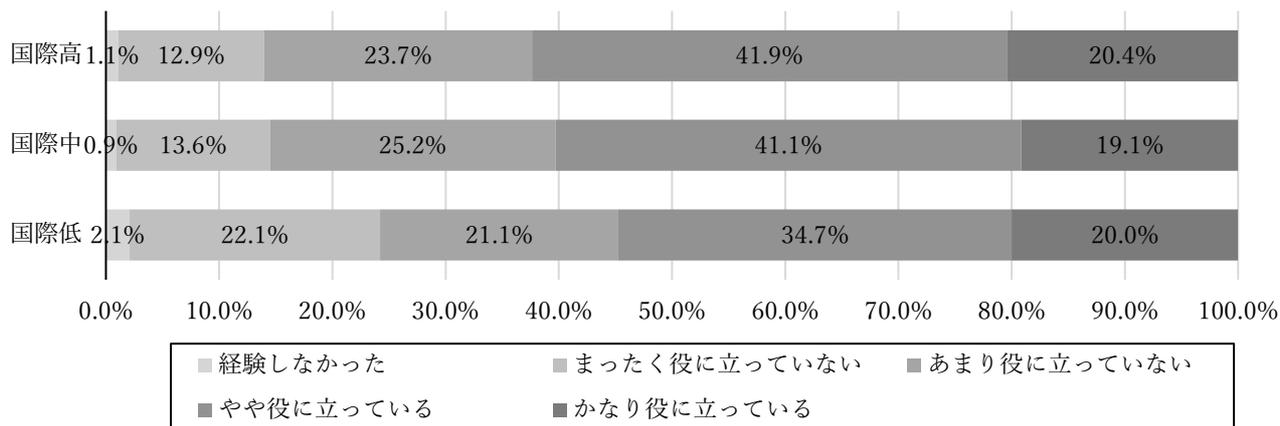


図 2-54 教育経験の役立ち度\_\_専門科目（国際タイプ別）

・一般教育科目

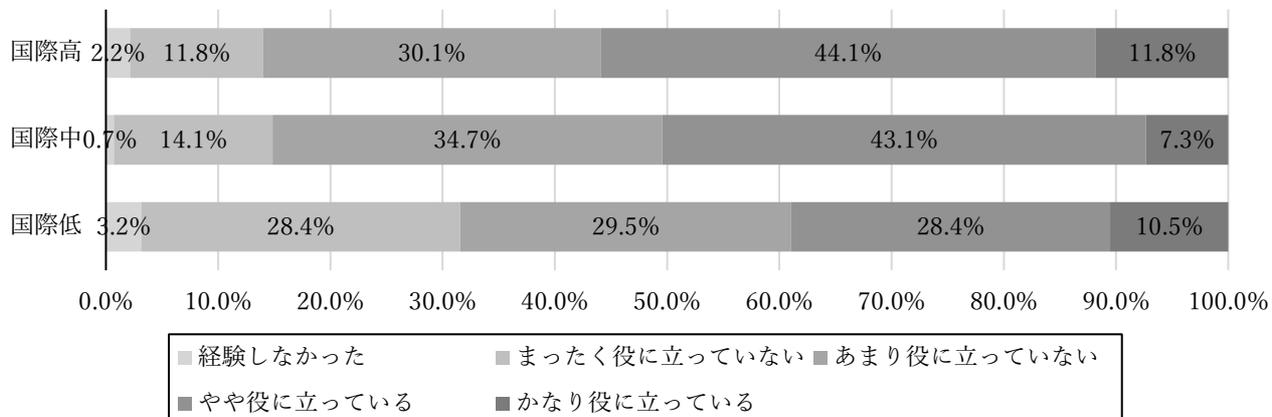


図 2-55 教育経験の役立ち度\_\_一般教育科目（国際タイプ別）

・ゼミ

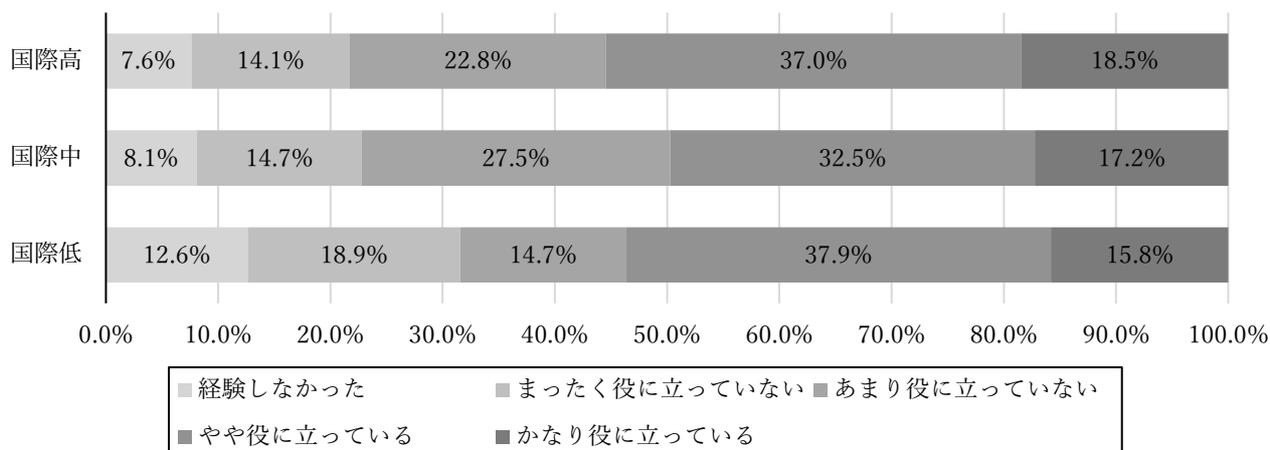


図 2-56 教育経験の役立ち度\_ゼミ (国際タイプ別)

・卒業論文作成

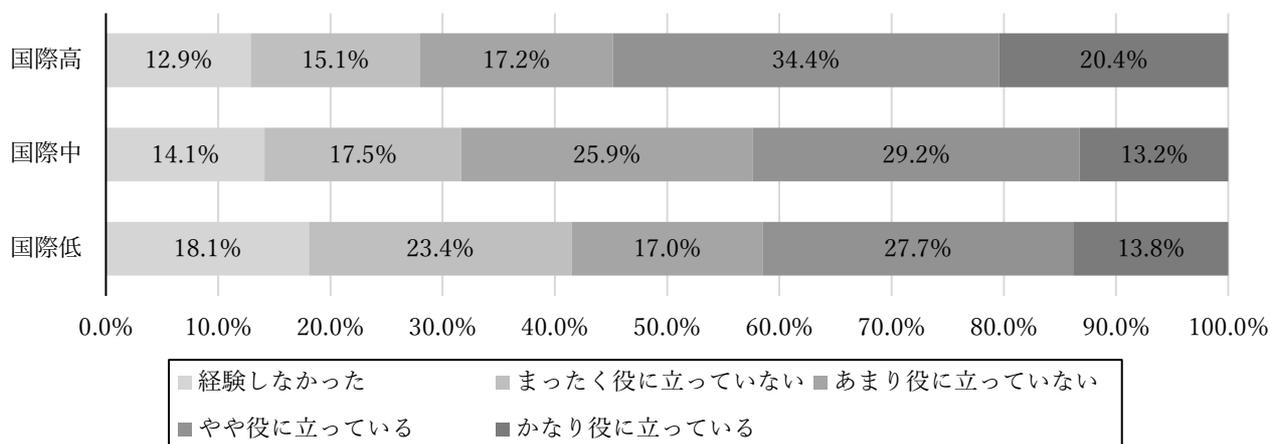


図 2-57 教育経験の役立ち度\_卒業論文作成 (国際タイプ別)

・部活動、サークル活動

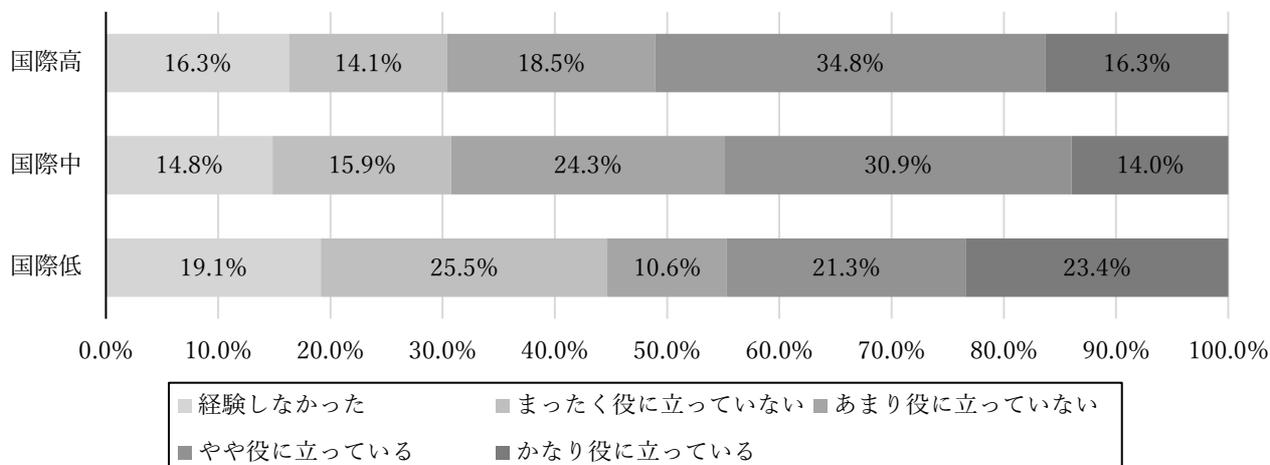


図 2-58 大学時の経験の役立ち度\_部活動、サークル活動 (国際タイプ別)

・学内のアルバイト

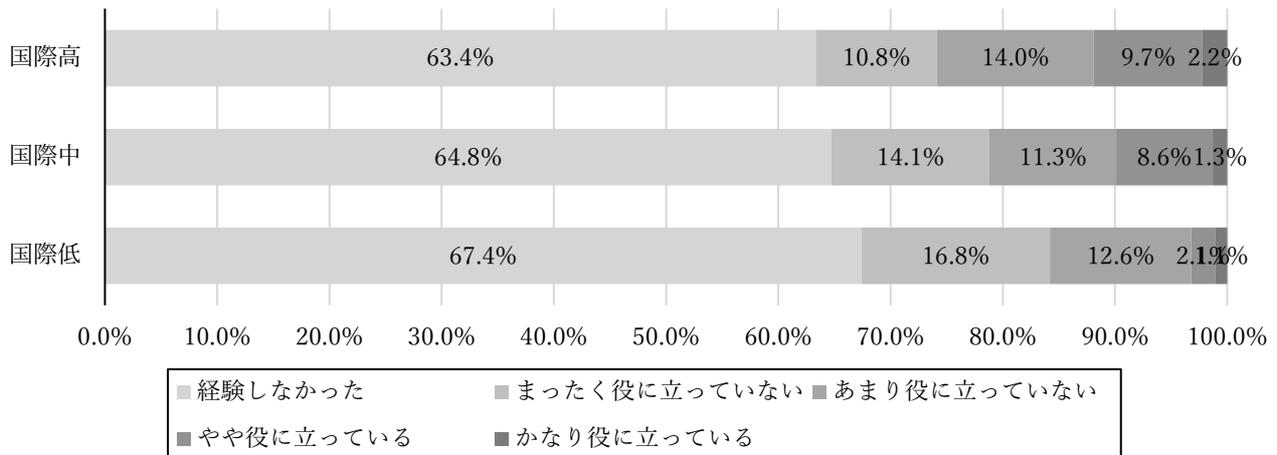


図 2-59 大学時の経験の役立ち度\_\_学内のアルバイト (国際タイプ別)

・学外のアルバイト

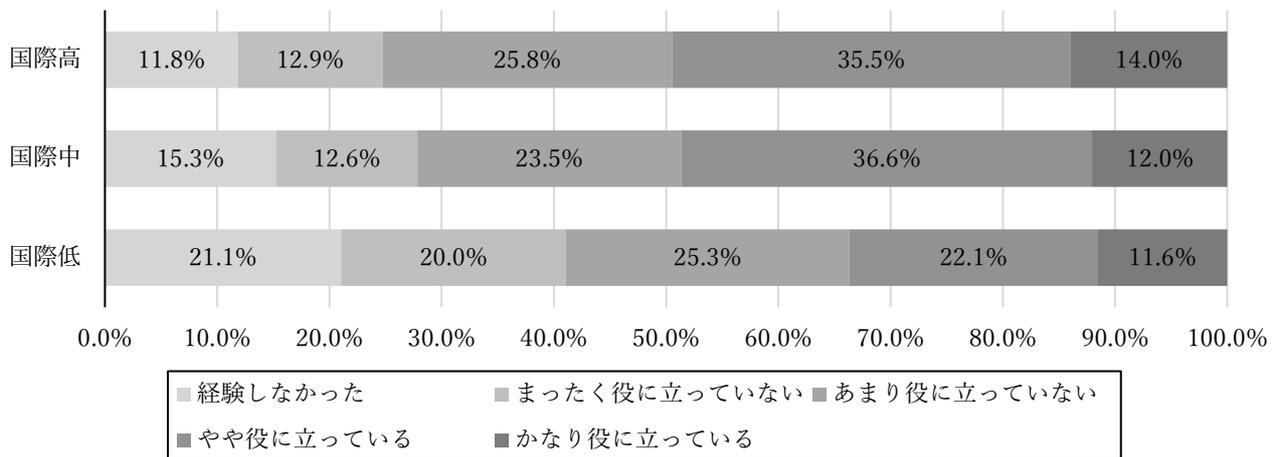


図 2-60 大学時の経験の役立ち度\_\_学外のアルバイト (国際タイプ別)

・留学

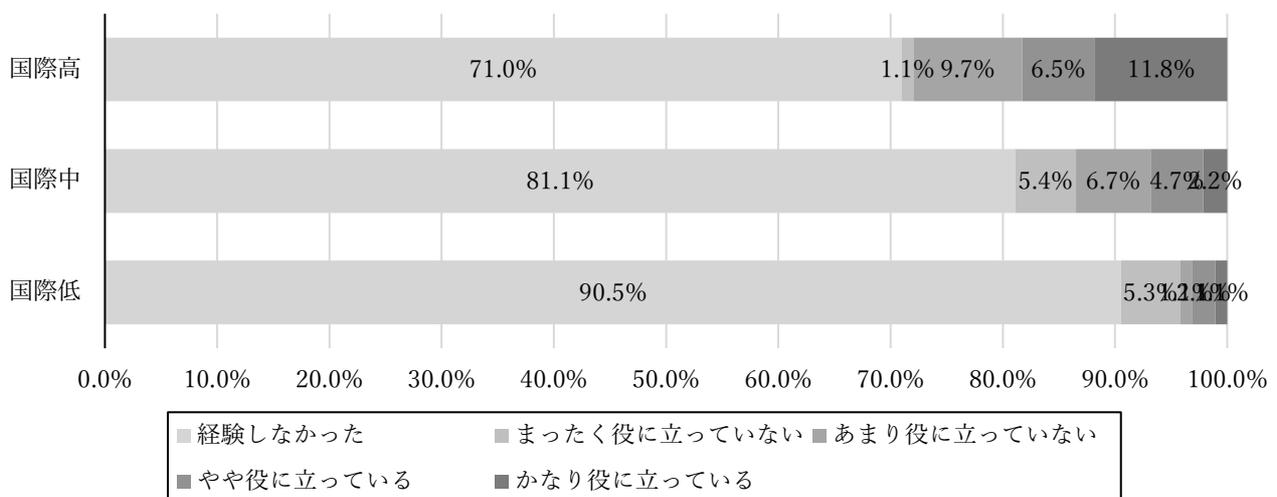


図 2-61 大学時の経験の役立ち度\_\_留学 (国際タイプ別)

・ボランティア

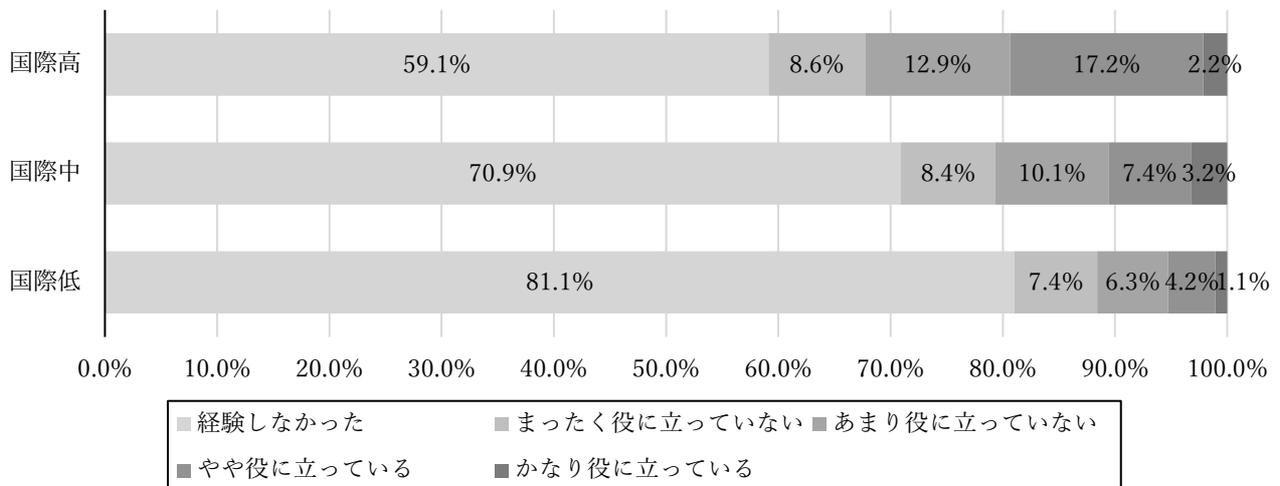


図 2-62 大学時の経験の役立ち度\_\_ボランティア (国際タイプ別)

・インターンシップ

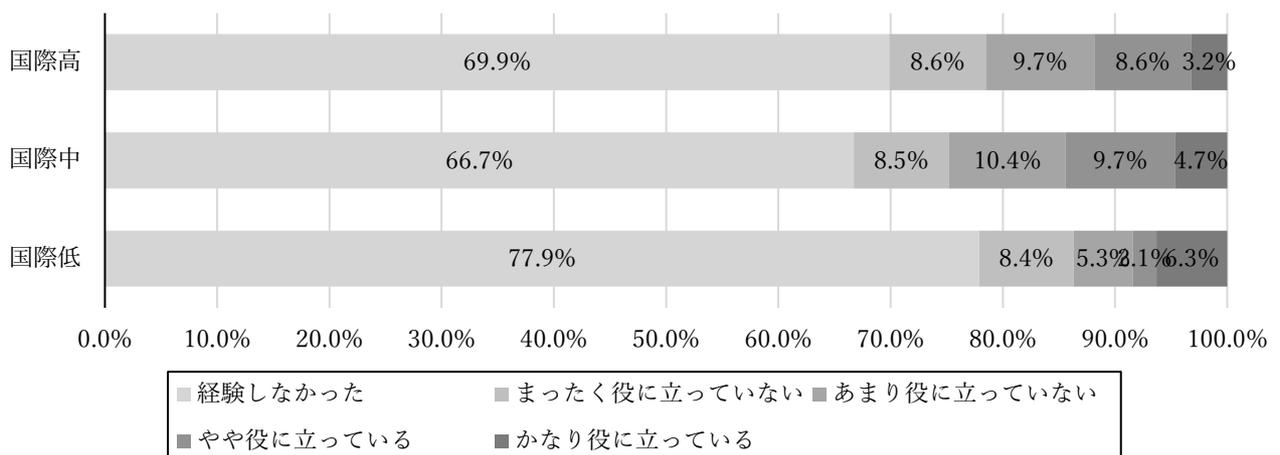


図 2-63 大学時の経験の役立ち度\_\_インターンシップ (国際タイプ別)

・早稲田大学以外での勉強

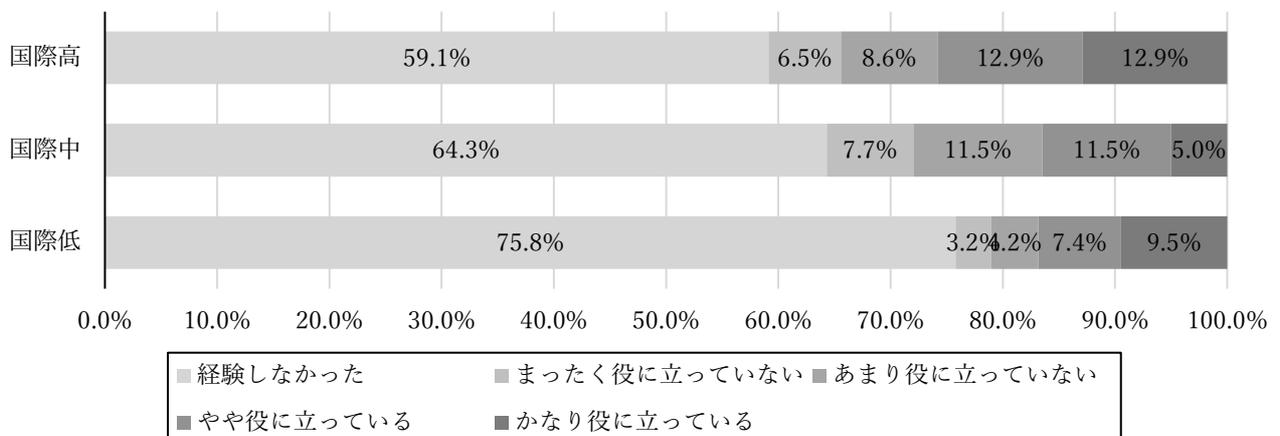


図 2-64 大学時の経験の役立ち度\_\_早稲田大学以外での勉強 (国際タイプ別)

・資格取得や教職、国家試験勉強

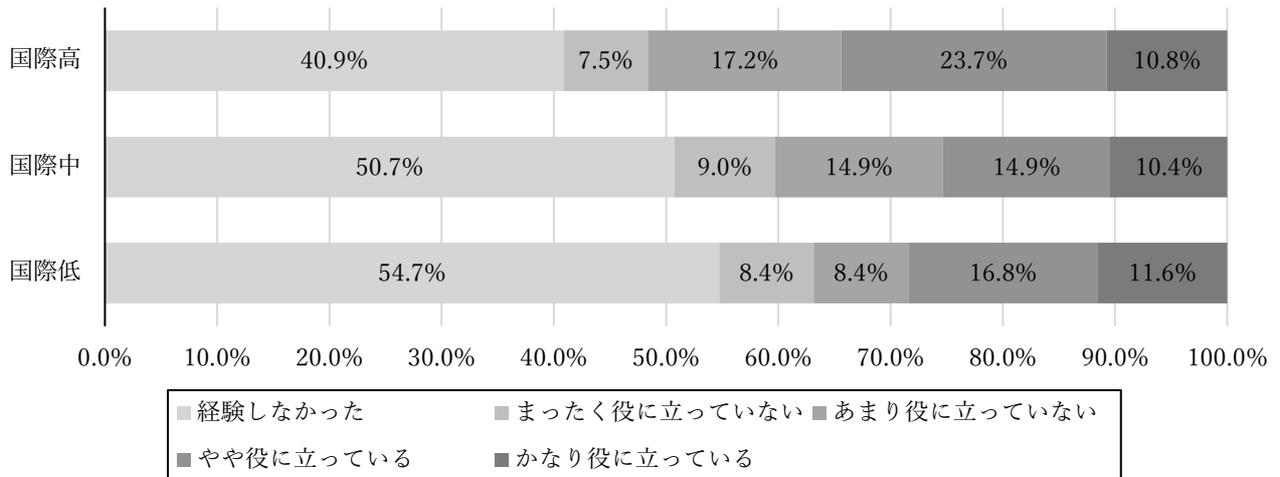


図 2-65 大学時の経験の役立ち度\_\_資格取得や教職、国家試験勉強（国際タイプ別）

## 2-6. 回帰分析と留学期間について

ここでは、国際タイプで使用していた国際性得点を従属変数とし、これまで示してきた大学入学前のインプット、在学時経験であるスループットを独立変数とした回帰分析を行う。分析の結果は表2-1の通りで各独立変数に便宜的に番号を付けた。なお、多重共線性が生じた項目を除外した。

分析にあたって、従属変数は、国際性得点をそのまま用いた。第2章の冒頭で示した通り、国際性得点の最小値は2、最大値は8となる。また独立変数については、4件法、5件法で尋ねた項目は、基本的に頻度が高い、あるいはよりあてはまるが回答が高くなるように1~4、1~5に得点化した（表中の1、2、4~33）。3の高校卒業までの海外経験については期間に関わらず経験がある場合を1、ない場合を0とするダミー変数とした。34と35の留学経験については、短期（数週間~3ヶ月未満）と長期（3ヶ月以上）に分けた。モデルの調整済みR二乗値からは国際性の38%を説明できるものと評価できる。

表2-1 国際性を従属変数とした重回帰分析結果（係数は標準化した値）

1		少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した	-.012
2	中学時の経験	学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	.002
3	海外経験	高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはある	.019
4		勉強したい分野がその学部にあったから	.048
5		就職に有利であると思ったから	-.043
6		将来の希望する職業分野を勉強できるから	.024
7		資格の取得が有利であるから	.031
8	進学理由	指導してほしい教員がその学部にあったから	-.002
9		学力（偏差値など）が適当であったから	.060 **
10		進路選択の幅が広い学部を選択した	.022
11		高校の先生や家族または塾などで勧められたから	-.045
12		伝統・校風が好きだから	-.013
13		国際化が進んでいるから	.232 ***
14		一般教育科目	.085 *
15		ゼミ	-.018
16		卒業論文作成	.024
17		部活動、サークル活動	.022
18		学内のアルバイト	-.010
19		学外のアルバイト・定職	-.004
20		ボランティア	-.010
21		インターンシップ	-.006
22		早稲田大学以外での勉強	.018
23		資格取得や教職、国家試験勉強	-.049
24	在学時の学び	大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）	.057
25		図書館を利用した	.002
26		読書（漫画や雑誌を除く）をした	.019
27		自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	.002
28		授業内容について、他の学生と議論した	.046
29		語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした	.120 ***
30		留学生と一緒に学んだ	.235 ***
31		授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）	.020
32		特別な理由なく授業を欠席した	-.017
33		よい教員に巡り合えた	.054
34	留学経験（基準：留学経験なし）	留学短期	.109 ***
35		留学長期	.117 ***
36	調整済R <sup>2</sup>	.380	
37	F値	15.592 ***	

\*\*\*  $p < .001$ 、\*  $p < .05$

分析の結果、大学入学前のインプットと在学時のスループットで正に関係のある項目がある（9、13、14、29、30、34、35）。そのなかで最も標準化係数が高いのは、「30.留学生と一緒に学んだ」経験であり、次に高いのは、進学理由「13. 国際化が進んでいるから」であった。また、在学時の教育経験として「29.語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした」や、おそらく語学科目を念頭に回答したと考えられる「14.一般教育科目」についても正に有意であった。それらは国際性の修得を目指した科目と考えられ、大学入学前の経験や進学理由を考慮したとしても、早稲田大学の教育・学習経験は、国際性の修得に寄与していたと言える。

一方、34、35の留学経験についてはいずれも正に有意であり、長期の場合の方が短期に比べて標準化係数が若干高い結果となった。この分析では短期（数週間～3ヶ月未満）の留学も国際性修得に寄与している。ただし、標準化係数はいずれも先の「30.留学生と一緒に学んだ」経験の方が高く、異文化理解や外国語修得にはそれらの経験の方がより効果が見込める可能性がある。

また、留学期間の差異について追加分析を示す。以上の分析は、あくまで国際性得点をもとにしており、留学経験を当人がどれほど役に立ったと認知しているかは異なる可能性があるためである。そこで、「あなたの学部時代の経験は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。」と留学経験について尋ねた項目について、期間別に分布を算出した（図2-66）。この項目では、留学経験を発揮しやすい仕事に就いているか否かにも回答が依存しやすい点に注意が必要になる。なお、短期には5名が経験しなかったと回答しており、当該回答者は除いた。

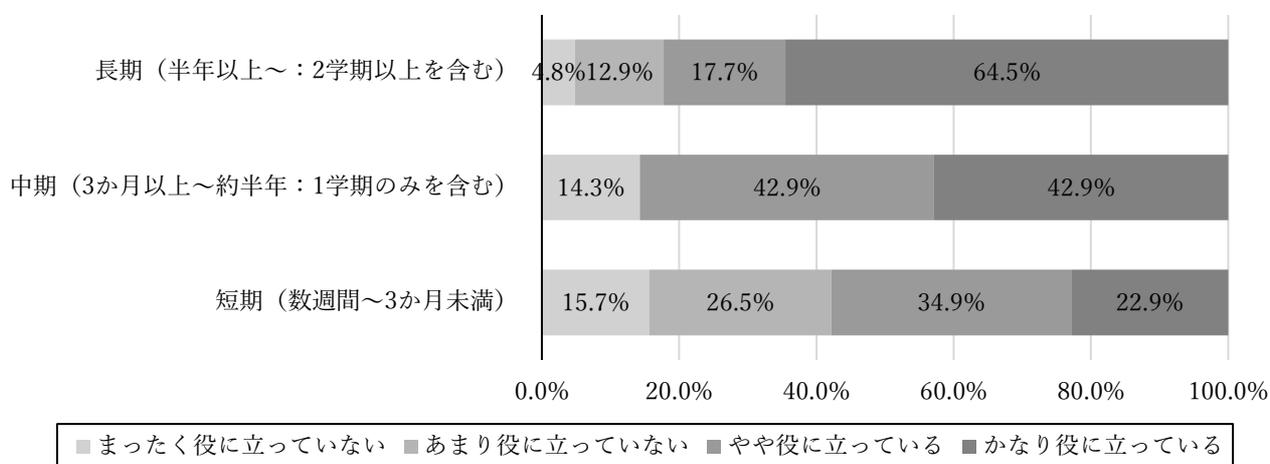


図2-66 留学期間別の留学の役立ち度

長期の場合には、「かなり役に立っている」（64.5%）、「やや役に立っている」（17.7%）と合せて82.2%と高く、中期においても「かなり役に立っている」の割合は42.9%と長期に比べ低いものの、それでも「やや役に立っている」と合わせるとむしろ長期よりも僅かに高く85.8%が現在の仕事に役立っていると回答している。一方で、短期の場合には、「かなり役に立っている」（22.9%）、「やや役に立っている」（34.9%）と合せて57.8%であった。このように、留学については、中長期においては役立ち度

という点から高い傾向が示されるものの、短期については相対的に低く半数が現在の仕事に（あまり）役に立っていないと認識している。

この点から、国際性の修得において、在学時の短期留学は確かに効果が見込めるものの、実際に仕事において留学経験が役立つかどうかという点については、中長期の留学を経験している方が効用を認識している。



### 第3章 在学中の学修行動と教育の成果及び現在の状態の関係探究

本章では、在学時の望ましい学修行動、教育の成果、そして現在の仕事や生活の状態について、個人差を説明・予測する要因について、重回帰分析を使って調べていく。望ましい学修行動に関しては、在学中熱心に取り組んだことや在学時の経験に関する質問項目など、また教育の成果に関しては、成績や学部で習得したこと、そして現在の状態に関しては、在学時に学んだことの現在の仕事への役立ちや、現在の生活などの満足、早稲田を誇りに感じることなどに関する質問項目を用いた。

#### 3-1. 在学時の望ましい学修行動などの説明・予測

表3-1は重回帰分析を使って、卒業生の在学時に熱心に取り組んだことや、在学中の経験などの望ましい学修行動に関する質問項目の点数と、早稲田の受験理由や在学中の学修・経験などの質問項目の点数との関連を調べたものである。

例えば、最左列1行目の目的変数である「在学中熱心：専門科目」は、「あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。 - 専門科目」という質問項目を意味する。また同じ行の右側に並んでいる数値の上段は、表の各列に示した43個の（説明）変数のそれぞれと目的変数が、どの程度強く関わっているかを示す相関係数（偏相関ではなくゼロ次）である。またその下段は、各（説明）変数が、在学中の専門科目の熱心な取り組みの個人差を説明・予測する強さを示す、標準偏回帰係数（ $\beta$ ）である。いずれの係数も、値が正に大きい場合ほど、当該の変数の値が高くなるにつれて、専門科目に熱心に取り組んだ程度も高くなる傾向を意味し、逆に負に大きい場合ほど、変数の値が高くなるにつれて、専門科目を熱心に取り組んだ度合いは低くなる傾向を意味する。また0に近い場合には、その変数と専門科目への熱心度は無関係である傾向を意味する。

また表の最右列にある、 $R^2$ 及び $\text{adj.}R^2$ は、43個の（説明）変数によって、各質問項目への回答における個人差（分散）が何%説明できるかを示す、（自由度調整済み）決定係数と呼ばれる指標である。つまり「在学中熱心：専門科目」の質問項目は、43個の（説明）変数によって、分散の約55%が説明されることを意味する。

具体的に見ていくと、「在学中熱心：専門科目」の質問項目では、絶対値が比較的大きい太字の変数に注目すると、在学中に一般教育科目やゼミに熱心に取り組んだ学生や、早稲田の受験理由として勉強したい分野がその学部にあったからという学生や、在学中に授業内容について他の学生と議論した経験のある学生ほど、専門科目に熱心に取り組む度合いが大きい傾向があることがわかる。

表3-1の2行目「在学中熱心：一般教育科目」の質問項目は、在学中に専門科目に熱心だった学生や、よい教員に巡り会えた学生ほど、一般教育科目に熱心であり、また中学時代に自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ学生も、比較的高い関連があり、逆に在学中に特に理由なく授業を欠席した学生は、熱心度が低くなる傾向がある。また3行目の質問項目「在学中熱心：ゼミ」は、卒業論文や専門科目に熱心だった学生や、授業内容について教員と議論した経験のある学生ほど、ゼミに熱心であることが示されている。4行目の「在学中熱心：卒業論文」の質問項目は、ゼミに熱心だった学生や、自分でテー

マを決めて研究したり、その成果を発表した学生、そしてよい教員に巡り会えた学生ほど、卒業論文に熱心に取り組んだようである。

表3-1の5行目の質問項目、「在学中経験：自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした」は、在学中に授業内容について他の学生と議論した経験のある学生や、卒業論文に熱心に取り組んだ学生ほど、高くなる傾向にある。6行目の「在学中経験：授業内容について、他の学生と議論した」の質問項目は、授業内容について教員と議論したり、自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表した経験のある学生ほど、高くなるようである。7行目の「在学中経験：授業内容について、教員と議論した」は、授業内容について他の学生と議論したり、自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表した経験のある学生や、ゼミに熱心に取り組んだ学生が、高くなる傾向にある。また8行目の「在学中経験：外国語で議論・発表」の質問項目は、留学生と一緒に学んだり、授業内容について教員と議論した経験のある学生、また早稲田の受験理由として国際化が進んでいることを答えている学生ほど、大きくなるようである。一方9行目の「在学中経験：特別な理由なく授業を欠席した」という質問項目は、あまり望ましくない行動であり、一般教養科目に熱心に取り組んだ学生や、中学の頃に自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ学生ほど、小さくなることがわかった。また10行目の「在学中経験：よい教員に巡り会えた」という質問項目は、ゼミや一般教育科目などに熱心に取り組んだ学生ほど高くなるようである。

表3-1 大学時の学修行動や経験を説明・予測する要因

目的変数	説明変数	説明変数																			
		受験理由：勉強したい分野がその学部にあったから	受験理由：就職に有利であると思ったから	受験理由：将来の希望する職業分野を勉強できるから	受験理由：資格の取得が有利であるから	受験理由：指導してほしい教員がその学部から	受験理由：学力(偏差値など)が適当であったから	受験理由：進路選択の幅が広い学部を選じたから	受験理由：高校の先生や家族または塾などで勧められたから	受験理由：伝統・校風が好きなから	受験理由：国際化が進んでいるから	中学3年成績	高校3年成績	中学の頃：休んでよい理由があった	中学の頃：自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	中学の頃：なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強した	在学中：専攻科目	在学中：一般教育科目	在学中：ゼミ	在学中：熱心：卒業論文作成	熱心：部活動、サークル活動
在学中熱心：専攻科目(N=814)	相関係数	.38	-.12	.24	.12	.26	-.05	-.08	-.02	.02	.12	.06	.15	.08	.12	.16	NA	.56	.47	.41	-.14
	標準化偏回帰係数	.11	-.09	.06	.01	.01	.02	.01	.00	-.01	.01	.01	.03	.01	-.09	.07	NA	.30	.15	.10	-.02
在学中熱心：一般教育科目(N=814)	相関係数	.22	-.03	.16	.15	.21	-.03	-.02	.10	.10	.20	.03	.07	.06	.18	.14	.56	NA	.26	.17	-.09
	標準化偏回帰係数	-.02	.01	.00	.04	.00	-.01	.00	.07	.05	.04	-.03	-.05	-.04	.10	-.04	.39	NA	-.02	-.09	-.01
在学中熱心：ゼミ(N=814)	相関係数	.24	-.06	.15	.05	.18	-.09	-.04	.01	.04	.04	.08	.11	.10	.16	.15	.47	.26	NA	.58	-.09
	標準化偏回帰係数	.00	-.03	.04	.00	-.01	-.05	.06	.04	-.01	-.04	.03	.07	.02	.09	-.03	.18	-.02	NA	.40	.00
在学中熱心：卒業論文(N=814)	相関係数	.24	-.10	.08	-.01	.19	-.07	-.13	-.06	.03	.02	.00	.02	.04	.08	.09	.41	.17	.58	NA	-.10
	標準化偏回帰係数	.07	.01	-.04	-.02	.06	.04	-.09	-.05	.05	-.02	-.04	-.10	-.06	-.01	.04	.11	-.08	.40	NA	-.06
在学中経験：自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした(N=814)	相関係数	.25	-.07	.14	.02	.23	-.06	-.05	.01	-.01	.05	.03	.12	.11	.07	.11	.41	.21	.40	.47	-.05
	標準化偏回帰係数	-.01	.00	.00	-.01	.02	-.02	.03	.03	-.07	-.01	-.01	.02	.09	-.05	.02	.04	-.09	.00	.25	.06
在学中経験：授業内容について、他の学生と議論した(N=814)	相関係数	.30	-.03	.18	.05	.25	-.05	-.08	.04	.08	.18	.04	.15	.05	.09	.13	.47	.35	.38	.34	-.07
	標準化偏回帰係数	.06	.03	.01	-.04	.01	-.01	-.08	.03	.04	.03	-.03	.05	-.02	.01	.03	.10	.05	.01	-.01	.00
在学中経験：授業内容について、教員と議論した(N=814)	相関係数	.24	-.07	.16	.06	.28	-.10	-.08	-.04	.04	.14	.05	.09	.01	.05	.06	.44	.34	.42	.35	-.16
	標準化偏回帰係数	.01	.01	.01	.03	.05	-.04	.00	-.03	.02	-.03	.04	-.01	-.04	.00	-.05	.01	.05	.13	-.02	-.08
在学中経験：外国語で議論・発表(N=814)	相関係数	.07	-.01	.08	-.01	.16	-.03	.05	.03	-.02	.31	.03	.12	.00	.05	.07	.14	.13	.11	.14	-.07
	標準化偏回帰係数	-.03	-.01	.03	-.06	.00	.00	.02	.03	-.07	.17	.01	.03	-.01	-.01	.04	-.07	-.02	-.04	.07	-.01
在学中経験：特別な理由なく授業を欠席した(N=814)	相関係数	-.15	.04	-.15	-.10	-.14	.12	.04	.02	.02	-.11	.00	-.05	-.14	-.24	-.18	-.35	-.34	-.25	-.25	.18
	標準化偏回帰係数	.01	-.01	-.04	-.02	-.01	.09	-.01	.05	.04	-.06	.09	.06	-.04	-.15	-.05	-.12	-.18	-.03	-.09	.11
在学中経験：よい教員に巡り会えた(N=814)	相関係数	.23	-.06	.11	.04	.24	-.08	-.04	-.01	.11	.12	.00	.02	.10	.05	.09	.41	.32	.42	.37	-.06
	標準化偏回帰係数	.05	.00	-.03	-.04	.08	-.03	.01	-.02	.06	.03	-.01	-.02	.06	-.07	.02	.11	.13	.18	.07	.03

注1) 各質問項目について上段に相関係数、下段に標準化偏回帰係数(β)を示し、統計的に優位な係数を太字で表し、特に注目に値する数値を灰色で強調した。

ただし、最右列は上段に決定係数(R<sup>2</sup>)、下段に自由度調整済み決定係数(adj. R<sup>2</sup>)を示している。

注2) 目的変数と説明変数が重複する場合や、用いていない質問項目の場合は「NA」としている。

注3) 名義変数は次の通りコード化した。「大学第一志望ダミー」(第一志望=1, 第一志望でない=0)、「学部第一志望ダミー」(第一志望=1, 第一志望でない=0)、「現役ダミー」(現役=1, それ以外=0)、性別ダミー(男=1, 女=0)

在学中 熱心： 学内の アルバイト	在学中 熱心： 学外の アルバイト ・ 定職	在学中 熱心： ボラン ティア	在学中 熱心： イン ターン シップ	在学中 熱心： 早稲田 大学以 外での 勉強	在学中 熱心： 資格取 得や教 職、国 家試験 勉強	在学中 熱心： 大学関 係の活 動	在学中 経験： 図書館 を利用 した	在学中 経験： 読書を した	在学中 自分で テーマ を決め て研究 したり 、その 成果を 発表し たりし た	在学中 経験： 授業内 容につ いて、 他の学 生と議 論した	在学中 経験： 授業内 容につ いて、 教員と 議論し た	在学中 経験： 語学の 授業以 外で、 外国語 で議論 や発表 をした	在学中 経験： 留学生 と一緒に 学んだ	在学中 経験： 授業の 一環と して大 学外で 学んだ	在学中 経験： 特別な 理由な く授業 を欠席 した	在学中 経験： よい教 員に巡 り合え た	学部1 ～2年 成績	学部3 ～4年 成績	大学第 一志望 ダミー	学部第 一志望 ダミー	現役ダ ミー	性別ダ ミー	R <sup>2</sup> adj.R <sup>2</sup>
.11	-.02	.07	.01	.17	.17	-.02	.15	.21	.41	.47	.44	.14	.16	.18	-.35	.41	.42	.45	-.05	.21	-.02	-.09	.57
.02	.02	-.04	-.04	.03	.08	-.03	.02	-.01	.04	.11	.01	-.05	.03	.01	-.07	.07	.07	.06	-.02	.06	-.04	.00	.58
.03	-.04	.08	.03	.18	.15	.06	.21	.21	.21	.35	.34	.13	.17	.15	-.34	.32	.36	.36	-.04	.10	-.04	-.16	.48
-.04	-.01	.00	-.01	.06	-.02	.05	.09	.05	-.10	.07	.07	-.02	.04	-.02	-.15	.11	.07	.09	-.03	-.01	-.02	-.08	.42
.05	.02	.13	.08	-.01	.01	-.01	.07	.06	.40	.38	.42	.11	.07	.17	-.25	.42	.28	.32	.00	.11	-.01	.00	.50
-.09	-.01	.08	.02	-.07	-.04	-.01	.08	-.12	.00	.01	.17	-.03	-.04	.02	-.02	.14	-.04	.10	.00	-.01	-.04	.10	.47
.15	.03	.07	.06	-.03	-.02	-.02	.01	.07	.47	.34	.35	.14	.10	.14	-.25	.37	.25	.29	.02	.08	.03	-.11	.49
.06	.03	-.03	.02	-.06	-.03	.02	-.06	-.02	.27	-.02	-.03	.06	.00	-.04	-.06	.05	.04	.02	.02	-.05	.06	-.10	.46
.17	.02	.13	.11	.12	.07	.04	.18	.32	NA	.59	.55	.21	.16	.26	-.15	.39	.25	.27	-.04	.12	.06	-.03	.52
.04	.01	.03	-.01	.03	-.02	-.02	-.01	.17	NA	.29	.17	.00	-.06	.04	.01	.08	.04	.03	.00	.02	.05	.00	.49
.12	.01	.15	.15	.16	.12	.10	.25	.31	.59	NA	.71	.31	.30	.32	-.14	.38	.23	.24	-.04	.12	.02	-.06	.61
-.01	.00	-.01	.04	-.05	.04	.03	.06	.01	.24	NA	.45	.02	.07	.02	.03	.01	.00	-.03	-.02	.01	.00	.01	.59
.13	-.03	.17	.13	.23	.10	.06	.18	.31	.55	.71	NA	.35	.29	.35	-.16	.40	.26	.28	-.06	.08	-.04	-.01	.62
.00	-.03	.01	.00	.07	-.02	.02	-.04	.08	.14	.45	NA	.11	.00	.07	.01	.06	-.02	.04	-.03	-.05	-.02	.02	.60
.17	-.01	.17	.17	.17	.04	.08	.05	.09	.21	.31	.35	NA	.55	.31	-.08	.12	.17	.14	-.10	.08	.05	-.02	.41
.05	-.01	.01	.03	.05	-.01	.00	-.01	-.02	.00	.04	.17	NA	.38	.10	.01	-.03	.09	-.03	-.04	.06	.00	.03	.37
-.10	.09	-.08	-.06	-.03	-.04	.06	.07	.01	-.15	-.14	-.16	-.08	-.07	-.05	NA	-.17	-.33	-.35	.02	-.18	-.03	.09	.32
-.03	.07	-.05	-.06	.05	.03	.01	.11	-.01	.01	.06	.01	.02	.02	.03	NA	.02	-.09	-.11	.01	-.08	-.06	.04	.28
.09	.03	.11	.08	.04	.07	.00	.13	.19	.39	.38	.40	.12	.16	.23	-.17	NA	.16	.21	.04	.09	-.04	-.09	.34
.04	.00	-.01	.02	-.08	.03	-.06	.00	.05	.11	.01	.10	-.04	.03	.07	.02	NA	-.12	.07	.03	.00	-.04	-.04	.30

### 3-2. 教育成果などの説明・予測

表3-2は、同じく重回帰分析を使って、卒業生が在学時に習得したことや成績に関する質問項目の点数が、表の各列に示した43個の(説明)変数のそれぞれと、どの程度強く関わっているかを調べたものである。

最左列の1行目の質問項目「学部1～2年成績」は、在学中に専門科目や一般教育科目に熱心に取り組んだ学生が高くなり、また高校3年の成績の影響もある程度大きく、一方で特別な理由なく授業を欠席した経験が多い学生ほど低くなるようである。2行目の「学部3～4年成績」の質問項目も、在学中の専門科目と一般教育科目の熱心度と高校3年の成績が高い学生ほど値が大きくなり、また特別な理由なく授業を欠席する経験のある学生は低くなっている。

表3-2の3行目の質問項目「学部習得：既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」は、在学中に授業内容について他の学生と議論した経験や、よい教員に巡り合えた経験のある学生ほど大きくなるようである。4行目の「学部習得：物事を論理的に考えることができる」の質問項目は、在学中によりよい教員に巡り合えた経験のある学生や、専門科目を熱心に取り組んだ学生、また授業内容について他の学生と議論したり、テーマを決めて研究したり発表した経験のある学生ほど、値が大きくなることがわかった。5行目の質問項目「学部習得：問題の解決方法を提案できる」は、在学中に専門科目を熱心に取り組んだ学生や、よい教員に巡り合えた学生ほど高くなるようである。6行目の「学部習得：自分の考えを分かりやすく表現できる」の質問項目は、授業内容について他の学生と議論したり、よい教員に巡り合えた経験のある学生や、専門科目を熱心に取り組んだ学生は値が大きくなることが示された。

表3-3の7行目の質問項目「学部習得：相手の状況や考え方を尊重できる」は、在学中によりよい教員に巡り合えたり、授業内容について他の学生と議論したり、専門科目に熱心に取り組んだ学生ほど、値が大きくなるようである。8行目の「学部習得：物事を多面的に考えることができる」の質問項目は、在学中によりよい教員に巡り合えた経験のある学生や、専門科目を熱心に取り組んだ学生ほど値が大きくなっている。9行目の質問項目「学部習得：健全に批判することができる」は、授業内容について他の学生と議論した経験のある学生や、専門科目を熱心に取り組んだ学生ほど、値が大きくなるようである。10行目の質問項目である「学部習得：多様性を受け入れられる」は、在学中に留学生と一緒に学んだ経験や、よい教員に巡り合えた経験のある学生が値が大きくなり、また女子の方が男子よりも高くなるようである。

表3-3の11行目の質問項目「学部習得：異文化を理解できる」は、在学中に留学生と一緒に学んだ経験のある学生や、早稲田の受験理由として、国際化が進んでいることを答えた学生ほど値が高くなるようである。12行目の「学部習得：外国語を理解し、話せる」の質問項目は、やはり在学中に語学の授業以外で外国語で議論や発表をした経験や、留学生と一緒に学んだ経験のある学生、また早稲田の受験理由として国際化が進んでいることを挙げた学生ほど、値が大きくなるようである。



表3-2 教育成果などを説明・予測する要因

目的変数	説明変数	受験理由：勉強したい分野があったから	受験理由：就職に有利であると思ったから	受験理由：将来の希望する職業分野を勉強できるから	受験理由：資格の取得が有利であるから	受験理由：目指している教員がその学部からだから	受験理由：学力(偏差値など)が適当であったから	受験理由：進路選択の幅が広い学部を選択したから	受験理由：高校の先生や家族または塾などから勧められたから	受験理由：伝統・校風が好きだから	受験理由：国際化が進んでいるから	中学3年成績	高校3年成績	中学の頃：休んでよい理由があった	中学の頃：自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	中学の頃：なかなか成果が出ない	在学中：熱心：専門科目	在学中：熱心：一般教養科目	在学中：熱心：ゼミ	在学中：熱心：卒業論文作成	在学中：熱心：部活動、サークル活動
		相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数	相関係数
学部1~2年成績 (N=817)	相関係数	.14	-.09	.08	.06	.14	-.01	-.08	-.03	-.04	.04	.10	.22	.07	.14	.09	.42	.35	.27	.25	-.09
	標準化偏回帰係数	.00	.01	-.04	-.01	.01	.01	-.03	-.01	.01	-.04	.05	.18	.02	.06	-.08	.18	.17	.05	.06	.04
学部3~4年成績 (N=816)	相関係数	.18	-.08	.10	.06	.13	.02	-.07	-.04	-.03	.02	.06	.20	.07	.13	.09	.44	.36	.32	.29	-.11
	標準化偏回帰係数	.02	.00	-.04	-.01	-.01	.05	-.03	-.02	.02	-.06	.02	.16	.02	.04	-.06	.18	.17	.09	.06	.02
学部習得：既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる (N=814)	相関係数	.26	.05	.18	.09	.26	-.01	.07	.04	.15	.24	.03	.07	.08	.07	.16	.32	.26	.21	.21	.00
	標準化偏回帰係数	.08	.05	.00	.02	.07	.00	.03	-.03	.04	.07	.01	-.02	.03	-.08	.10	.08	.05	-.05	-.01	.01
学部習得：物事を論理的に考えることができる (N=814)	相関係数	.20	-.03	.18	.11	.19	.01	.01	-.01	.06	.08	.09	.15	.09	.08	.13	.40	.27	.26	.18	-.08
	標準化偏回帰係数	-.03	-.03	.04	.08	.00	.03	.02	-.01	.05	-.03	.05	.06	.03	-.04	.04	.18	.05	.01	-.07	-.03
学部習得：課題の解決方法を提案できる (N=813)	相関係数	.25	-.03	.21	.11	.21	-.03	.03	.00	.10	.15	.07	.13	.07	.08	.15	.41	.25	.31	.27	-.05
	標準化偏回帰係数	.02	-.05	.05	.07	.00	-.01	.03	.00	.06	.01	.04	.04	.00	-.07	.09	.21	.02	.03	.00	-.03
学部習得：自分の考えを分かりやすく表現できる (N=814)	相関係数	.25	.02	.19	.09	.20	.01	.02	.09	.12	.17	.05	.13	.11	.05	.15	.38	.26	.30	.27	-.03
	標準化偏回帰係数	.03	.01	.03	.04	.00	.02	-.01	.07	.05	.05	.02	.02	.06	-.15	.12	.11	.00	.01	.01	.00
学部習得：相手の状況や考え方を尊重できる (N=814)	相関係数	.19	.04	.15	.10	.16	.03	.13	.10	.19	.23	.03	.07	.08	.07	.14	.27	.21	.16	.14	.08
	標準化偏回帰係数	.01	-.04	.03	.02	.00	.01	.10	.02	.09	.08	.02	.01	.03	-.05	.03	.12	.02	-.02	.01	.07
学部習得：物事を多面的に考えることができる (N=814)	相関係数	.21	.03	.10	.07	.17	.01	.06	.07	.15	.21	.05	.09	.10	.08	.16	.32	.26	.18	.14	.05
	標準化偏回帰係数	.06	.02	-.05	.00	.00	.01	.03	.02	.04	.06	.02	.04	.04	-.04	.06	.16	.07	-.04	-.05	.07
学部習得：健全に批判することができる (N=813)	相関係数	.23	.00	.19	.11	.18	-.02	.02	.08	.14	.16	.03	.08	.07	.04	.09	.30	.24	.18	.10	.03
	標準化偏回帰係数	.06	-.04	.05	.06	.01	-.01	-.01	.05	.08	.00	.02	.00	.03	-.06	.03	.12	.04	.00	-.12	.03
学部習得：多様性を受け入れられる (N=814)	相関係数	.16	.05	.11	.06	.13	.03	.11	.10	.20	.29	.06	.06	.07	.09	.17	.20	.23	.12	.08	.12
	標準化偏回帰係数	.01	.00	.01	-.02	-.02	.03	.04	.00	.07	.12	.03	-.03	.03	-.08	.11	.05	.08	.02	-.05	.11
学部習得：異文化を理解できる (N=814)	相関係数	.14	.02	.10	.10	.12	.05	.09	.06	.15	.36	.04	.07	.04	.07	.09	.16	.21	.10	.10	.07
	標準化偏回帰係数	.03	-.04	.01	.06	-.05	.07	.03	-.05	.03	.20	.04	-.01	.03	-.02	-.02	-.02	.07	.01	.03	.06
学部習得：外国語を理解し、話せる (N=813)	相関係数	.15	-.01	.14	.07	.19	.01	.06	.00	.01	.38	.05	.14	-.02	.06	.06	.22	.23	.09	.11	-.06
	標準化偏回帰係数	.02	-.02	.04	.01	.04	.03	.01	-.07	-.02	.22	.02	.00	-.03	.01	-.05	.03	.06	-.02	-.01	-.02

注1) 各質問項目について上段に相関係数、下段に標準化偏回帰係数(β)を示し、統計的に優位な係数を太字で表し、特に注目に値する数値を灰色で強調した。

ただし、最右列は上段に決定係数(R<sup>2</sup>)、下段に自由度調整済み決定係数(adj. R<sup>2</sup>)を示している。

注2) 目的変数と説明変数が重複する場合や、用いていない質問項目の場合は「NA」としている。

注3) 名義変数は次の通りコード化した。「大学第一志望ダミー」(第一志望=1, 第一志望でない=0)、「学部第一志望ダミー」(第一志望=1, 第一志望でない=0)、「現役ダミー」(現役=1, それ以外=0)、性別ダミー(男=1, 女=0)

在学中 熱心： 学内の アルバイト	在学中 熱心： 学外の アルバイト ・ 定職	在学中 熱心： ボラン ティア シッ	在学中 熱心： イン ターン シッ	在学中 熱心： 早稲田 大学以 外での 勉強	在学中 熱心： 資格取 得や教 職、国 家試験 勉強	在学中 熱心： 大学関 係の活 動	在学中 経験： 図書館 を利用 した	在学中 経験： 読書を した	在学中 経験： 自分で テーマ を決め て研究 したり 、その 成果を 発表し たりし た	在学中 経験： 授業内 について 、他の学 生と議 論した	在学中 経験： 授業内 について 、教員と 議論し た	在学中 経験： 語学の 授業以 外で、 外国語 で議論 や発表 をした	在学中 経験： 留学生 と一緒に 学んだ	在学中 経験： 授業の 一環と して大 学外で 学んだ	在学中 経験： 特別な 理由な く授業 を欠席 した	在学中 経験： よい教 員に巡 り合え た	学部1 ～2年 成績	学部3 ～4年 成績	大学第 一志望 ダミー	学部第 二志望 ダミー	現役ダ ミー	性別ダ ミー	R <sup>2</sup> adj.R <sup>2</sup>
.15	-.11	.03	.01	.13	.14	-.05	.02	.06	.25	.23	.26	.17	.12	.10	-.33	.16	NA	NA	-.12	.10	.01	-.02	.32
.06	-.08	-.03	-.03	.03	.10	-.06	-.02	-.05	.08	-.05	.03	.07	.01	.03	-.17	-.07	NA	NA	-.06	-.02	-.05	.04	.29
.16	-.08	.02	.00	.11	.14	-.05	-.01	.04	.27	.24	.28	.14	.12	.12	-.34	.21	NA	NA	-.10	.13	.01	-.01	.34
.08	-.04	-.04	-.04	.01	.10	-.04	-.05	-.06	.08	-.06	.05	.04	.03	.04	-.17	-.02	NA	NA	-.04	.00	-.05	.04	.31
.13	.05	.16	.11	.10	-.01	.13	.09	.17	.32	.42	.39	.25	.24	.22	-.15	.33	.14	.14	.05	.09	.01	-.03	.32
.05	.03	.05	-.01	.01	-.12	.07	-.05	.04	.04	.16	.10	.07	.03	.00	-.03	.13	.04	-.06	.05	-.03	.02	.02	.28
.13	.01	.06	.03	.11	.05	-.01	.06	.16	.32	.35	.31	.13	.13	.12	-.16	.37	.20	.21	-.03	.20	-.02	.06	.29
.05	.02	-.01	-.03	.02	-.04	-.01	-.05	.01	.11	.12	-.03	.01	.04	-.02	-.01	.22	.04	-.05	-.02	.10	-.05	.10	.25
.17	.07	.11	.12	.08	.03	.06	.04	.13	.34	.36	.37	.21	.19	.16	-.15	.36	.16	.19	.01	.16	-.01	.02	.31
.08	.06	-.01	.05	-.02	-.05	.04	-.05	-.01	.09	.02	.09	.07	.05	-.04	.01	.15	-.04	.00	.01	.05	-.03	.06	.27
.10	.03	.09	.11	.05	.03	.05	.08	.17	.36	.43	.38	.19	.17	.19	-.13	.39	.23	.25	.00	.14	-.01	-.06	.32
.01	.01	-.01	.03	-.04	-.07	.01	-.05	.03	.05	.19	.03	.03	.00	.01	.04	.18	.02	.07	-.01	.05	-.03	-.01	.28
.03	.07	.14	.08	.03	.09	.14	.11	.13	.22	.28	.20	.13	.16	.18	-.09	.27	.07	.08	.04	.11	.01	-.11	.21
-.03	.02	.04	-.01	-.04	.02	.04	-.01	.04	.04	.12	-.06	.01	.03	.05	-.01	.13	-.02	-.02	-.01	.07	-.04	-.05	.17
.03	.07	.12	.09	.10	.10	.11	.14	.22	.31	.35	.30	.17	.20	.20	-.06	.34	.09	.08	.05	.08	-.04	-.06	.27
-.03	.03	.01	-.01	.00	.01	.03	-.04	.08	.11	.09	.01	.02	.07	.02	.03	.18	.01	-.10	.05	.02	-.07	.01	.23
.03	.03	.09	.13	.10	.03	.11	.10	.18	.28	.39	.33	.20	.19	.18	-.10	.26	.11	.11	.02	.11	.00	-.02	.24
-.05	.01	-.01	.06	.00	-.07	.04	-.05	.05	.06	.19	.05	.06	.05	-.01	-.01	.09	.02	-.05	.01	.03	-.01	.03	.20
.03	.08	.17	.12	.08	.07	.17	.11	.15	.17	.24	.20	.16	.29	.19	-.05	.24	.08	.05	.05	.06	.02	-.18	.26
.00	.03	.04	.01	.03	-.03	.05	-.06	.08	.03	.04	.02	-.06	.20	.01	.03	.12	.11	-.13	.02	.04	-.01	-.13	.22
.01	.00	.18	.11	.10	.02	.21	.10	.12	.15	.24	.18	.22	.38	.24	-.09	.22	.04	.04	.04	.05	.03	-.17	.30
-.05	-.05	.05	.00	.06	-.09	.11	-.01	.04	.02	.08	-.07	-.04	.28	.06	-.03	.10	-.02	-.03	.03	.03	.01	-.10	.26
.13	.01	.08	.11	.14	.05	.05	.07	.09	.15	.26	.24	.50	.44	.20	-.11	.15	.18	.18	-.12	.13	.09	-.11	.39
.02	.02	-.05	.01	.01	-.02	.00	.00	.01	-.02	.04	-.04	.31	.16	.00	.02	.02	.01	.06	-.07	.05	.07	-.06	.35

### 3-3. 現在の仕事・生活の状態などの説明・予測

表3-3も重回帰分析を使い、現在の仕事や生活の状態や、早稲田で学んだことの役立ち度に関する質問項目の点数が、表の各列に示した41個の(説明)変数のそれぞれとどの程度強く関わっているかを調べたものである。

最左列の1行目の質問項目「現在収入」は、性別ダミー(男=1)の影響が相対的に大きく、次いで学部で課題の解決方法を提案できることを身につけた学生や、現在の学習活動として働いている職場の教育・研修プログラムへの参加を挙げた学生、そして勤続年数が長いほど値が大きくなることがわかった。2行目の質問項目「現在仕事満足」は、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人が多い学生や、現在の学習活動として職場の教育・研修プログラムへ参加している学生、更に学部3~4年の成績が高かった学生ほど、値が大きくなることがわかった。3行目の「現在生活満足」は仕事を除いた生活の満足度であり、こちらも学習活動として現在の職場の教育・研修プログラムに参加している学生、そして学部時代に多様性を受け入れられることを身につけた学生、また早稲田の受験理由として勉強したい分野がその学部にあったからと答えた学生ほど、値が大きくなるようである。

表3-3の4行目の質問項目「仕事役立ち:専門科目」は、在学中に専門科目を熱心に取り組んだ学生、早稲田の受験理由として将来の希望する職業分野を勉強できることを挙げた学生、そしてよい教員に巡り合えた経験がある学生や、学部時代に健全に批判することができることを身につけた学生ほど、値が大きくなるようである。5行目の「仕事役立ち:一般教育科目」の質問項目は、在学中に一般教育科目を熱心に取り組んだ学生、学部時代に物事を論理的に考えることを身につけた学生や、健全に批判することを身につけた学生ほど、値が高くなることがわかった。6行目の質問項目「仕事役立ち:ゼミ」は、やはり在学中にゼミを熱心に取り組んだことが影響が大きく、またよい教員に巡り合えた経験のある学生も、値が高くなることがわかった。7行目の「仕事役立ち:卒論」も、在学中の熱心な取り組みとして卒業論文を挙げている学生が特に値が大きくなり、次いで学部で物事を論理的に考えることを身につけた学生や、よい教員に巡り合えた経験のある学生が高くなるようである。

表3-3の8行目の質問項目である「仕事困難相談できる友人」は、在学中に部活・サークルに熱心に取り組んだ学生や、授業内容について他の学生と議論した経験のある学生、そして早稲田の受験理由として、伝統・校風が好きだということを挙げた学生ほど、値が大きくなるようである。

表3-3の9行目の「早稲田と関わる」は、卒業後の早稲田との関わりについての質問項目を因子分析し、下位尺度得点として作成したものである。この得点は、早稲田の受験理由として、伝統・校風が好きだということを挙げた学生、仕事上の難しい問題に直面した時に相談できる友人の数が多いた学生、そして在学中に大学関係の活動に熱心だった学生ほど、値が大きくなることがわかった。10行目の「早稲田誇り(大学評価)」と11行目の「早稲田誇り(交友関与)」は、早稲田を誇りに思う時に関する質問項目を因子分析し、早稲田大学の評価が高くなった時に誇りを感じることや、交友と関わった時に誇りを感じ

じることについて、それぞれ下位尺度得点を作成したものである。「早稲田誇り（大学評価）」は、早稲田の受験理由として伝統・校風が好きだということを挙げた学生、学部時代に自分の考えを分かりやすく表現できることを身につけた学生、在学中により教員に巡り合えた経験のある学生ほど、値が大きくなるようである。「早稲田誇り（交友関与）」は、こちらも早稲田の受験理由として伝統・校風が好きだということと、在学中に部活やサークルや大学関係の活動に熱心に取り組んだ学生、在学中に授業内容について他の学生と議論した経験や、仕事上の難しい問題に直面した時に相談できる友人の数を多く答えた学生ほど、値が大きくなることがわかった。

表3-3 現在の仕事・生活の状態などを説明・予測する要因

目的変数	説明変数	説明変数																			
		受験理由：勉強した分野がその学部にあったから	受験理由：就職に有利で思ったから	受験理由：将来の希望する職業分野を勉強できるから	受験理由：将来の希望する校風が好きだから	中学3年成績	高校3年成績	在学中：専門科目	在学中：熱心：一般教育科目	在学中：熱心：ゼミ	在学中：熱心：卒業論文作成	在学中：熱心：部活動、サークル活動	在学中：熱心：学内のアルバイト	在学中：熱心：大学の関係の活動	在学中：自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	在学中：経験：授業内容について、他の学生と議論した	在学中：経験：授業内容について、教員と議論した	在学中：経験：特別な理由なく授業を欠席した	在学中：経験：よい教員に巡り合った	学部1～2年成績	学部3～4年成績
現在収入(N=735)	相関係数	-0.04	<b>.13</b>	.01	.03	.00	.04	<b>-0.09</b>	<b>-0.12</b>	.01	<b>-0.09</b>	.06	-.01	.06	.00	.02	.01	<b>.08</b>	<b>-0.11</b>	<b>.08</b>	<b>.07</b>
	標準化偏回帰係数	-.02	<b>.10</b>	-.02	-.01	-.02	.03	-.05	<b>-0.12</b>	.06	<b>-0.12</b>	.00	-.02	.01	.01	.01	.02	.04	-.06	.06	.08
現在仕事満足(N=732)	相関係数	<b>.15</b>	<b>.06</b>	<b>.11</b>	<b>.09</b>	<b>.08</b>	<b>.10</b>	<b>.14</b>	<b>.08</b>	<b>.09</b>	<b>.13</b>	<b>.09</b>	<b>.00</b>	<b>.07</b>	<b>.14</b>	<b>.15</b>	<b>.11</b>	<b>-0.08</b>	<b>.13</b>	<b>.17</b>	<b>.19</b>
	標準化偏回帰係数	.02	.05	.03	.02	.04	.03	-.02	-.08	-.06	<b>.10</b>	.06	-.06	.00	.00	.02	-.03	-.04	.07	.02	<b>.14</b>
現在生活満足(N=732)	相関係数	<b>.20</b>	<b>.10</b>	<b>.10</b>	<b>.12</b>	<b>.13</b>	<b>.14</b>	<b>.10</b>	.04	<b>.10</b>	<b>.13</b>	<b>.12</b>	-.01	<b>.09</b>	<b>.14</b>	<b>.09</b>	<b>.07</b>	<b>-0.07</b>	<b>.12</b>	<b>.07</b>	<b>.10</b>
	標準化偏回帰係数	<b>.10</b>	<b>.08</b>	-.02	.02	<b>.09</b>	<b>.09</b>	-.03	-.08	-.03	<b>.08</b>	.07	-.03	.00	.07	<b>-0.11</b>	.01	-.06	.02	-.09	.12
仕事役立ち：専門科目(N=770)	相関係数	<b>.28</b>	<b>.02</b>	<b>.29</b>	-.01	<b>.07</b>	<b>.15</b>	<b>.43</b>	<b>.21</b>	<b>.26</b>	<b>.18</b>	<b>-0.06</b>	<b>.09</b>	.01	<b>.22</b>	<b>.25</b>	<b>.25</b>	<b>-0.17</b>	<b>.29</b>	<b>.24</b>	<b>.26</b>
	標準化偏回帰係数	.02	.03	<b>.15</b>	-.02	.02	.04	<b>.26</b>	-.08	.04	-.01	-.01	.01	.03	-.06	-.01	.01	-.01	<b>.13</b>	.01	.08
仕事役立ち：一般教育科目(N=771)	相関係数	<b>.25</b>	.04	<b>.24</b>	<b>.12</b>	.05	<b>.08</b>	<b>.30</b>	<b>.42</b>	<b>.11</b>	<b>.10</b>	.00	<b>.06</b>	<b>.08</b>	<b>.14</b>	<b>.30</b>	<b>.28</b>	<b>-0.17</b>	<b>.26</b>	<b>.12</b>	<b>.14</b>
	標準化偏回帰係数	.04	.01	<b>.10</b>	.04	.04	.01	-.05	<b>.32</b>	<b>-0.10</b>	.05	.05	.02	.01	<b>-0.14</b>	.06	.09	-.03	.07	-.08	.02
仕事役立ち：ゼミ(N=770)	相関係数	<b>.21</b>	-.01	<b>.19</b>	.06	.05	<b>.15</b>	<b>.33</b>	<b>.15</b>	<b>.65</b>	<b>.38</b>	-.04	<b>.10</b>	.00	<b>.35</b>	<b>.30</b>	<b>.37</b>	<b>-0.19</b>	<b>.41</b>	<b>.22</b>	<b>.24</b>
	標準化偏回帰係数	-.03	.01	<b>.09</b>	.01	-.04	<b>.08</b>	-.06	<b>-0.11</b>	<b>.57</b>	-.02	.02	.03	-.03	.04	-.08	.09	-.05	<b>.15</b>	.05	.00
仕事役立ち：卒論(N=770)	相関係数	<b>.22</b>	-.04	<b>.14</b>	<b>.06</b>	.01	.05	<b>.33</b>	<b>.11</b>	<b>.43</b>	<b>.73</b>	<b>-0.10</b>	<b>.20</b>	-.05	<b>.41</b>	<b>.30</b>	<b>.33</b>	<b>-0.23</b>	<b>.36</b>	<b>.19</b>	<b>.22</b>
	標準化偏回帰係数	-.01	.02	.04	.04	.00	.03	-.05	<b>-0.09</b>	-.04	<b>.70</b>	.00	<b>.07</b>	-.04	.02	-.03	<b>.08</b>	<b>-0.06</b>	<b>.08</b>	.01	-.02
仕事困難相談できる友人(N=771)	相関係数	<b>.12</b>	.02	<b>.08</b>	<b>.18</b>	.03	<b>.08</b>	<b>.07</b>	<b>.09</b>	<b>.06</b>	<b>.08</b>	<b>.18</b>	.02	<b>.19</b>	<b>.10</b>	<b>.18</b>	<b>.11</b>	.02	.03	<b>.08</b>	<b>.08</b>
	標準化偏回帰係数	.02	-.05	.02	<b>.11</b>	.00	.03	-.07	.03	-.01	.06	<b>.13</b>	-.01	<b>.09</b>	-.03	<b>.12</b>	.02	.05	<b>-0.08</b>	.00	.07
早稲田と関わる(N=733)	相関係数	<b>.08</b>	<b>.08</b>	.05	<b>.23</b>	-.01	.03	<b>.10</b>	<b>.11</b>	<b>.08</b>	<b>.11</b>	<b>.18</b>	.02	<b>.22</b>	<b>.12</b>	<b>.14</b>	<b>.07</b>	-.03	<b>.14</b>	.04	<b>.07</b>
	標準化偏回帰係数	-.01	.04	-.02	<b>.14</b>	-.01	.00	.00	.02	-.01	.07	<b>.09</b>	-.01	<b>.12</b>	.04	.05	-.09	-.02	.07	-.10	<b>.14</b>
早稲田誇り(大学評価)(N=732)	相関係数	<b>.18</b>	-.01	<b>.08</b>	<b>.20</b>	-.02	.03	<b>.15</b>	<b>.16</b>	<b>.10</b>	<b>.13</b>	-.01	.03	<b>.11</b>	<b>.19</b>	<b>.24</b>	<b>.17</b>	<b>-0.06</b>	<b>.23</b>	.05	.05
	標準化偏回帰係数	<b>.09</b>	-.05	-.03	<b>.15</b>	-.02	-.02	-.07	.06	-.05	.02	-.07	-.01	<b>.08</b>	.06	.07	-.07	-.01	<b>.11</b>	.03	-.08
早稲田誇り(交友関係)(N=732)	相関係数	<b>.08</b>	<b>.10</b>	.02	<b>.27</b>	.00	.04	.01	-.01	<b>.06</b>	.03	<b>.26</b>	.03	<b>.23</b>	<b>.07</b>	<b>.13</b>	.02	<b>.09</b>	<b>.12</b>	-.01	.00
	標準化偏回帰係数	.05	.04	-.05	<b>.18</b>	-.01	.01	-.04	-.06	.06	-.03	<b>.15</b>	.03	<b>.11</b>	-.01	<b>.14</b>	<b>-0.11</b>	.05	<b>.11</b>	-.02	.06

注1) 各質問項目について上段に相関係数、下段に標準化偏回帰係数(β)を示し、統計的に優位な係数を太字で表し、特に注目する数値を灰色で強調した。

ただし、最右列は上段に決定係数(R<sup>2</sup>)、下段に自由度調整済み決定係数(adj.R<sup>2</sup>)を示している。

注2) 目的変数と説明変数が重複する場合や、用いていない質問項目の場合は「NA」としている。

注3) 名義変数は次の通りコード化した。「大学第一志望ダミー」(第一志望=1, 第一志望でない=0)、「学部第一志望ダミー」(第一志望=1, 第一志望でない=0)、

「現役ダミー」(現役=1, それ以外=0)、性別ダミー(男=1, 女=0)

学部身 につけ たこ と：既 存の考 え方に とらわ れず、 新しい アイデ アを生 み出せ る	学部身 につけ たこ と：物 事を論 理的に 考える こと が でき る	学部身 につけ たこ と：課 題の解 決方法 を提案 でき る	学部身 につけ たこ と：自 分の考 えを分 かり表 現でき る	学部身 につけ たこ と：相 手の状 況や考 え方を 尊重で きる	学部身 につけ たこ と：物 事を多 面的に 考える こと が でき る	学部身 につけ たこ と：健 全に批 判する こと が でき る	学部身 につけ たこ と：多 様性を 受け入 れられ る	学部身 につけ たこ と：異 文化を 理解で きる	学部身 につけ たこ と：外 国語を 理解し、 話せる	現在働 いてい る企 業・団 体等の 従業員 規模	現在の 仕事の 勤続年 数	現在学 習活 動：勤 めてい る企 業等 の教 育・研 修プロ グラム に参加 する	現在学 習活 動：本 を読む	仕事上 の難し い問題 に直面 したと きに、 個人的 に相談 できる 友人が どれく らいい るか	性別ダ ミー	大学第 一志望 ダミー	学部第 一志望 ダミー	早稲田 誇り (大学 評価・ 意義)	早稲田 誇り (交友 活躍)	早稲田 誇り (直接 関与)	R <sup>2</sup> adj.R <sup>2</sup>
.03	.00	.07	.04	-.07	-.01	.05	-.04	-.03	.02	.21	.14	.21	.03	.14	.28	-.05	-.01	NA	NA	NA	.24
-.03	-.12	.16	.07	-.11	.01	.02	-.01	.02	.04	.08	.14	.15	.01	.12	.23	-.02	.01	NA	NA	NA	.19
.18	.13	.16	.17	.10	.19	.15	.15	.12	.10	-.04	-.08	.17	.18	.24	.02	-.01	.09	.10	.09	.09	.19
.01	-.03	.05	.00	-.10	.10	-.01	.10	-.03	.01	-.08	-.10	.14	.09	.17	.05	.00	.04	.00	.02	-.03	.14
.17	.12	.16	.20	.18	.16	.13	.22	.17	.07	.03	.07	.22	.12	.15	-.05	.01	.08	.16	.13	.18	.19
.02	-.02	.04	.08	.01	-.03	-.05	.16	-.01	.00	-.03	.05	.16	.05	.05	-.01	-.02	.01	.06	.00	.09	.15
.22	.34	.30	.28	.18	.20	.27	.09	.03	.08	-.12	.00	.10	.23	.05	.08	-.10	.21	NA	NA	NA	.34
.01	.11	-.02	-.03	.03	-.01	.12	.01	-.12	-.05	-.09	-.01	.06	.11	.00	.07	-.08	.08	NA	NA	NA	.30
.31	.33	.28	.30	.23	.27	.34	.19	.17	.18	-.11	.04	.15	.23	.05	-.01	-.03	.15	NA	NA	NA	.34
.08	.14	-.08	.04	.00	.01	.12	.00	-.06	.00	-.07	.02	.07	.11	-.06	.04	-.04	.06	NA	NA	NA	.30
.24	.30	.32	.31	.17	.22	.24	.16	.12	.08	-.03	.07	.10	.14	.09	.07	-.02	.11	NA	NA	NA	.51
.00	.04	.00	-.01	-.04	.04	.06	.04	-.01	-.05	-.03	.00	.07	.06	.03	.05	-.03	.02	NA	NA	NA	.48
.23	.27	.30	.28	.16	.18	.17	.10	.09	.09	-.04	.09	.07	.09	.08	.01	-.03	.11	NA	NA	NA	.59
-.03	.10	.00	-.05	.01	.01	.05	.02	-.02	-.02	-.06	.04	.05	.04	.02	.06	-.04	.01	NA	NA	NA	.57
.17	.08	.09	.11	.13	.15	.11	.15	.14	.07	.06	.02	.17	.08	NA	-.03	.03	.07	NA	NA	NA	.14
.10	.05	-.06	.00	.00	.05	-.06	.02	.02	-.02	.03	.01	.09	.02	NA	-.02	-.01	.06	NA	NA	NA	.09
.17	.10	.12	.13	.14	.17	.13	.18	.16	.03	-.02	-.03	.09	.12	.23	-.04	.07	.01	NA	NA	NA	.17
.05	.01	-.02	-.01	-.05	.02	.01	.06	.02	-.06	-.03	-.04	.01	.07	.14	-.01	.01	.00	NA	NA	NA	.12
.26	.22	.22	.28	.20	.23	.23	.18	.17	.12	-.04	.08	.10	.15	.16	-.03	.05	.10	NA	NA	NA	.18
.07	.04	-.04	.13	-.03	.03	.01	.00	.00	.01	-.01	.05	.01	.05	.08	.03	-.02	.05	NA	NA	NA	.13
.11	.04	.07	.12	.16	.17	.12	.15	.13	.02	.03	-.06	.11	.09	.22	.00	.07	-.02	NA	NA	NA	.20
-.04	-.04	.01	.01	.02	.07	.01	.01	.00	-.03	.00	-.06	.03	.04	.12	.01	-.01	.00	NA	NA	NA	.16

### 3-4. まとめ

本章では在学中の学修行動（熱心な取り組み）、教育の成果（身につけたこと）、そして現在の状況（満足度・学修の仕事への活用）の個人差を説明・予測する要因を、重回帰分析により調べてきた。

在学中の熱心な学修行動（表3-1）に関しては、熱心な学修行動に関するその他の質問項目や、在学中により教員と出会えた経験が、全体的に個人差を説明・予測する変数であった。また学修行動に関する望ましい経験は、それ以外の学修行動の経験があること、また一般教育科目やゼミを熱心に取り組んだことが、全体的に個人差を説明・予測する質問項目であった。また特別な理由なく授業を欠席した経験に関しては、中学の頃に自分が好きでない勉強にも全力で取り組んだ学生ほど、負の影響があることがわかった。表3-1は平均的に.45程度の（自由度調整済み）決定係数があり、目的変数の分散の45%ほどは、平均的に説明・予測ができていたようである。

教育の成果（表3-2）に関しては、専門科目に熱心に取り組んだこと、在学中により教員に出会えた経験や、授業内容について他の学生と議論した経験があることが、全体的に個人差を説明・予測する変数であった。また異文化理解や外国語を理解し話せることの習得に関しては、語学授業以外での外国語の議論や発表の経験や、早稲田の受験理由として国際化が進んでいることとした学生ほど、ポジティブな回答をすることがわかった。表3-2は平均的に.25程度の（自由度調整済み）決定係数があり、目的変数の分散の25%ほどは、平均的に説明・予測ができていたようである。

現在の生活状況などの満足度に関しては、現在の学習活動として職場の教育・研修プログラムに参加すること、学部3～4年の成績、仕事の難しい問題に直面した時に相談できる友人がいることが、比較的個人差を説明・予測する質問項目であった。また大学の学びの仕事への役立ち度に関しては、在学中にその学びを熱心に取り組んだ学生ほど、それが仕事に役立っていると答えるようである。また早稲田大学を誇りに思うことに関しては、受験理由として早稲田の伝統・校風が好きだということを挙げている学生ほど、ポジティブな回答をすることがわかった。表3-3は平均的に.25程度の（自由度調整済み）決定係数があり、目的変数の分散の25%ほどは、平均的に説明・予測ができていたようである。

ただし特に近い事柄を聞いている質問項目間に、相関係数の絶対値が.7を超える高いものがあり、結果の信頼性が低くなっている可能性があることに注意が必要である。具体的には各表の、中学時代の「自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ - なかなか成果が出なくてもあきらめずにしっかり勉強を続けた」(.70)、学部経験の「授業内容について教員と議論した - 授業内容について他の学生と議論した」(.71)、早稲田で身につけたことの「物事を論理的に考えられる - 課題の解決方法を提案できる」(.74)と、「多様性を受け入れられる - 異文化を理解できる」(.71)、そして「学部1～2年の成績 - 学部3～4年の成績」(.85)である。VIF>10の変数は含まれていない。

全体的に、在学中により教員に出会えた経験はポジティブに、特別な理由なく授業を欠席した経験はネガティブに、様々な側面を比較的好く説明・予測できるという傾向が見られるが、決定係数の大きさを考えると、今回取り上げた以外の質問項目（説明要因）についても検討していく必要があるだろう。

## 2021年度 卒業生調査 集計表

### 目次

#### I. 調査概要

---

#### II. 調査項目（グレー部分の自由記述は省略）

---

##### 1. 基本情報

---

- Q01. あなたの年齢（2021年1月1日現在）を記入してください。
- Q02. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。
- Q03. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。
- Q04. あなたの高校卒業時の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。
- Q05. あなたの現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。
- Q06. あなたが早稲田大学を卒業した年（西暦）・月を記入してください。※大学院等へ進学し、修了した方も「学部」の卒業年月をお答えください。
- Q07. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。

##### 2. 入学時について

---

- Q08. あなたが大学に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。
- Q09. 早稲田大学は第一志望でしたか。また、入学した学部は第一志望でしたか。それぞれお選びください。
- Q10. あなたは現役で入学しましたか。あてはまるものを一つだけお選びください。
- Q11. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。
- Q12. 中学3年の時と高校3年の時の成績は、あなたの通っていた学校のなかでどのあたりでしたか。
- Q13. あなたが中学生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。
- Q14. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。

##### 3. 在学時の経験

---

- Q15. あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。
- Q16. 学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きます。以下のような経験はどのくらいありましたか。

Q17. 大学（学部）在学中に留学をしたことはありますか。複数ある場合には、より長い期間を選んでください。

Q18. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。

Q19. 早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。

#### 4. 卒業後の経験・生活

---

Q20. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。

Q21. 学部在学中にもっと熱心に取り組めばよかったと思うものを、すべて選んでください。

Q22. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。該当するものを一つだけお選びください。

Q23. 就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。該当するものを一つだけお選びください。

Q24. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。

Q25. あなたの学部卒業直後の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

Q26. 卒業後最初についてのお仕事は、現在も継続されていますか。出向や転勤などで異動している場合は、同じ会社・団体・組織としてください。

Q27. 学部・大学院等の卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。

Q28. あなたの現在の就業形態について、該当するものを一つだけお選びください。 ※現在、就業していない方は、「就業していない」を選択してください。

Q29. 転職または辞職された理由は何ですか。最も大きい理由を一つだけお選びください。

Q30. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。

Q31. 現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該当するものを一つだけお選びください。

Q32. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。

Q33. 現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください。

Q34. あなたの現在の年収（税込）について、該当するものを一つだけお選びください。

Q35. あなたの学部時代の経験は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。該当するものをお選びください。

Q36. あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。該当するものを一つだけお選びください。

Q37. その友人は、どのような関係にある方ですか。あてはまるものすべてをお選びください。

Q38. あなたの現在の仕事の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。

Q39. あなたの生活（仕事を除く）の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。

## 5. 交友関連・自由記述

---

Q40. あなたが本学での学びから得た知識やスキル・経験は、卒業後どのような形で生かされていますか。仕事、私生活、いずれでも結構ですので具体的に教えてください。

Q41. 授業、カリキュラム、教員の指導など、本学が改善すべきであると思う点などについて、ご意見をお聞かせください。

Q42. あなたは早稲田大学の校友(こうゆう)(※1)として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。

Q43. 早稲田大学の校友(卒業生)であることを誇りに思う時はどのような時ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

Q44. あなたが早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか。あてはまるものすべてを選んでください。

## I. 調査概要

---

- ◆ **調査方法**      ダイレクトメールの送付とメール配信を通じた「Qualtrics」を用いたオンライン調査
- ◆ **調査時期**      2021年12月25日（土）～2022年1月31日（月）
- ◆ **調査対象者**      早稲田大学の2008年度学部入学者 9,807名
- ◆ **回収状況**      1,013件 回収率（10.3%）
- ◆ **調査結果引用に関するお願い**

本調査結果を引用される際には、下記の出典を明記くださいますようお願いいたします。

著者：早稲田大学大学総合研究センター タイトル：2021年度 早稲田大学卒業生調査
--

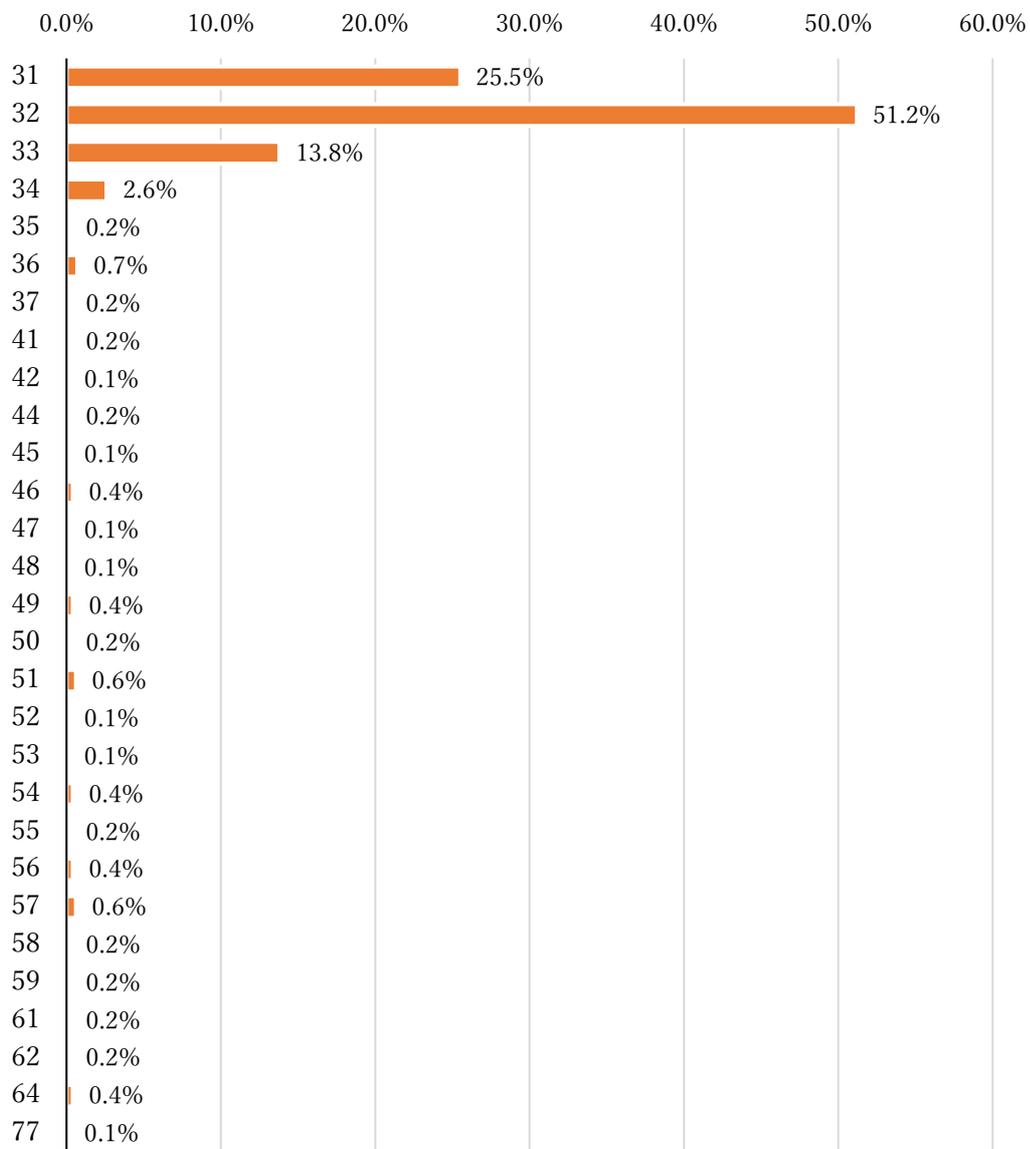
## Ⅱ. 調査項目

---

### 1. 基本情報

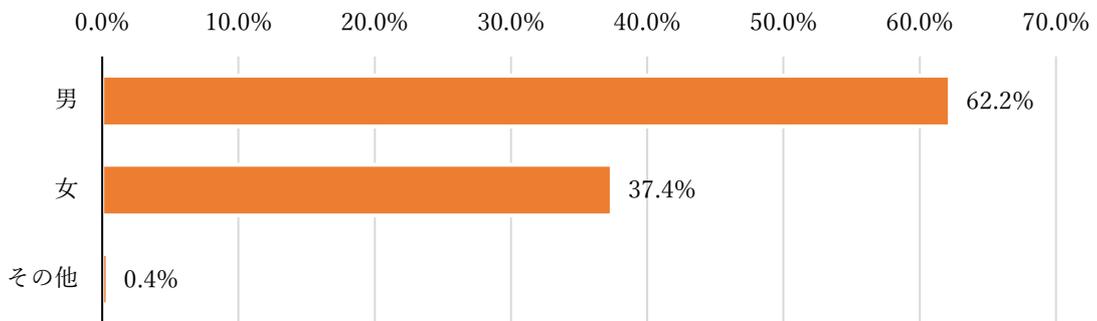
---

Q01. あなたの年齢（2021年1月1日現在）を記入してください。



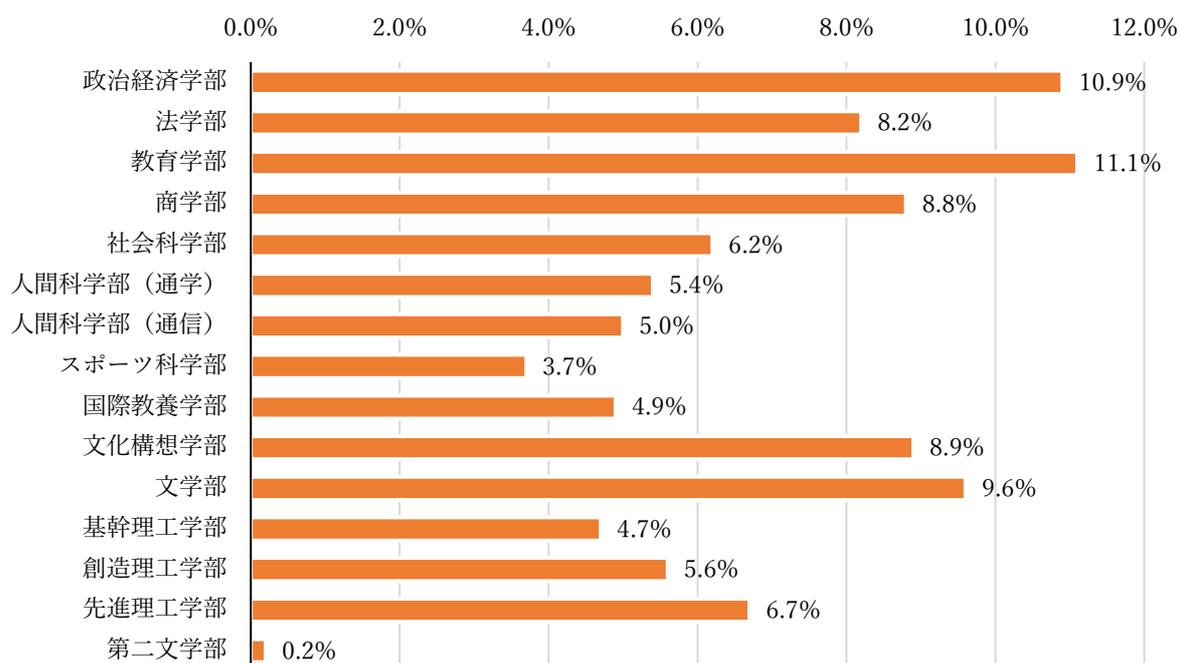
31歳	216	51歳	5
32歳	433	52歳	1
33歳	117	53歳	1
34歳	22	54歳	3
35歳	2	55歳	2
36歳	6	56歳	3
37歳	2	57歳	5
41歳	2	58歳	2
42歳	1	59歳	2
44歳	2	61歳	2
45歳	1	62歳	2
46歳	3	64歳	3
47歳	1	77歳	1
48歳	1		
49歳	3		
50歳	2		

Q02. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。



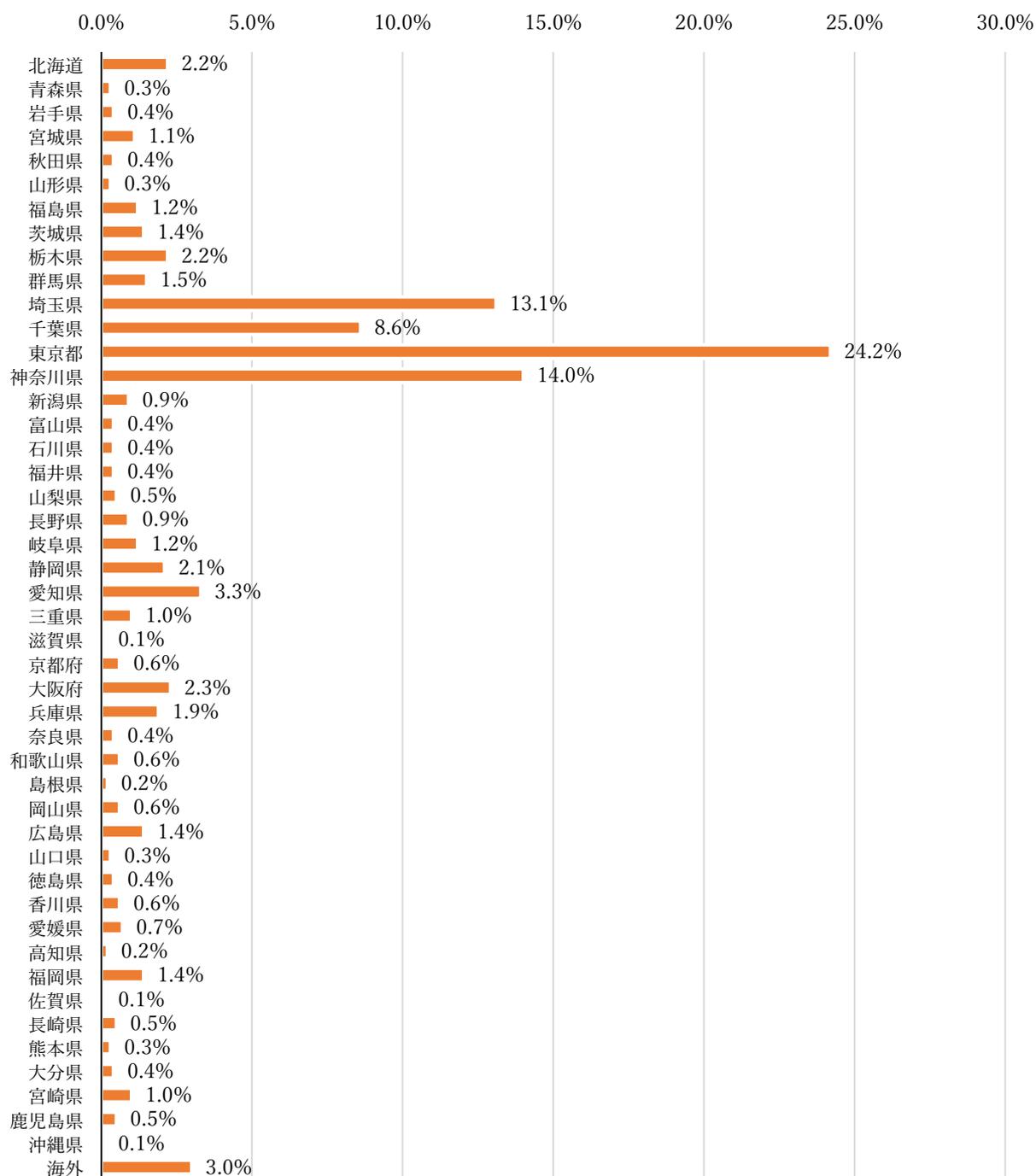
男	586
女	352
その他	4

Q03. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。



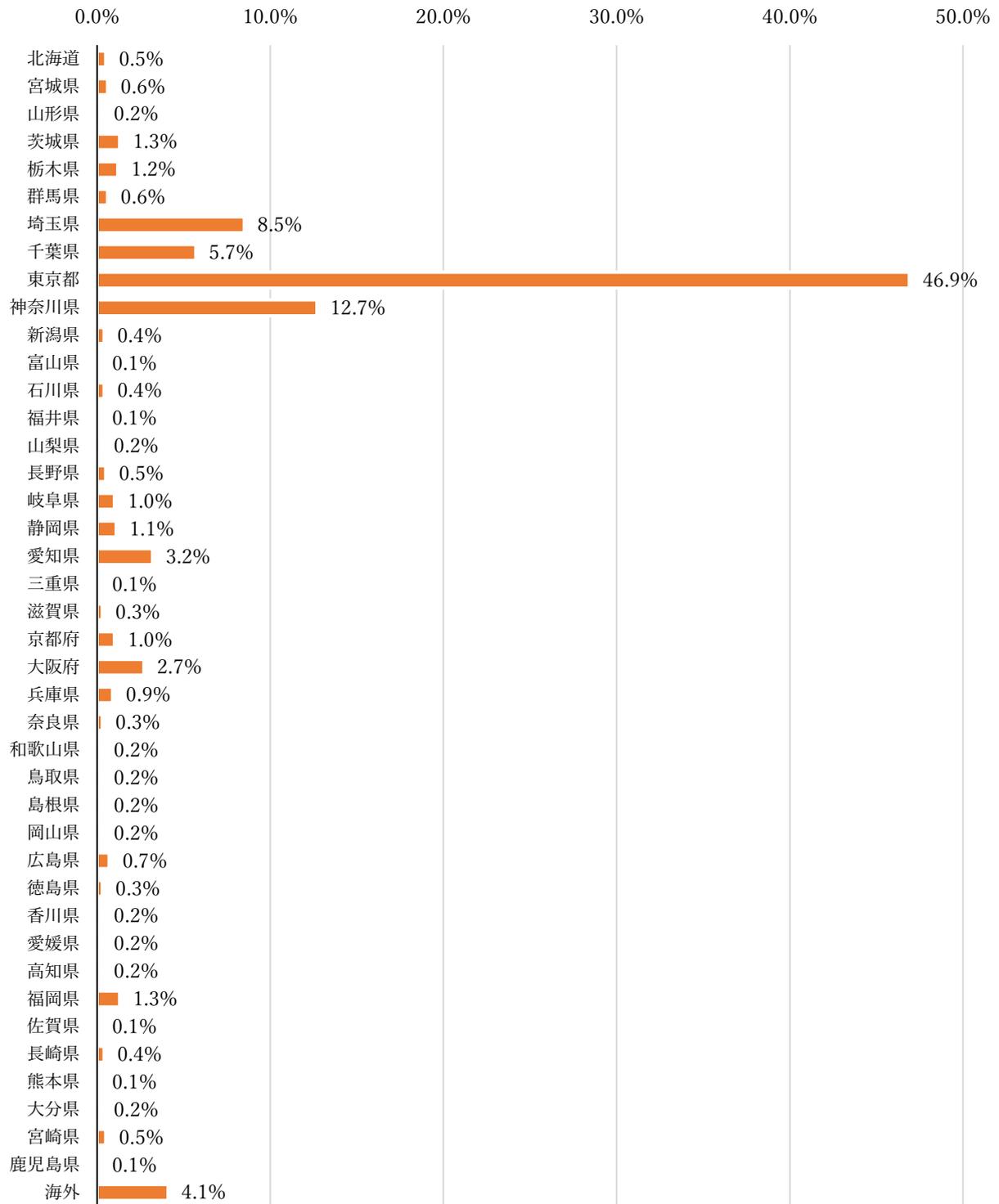
政治経済学部	102	文化構想学部	84
法学部	77	文学部	90
教育学部	104	基幹理工学部	44
商学部	83	創造理工学部	53
社会科学部	58	先進理工学部	63
人間科学部 (通学)	51	第二文学部	2
人間科学部 (通信)	47		
スポーツ科学部	35		
国際教養学部	46		

Q04. あなたの高校卒業時の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。



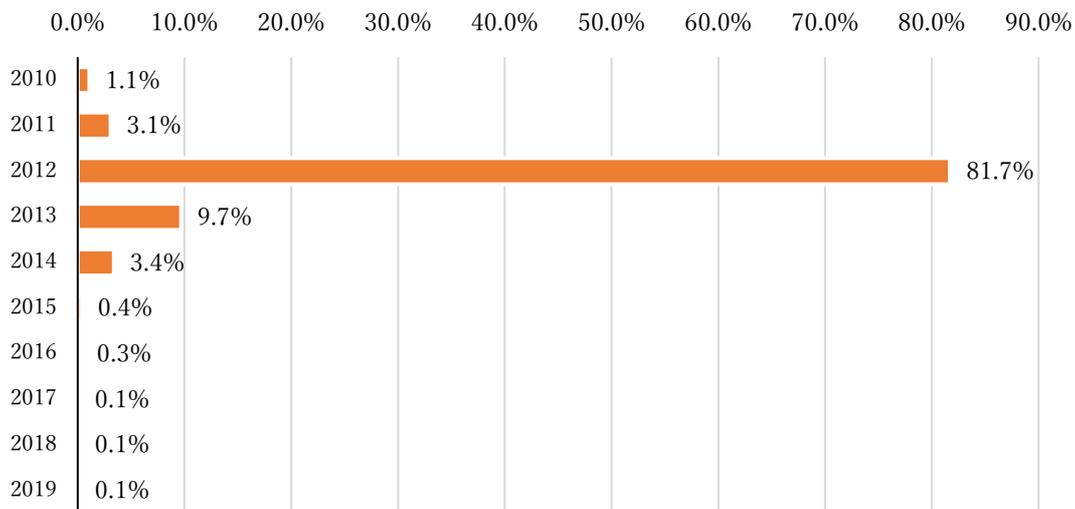
北海道	21	滋賀県	1
青森県	3	京都府	6
岩手県	4	大阪府	22
宮城県	10	兵庫県	18
秋田県	4	奈良県	4
山形県	3	和歌山県	6
福島県	11	島根県	2
茨城県	13	岡山県	6
栃木県	21	広島県	13
群馬県	14	山口県	3
埼玉県	123	徳島県	4
千葉県	81	香川県	6
東京都	227	愛媛県	7
神奈川県	131	高知県	2
新潟県	8	福岡県	13
富山県	4	佐賀県	1
石川県	4	長崎県	5
福井県	4	熊本県	3
山梨県	5	大分県	4
長野県	8	宮崎県	9
岐阜県	11	鹿児島県	5
静岡県	20	沖縄県	1
愛知県	31	海外	28
三重県	9		

Q05. あなたの現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

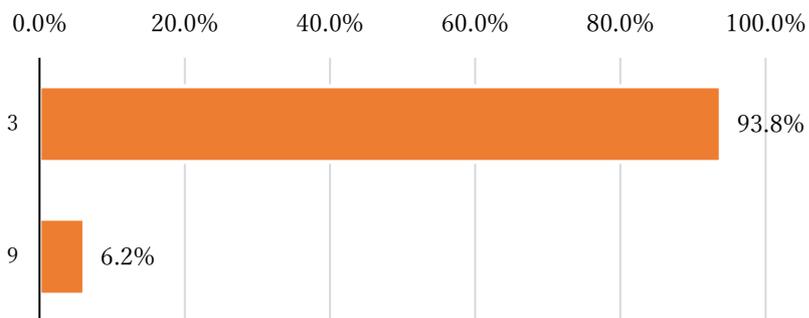


北海道	5	京都府	9
宮城県	6	大阪府	25
山形県	2	兵庫県	8
茨城県	12	奈良県	3
栃木県	11	和歌山県	2
群馬県	6	鳥取県	2
埼玉県	80	島根県	2
千葉県	54	岡山県	2
東京都	441	広島県	7
神奈川県	119	徳島県	3
新潟県	4	香川県	2
富山県	1	愛媛県	2
石川県	4	高知県	2
福井県	1	福岡県	12
山梨県	2	佐賀県	1
長野県	5	長崎県	4
岐阜県	9	熊本県	1
静岡県	10	大分県	2
愛知県	30	宮崎県	5
三重県	1	鹿児島県	1
滋賀県	3	海外	39

Q06. あなたが早稲田大学を卒業した年（西暦）・月を記入してください。※大学院等へ進学し、修了した方も「学部」の卒業年月をお答えください。

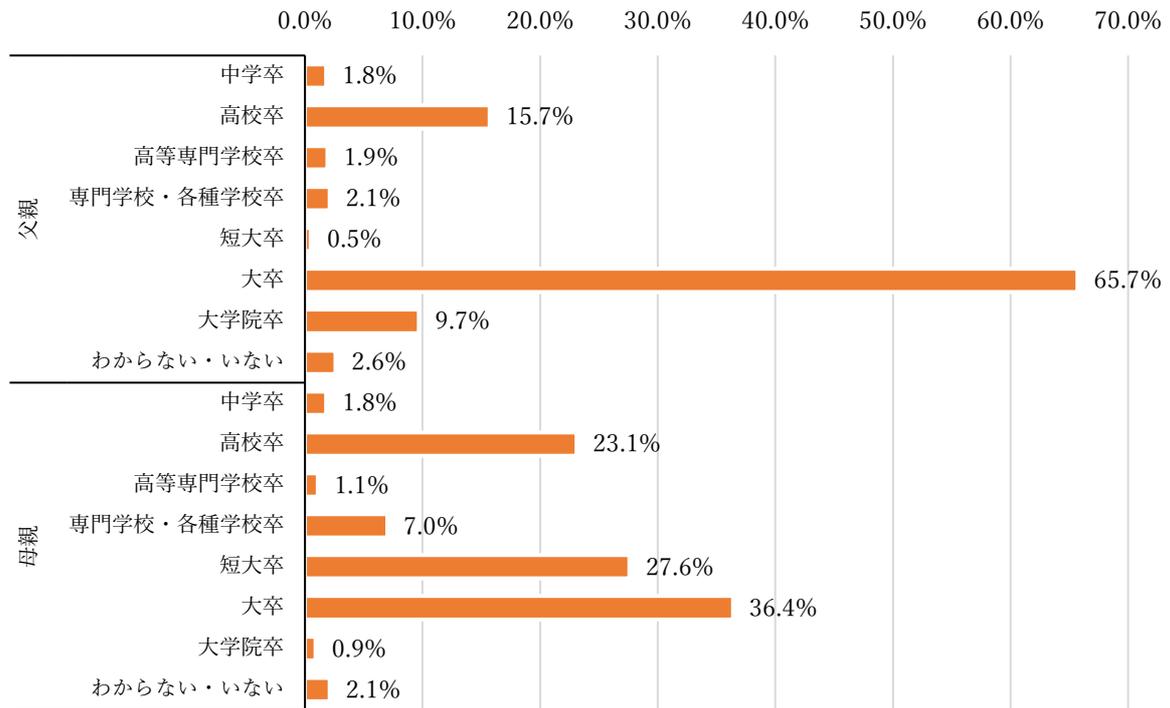


2010年	10
2011年	29
2012年	767
2013年	91
2014年	32
2015年	4
2016年	3
2017年	1
2018年	1
2019年	1



3月	874
9月	58

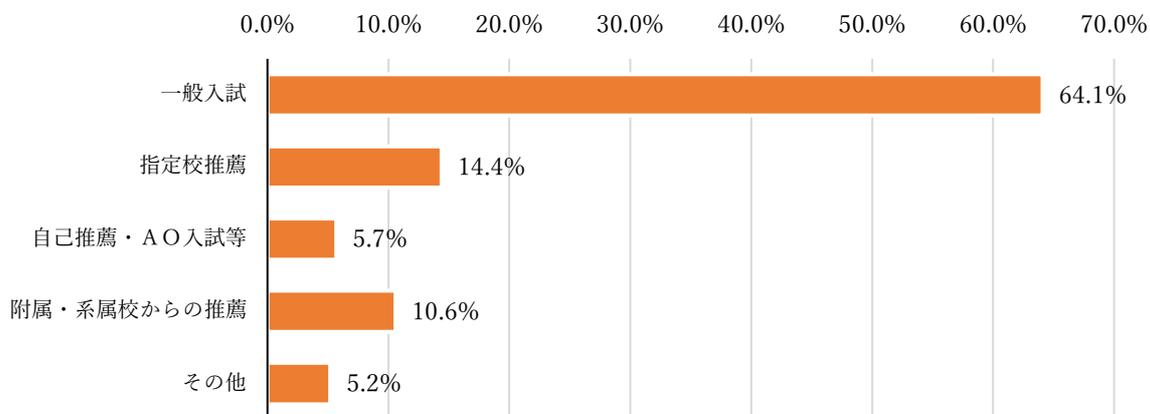
Q07. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。



父親	中学卒	17
	高校卒	148
	高等専門学校卒	18
	専門学校・各種学校卒	20
	短大卒	5
	大卒	618
	大学院卒	91
	わからない・いない	24
母親	中学卒	17
	高校卒	217
	高等専門学校卒	10
	専門学校・各種学校卒	66
	短大卒	259
	大卒	342
	大学院卒	8
	わからない・いない	20

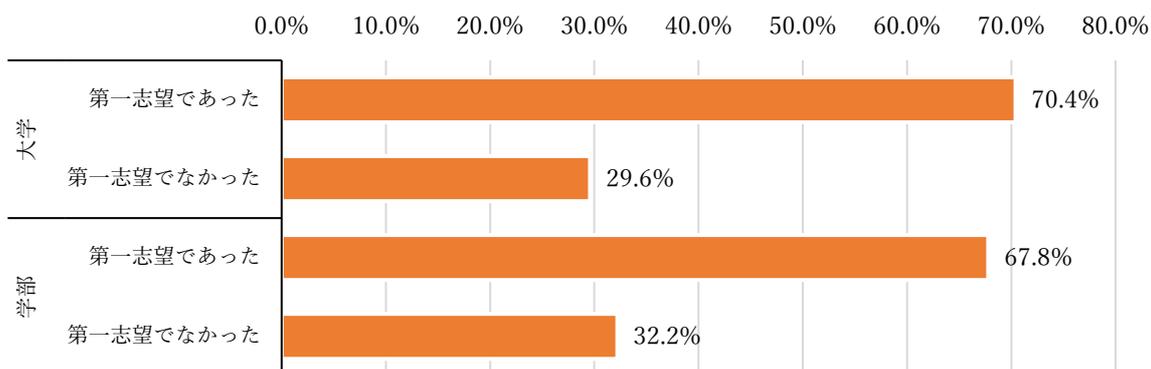
## 2. 入学時について

Q08. あなたが大学に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。



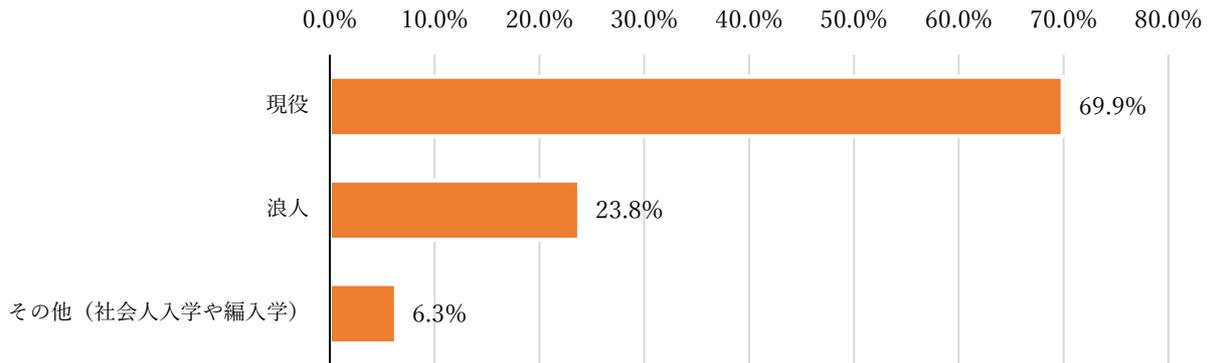
一般入試	583
指定校推薦	131
自己推薦・AO入試等	52
附属・系属校からの推薦	96
その他	47

Q09. 早稲田大学は第一志望でしたか。また、入学した学部は第一志望でしたか。それぞれお選びください。



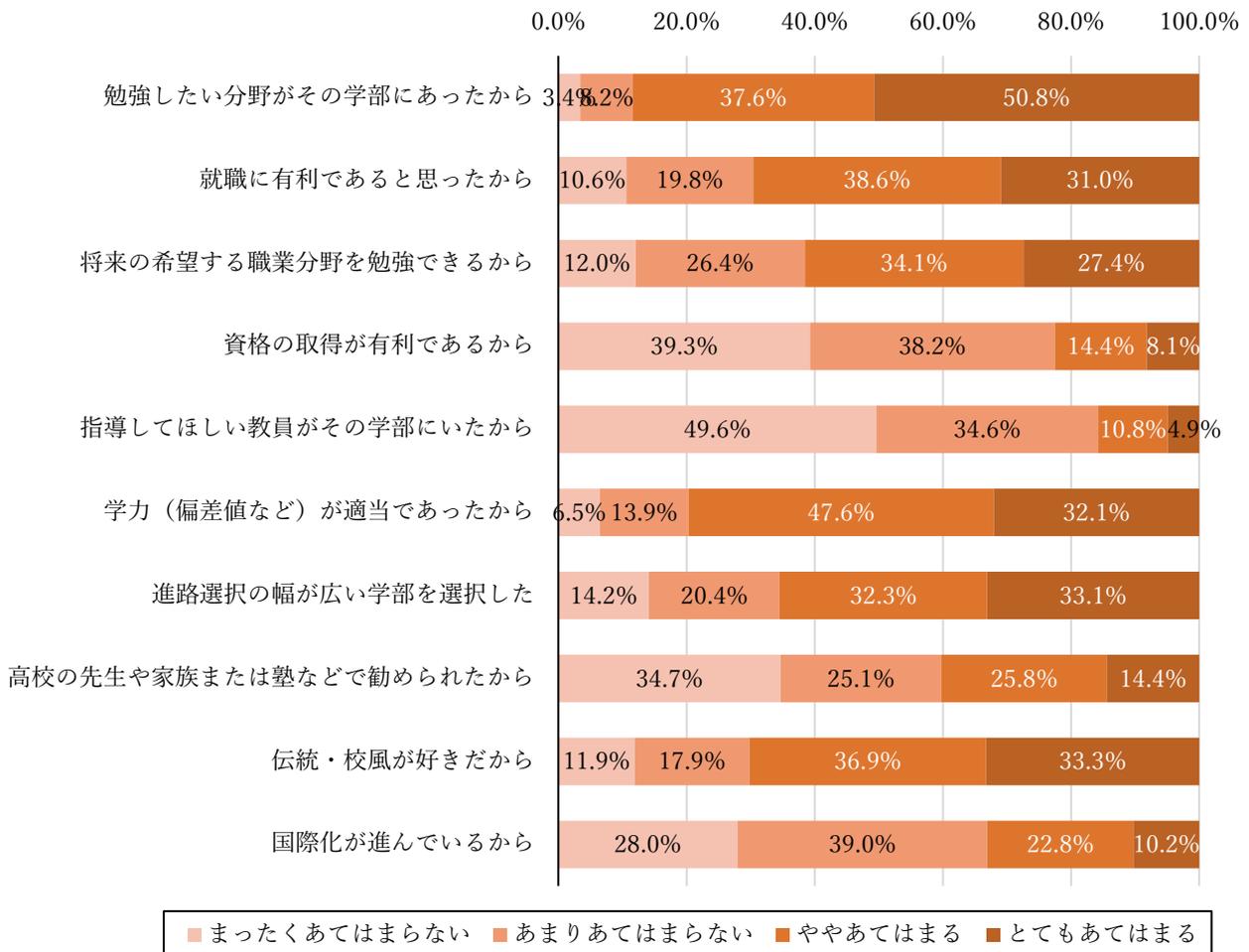
大学	第一志望であった	641
	第一志望でなかった	269
学部	第一志望であった	610
	第一志望でなかった	290

Q10. あなたは現役で入学しましたか。あてはまるものを一つだけお選びください。



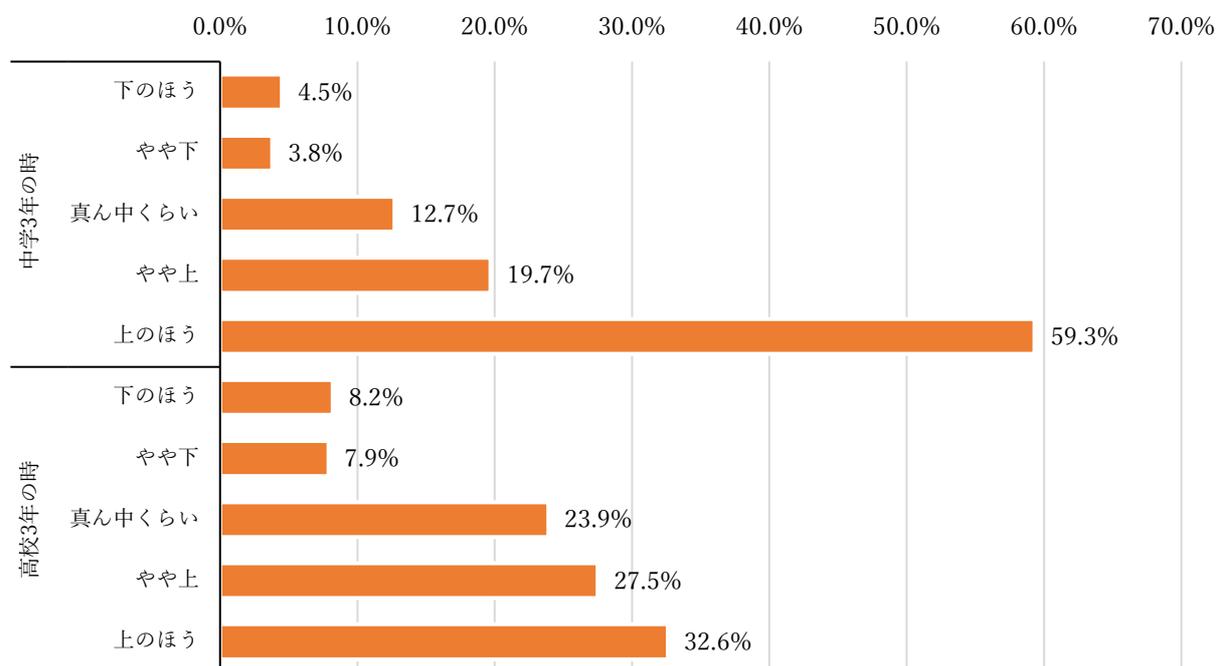
現役	636
浪人	217
その他（社会人入学や編入学）	57

Q11. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。



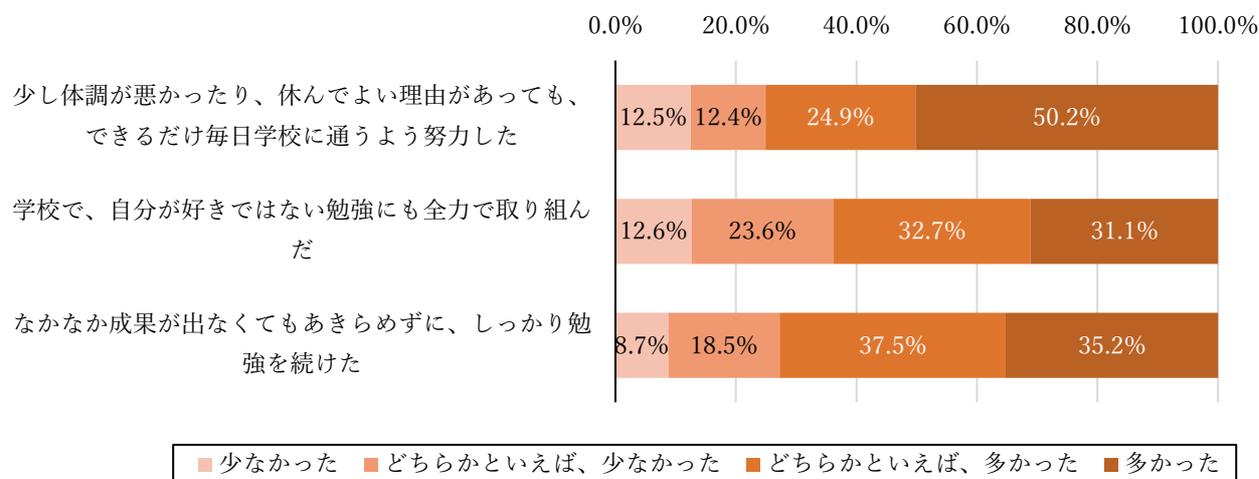
	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
勉強したい分野がその学部にあったから	31	74	339	458
就職に有利であると思ったから	95	178	347	278
将来の希望する職業分野を勉強できるから	108	237	306	246
資格の取得が有利であるから	352	342	129	73
指導してほしい教員がその学部にいたから	444	310	97	44
学力（偏差値など）が適当であったから	58	124	426	287
進路選択の幅が広い学部を選択した	127	183	290	297
高校の先生や家族または塾などで勧められたから	312	226	232	130
伝統・校風が好きだから	107	161	332	299
国際化が進んでいるから	251	350	205	92

Q12. 中学3年の時と高校3年の時の成績は、あなたの通っていた学校のなかでどのあたりでしたか。



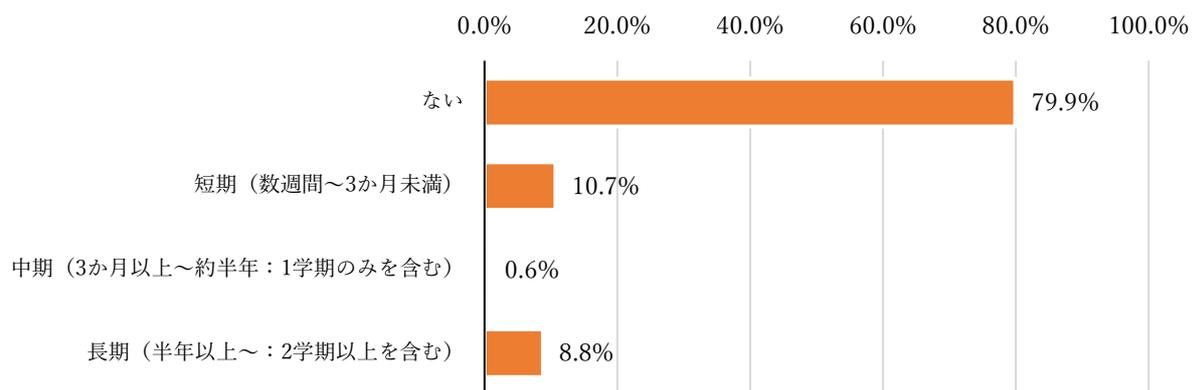
中学3年の時	下のほう	41
	やや下	34
	真ん中くらい	115
	やや上	178
	上のほう	536
高校3年の時	下のほう	74
	やや下	71
	真ん中くらい	216
	やや上	248
	上のほう	294

Q13. あなたが中学生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



	少なかった	どちらか といえ ば、少な かった	どちらか といえ ば、多か った	多かった
少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した	113	112	225	454
学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	114	213	295	281
なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた	79	167	339	318

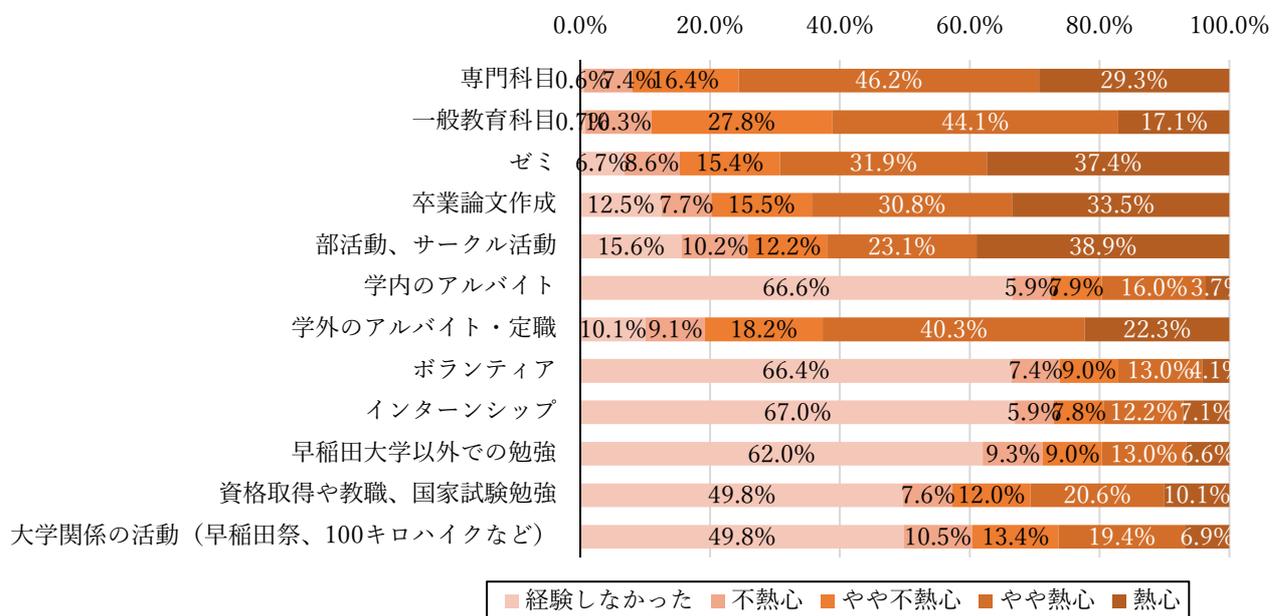
Q14. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。



ない	724
短期 (数週間～3か月未満)	97
中期 (3か月以上～約半年：1学期のみを含む)	5
長期 (半年以上～：2学期以上を含む)	80

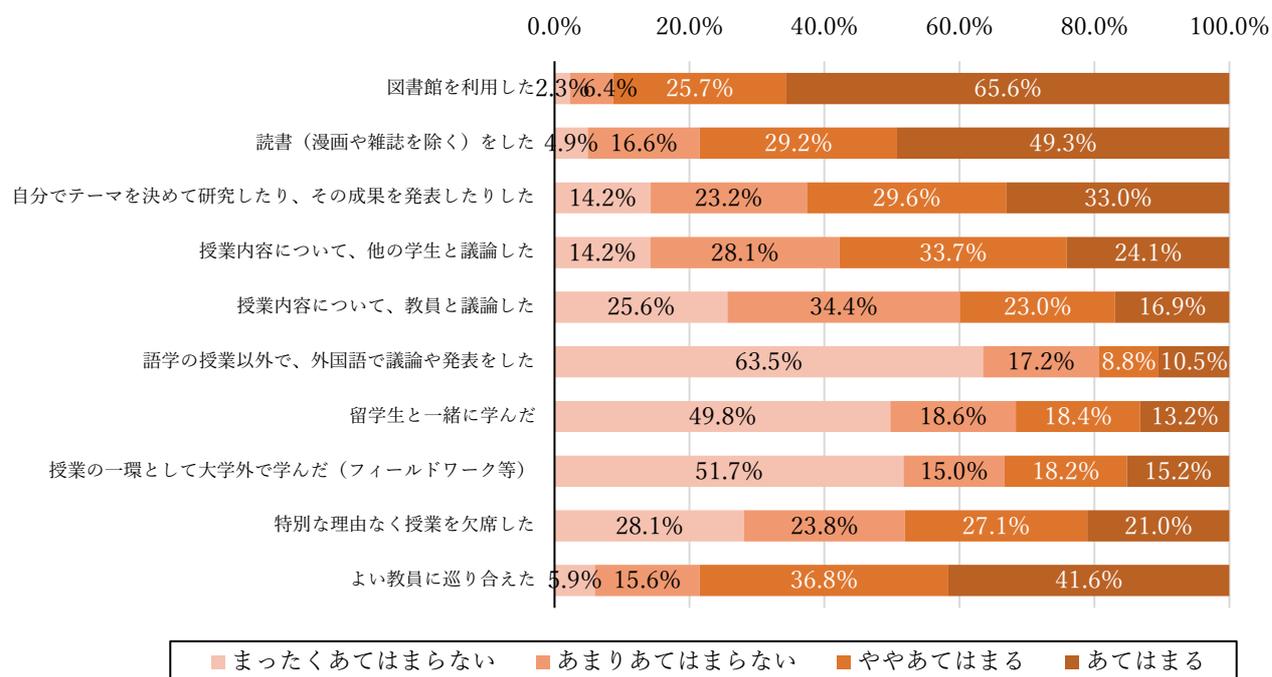
### 3. 在学時の経験

Q15. あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。



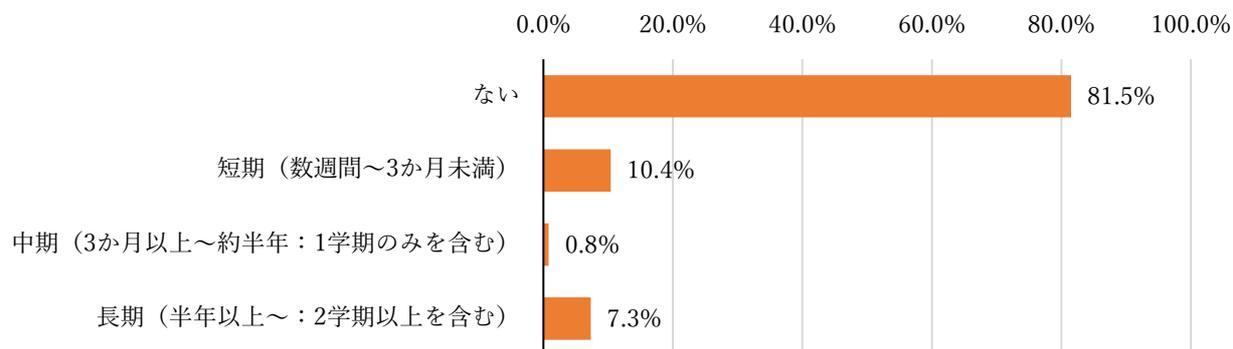
	経験しなかった	不熱心	やや不熱心	やや熱心	熱心
専門科目	5	65	144	405	257
一般教育科目	6	90	244	387	150
ゼミ	59	75	135	279	327
卒業論文作成	109	67	135	269	292
部活動、サークル活動	137	89	107	202	341
学内のアルバイト（TA、研究補助、入試監督、PCルーム管理、図書貸出、キャンパスツアーガイドなど）	583	52	69	140	32
学外のアルバイト・定職	88	80	159	353	195
ボランティア	582	65	79	114	36
インターンシップ	586	52	68	107	62
早稲田大学以外での勉強	542	81	79	114	58
資格取得や教職、国家試験勉強	435	66	105	180	88
大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）	436	92	117	170	60

Q16. 学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きます。以下のような経験はどのくらいありましたか。



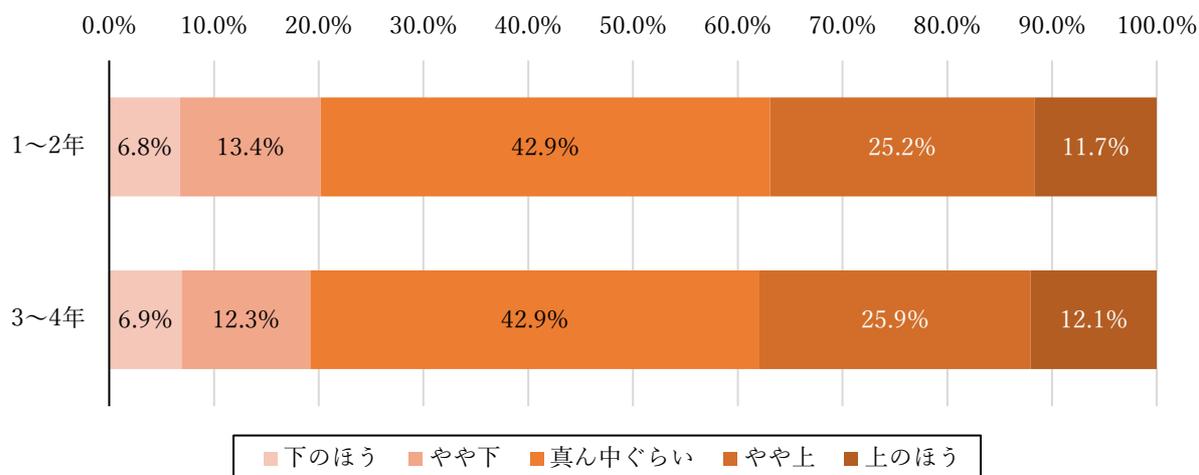
	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
図書館を利用した	20	56	225	575
読書（漫画や雑誌を除く）をした	43	145	255	430
自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	124	202	258	288
授業内容について、他の学生と議論した	124	246	295	211
授業内容について、教員と議論した	224	301	201	148
語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした	556	151	77	92
留学生と一緒に学んだ	436	163	161	116
授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）	453	131	159	133
特別な理由なく授業を欠席した	246	208	237	184
よい教員に巡り合えた	52	136	322	364

Q17. 大学（学部）在学中に留学をしたことはありますか。複数ある場合には、より長い期間を選んでください。



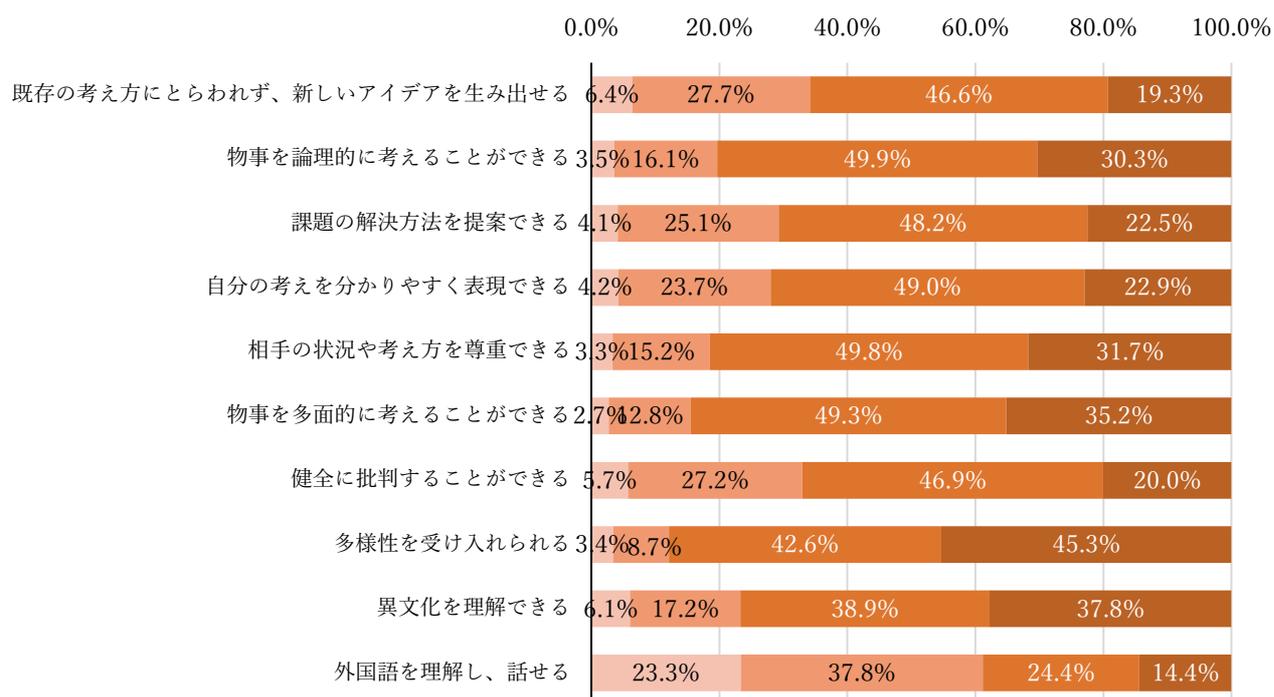
ない	712
短期（数週間～3か月未満）	91
中期（3か月以上～約半年：1学期のみを含む）	7
長期（半年以上～：2学期以上を含む）	64

Q18. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。



	下のほう	やや下	真ん中ぐらい	やや上	上のほう
1～2年	59	117	374	220	102
3～4年	60	107	373	225	105

Q19. 早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。

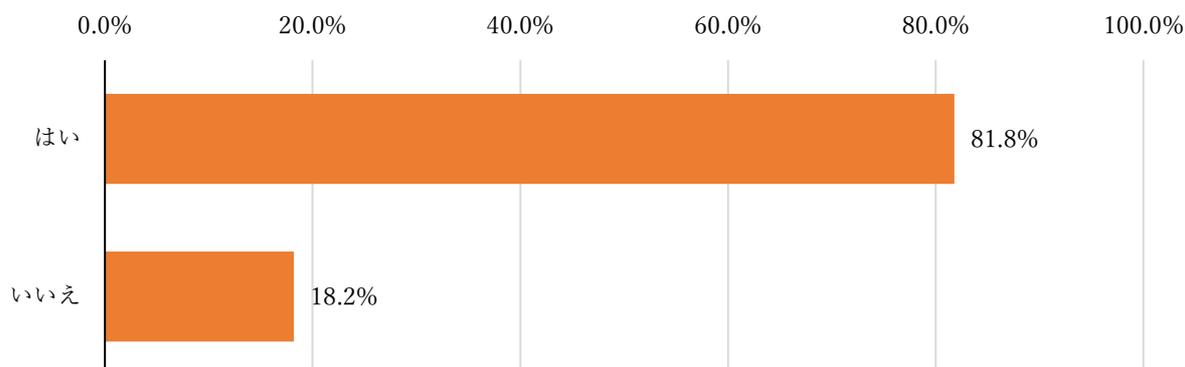


■ 身につけていない ■ あまり身につけていない ■ まあまあ身についた ■ 身についた

	身につけていない	あまり身につけていない	まあまあ身についた	身についた
既存の考えにとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	56	243	408	169
物事を論理的に考えることができる	31	141	437	265
課題の解決方法を提案できる	36	220	422	197
自分の考えを分かりやすく表現できる	37	208	429	201
相手の状況や考え方を尊重できる	29	133	436	278
物事を多面的に考えることができる	24	112	432	308
健全に批判することができる	50	238	411	175
多様性を受け入れられる	30	76	373	397
異文化を理解できる	53	151	341	331
外国語を理解し、話せる	204	331	214	126

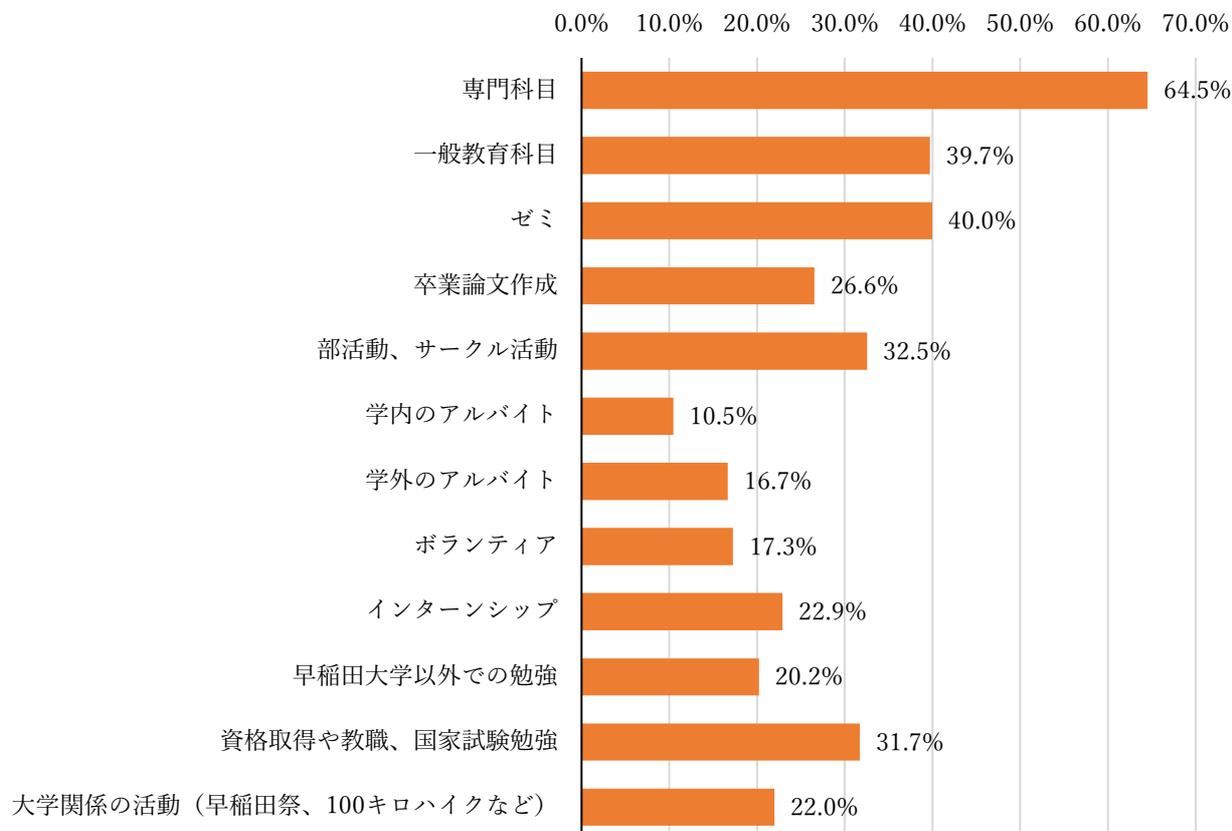
#### 4. 卒業後の経験・生活

Q20. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。



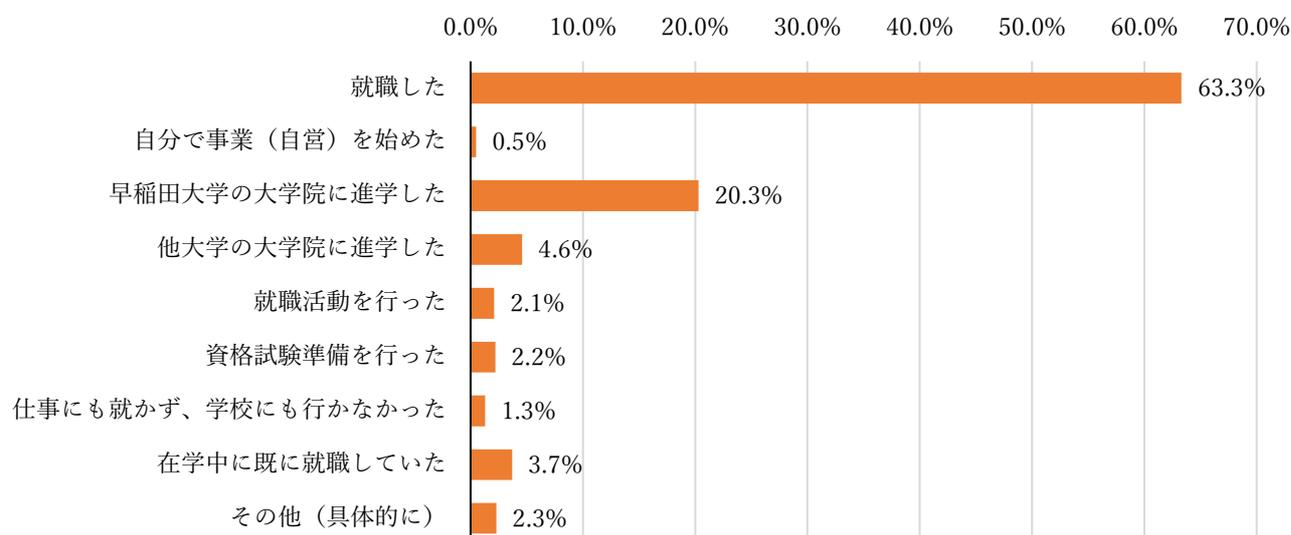
はい	717
いいえ	159

Q21. 学部在学中にもっと熱心に取り組めばよかったと思うものを、すべて選んでください。



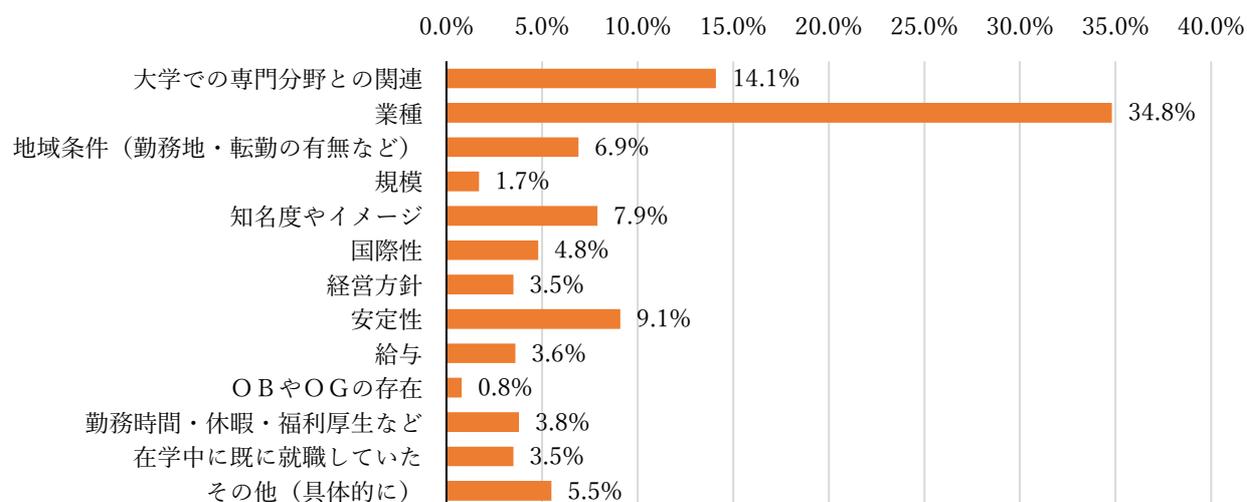
専門科目	549	学外のアルバイト	142
一般教育科目	338	ボランティア	147
ゼミ	340	インターンシップ	195
卒業論文作成	226	早稲田大学以外での勉強	172
部活動、サークル活動	277	資格取得や教職、国家試験勉強	270
学内のアルバイト	89	大学関係の活動（早稲田祭、 100キロハイクなど）	187

Q22. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。該当するものを一つだけお選びください。



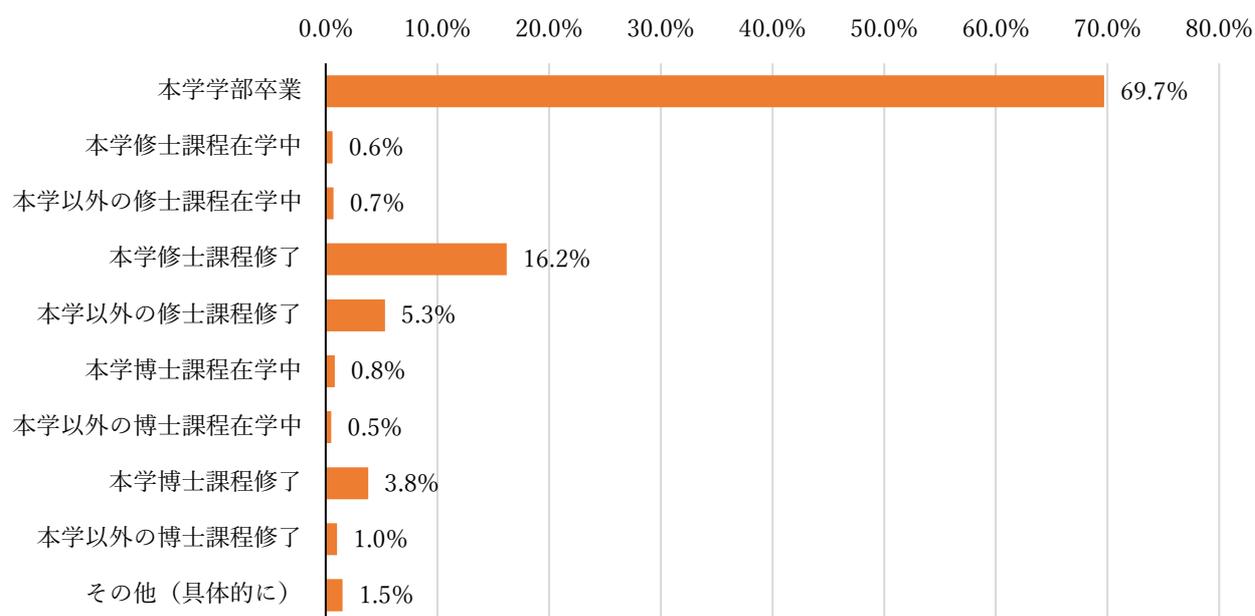
就職した	553
自分で事業（自営）を始めた	4
早稲田大学の大学院に進学した	177
他大学の大学院に進学した	40
就職活動を行った	18
資格試験準備を行った	19
仕事にも就かず、学校にも行かなかった	11
在学中に既に就職していた	32
その他（具体的に）	20

Q23. 就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。該当するものを一つだけお選びください。



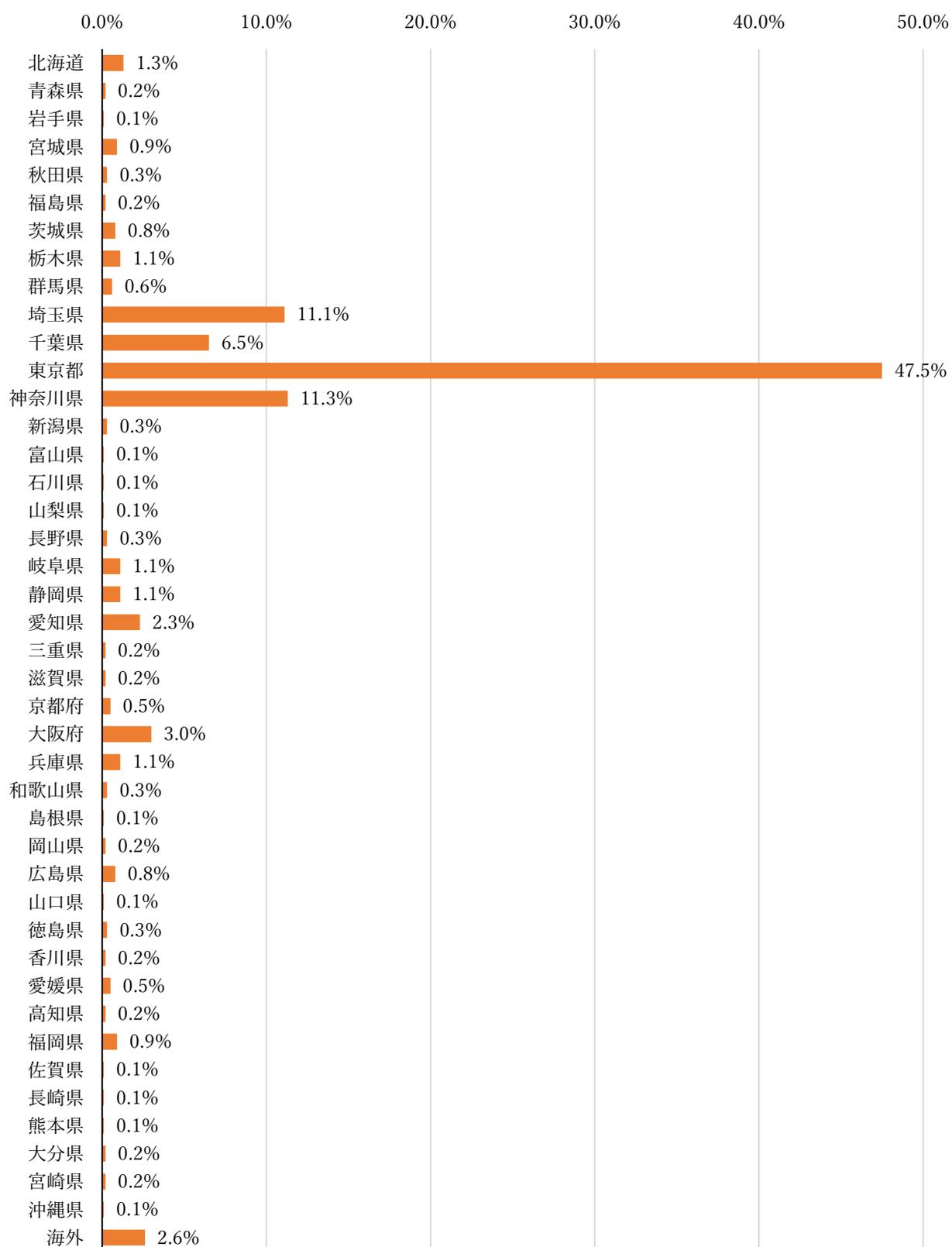
大学での専門分野との関連	122	安定性	79
業種	302	給与	31
地域条件（勤務地・転勤の有無など）	60	OBやOGの存在	7
規模	15	勤務時間・休暇・福利厚生など	33
知名度やイメージ	69	在学中に既に就職していた	30
国際性	42	その他（具体的に）	48
経営方針	30		

Q24. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。



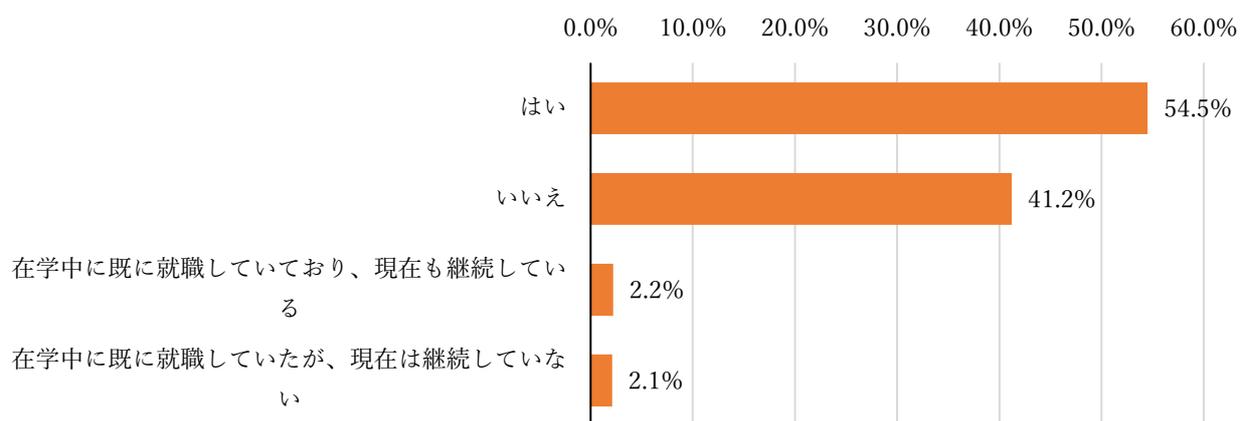
本学学部卒業	609
本学修士課程在学中	5
本学以外の修士課程在学中	6
本学修士課程修了	142
本学以外の修士課程修了	46
本学博士課程在学中	7
本学以外の博士課程在学中	4
本学博士課程修了	33
本学以外の博士課程修了	9
その他 (具体的に)	13

Q25. あなたの学部卒業直後の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。



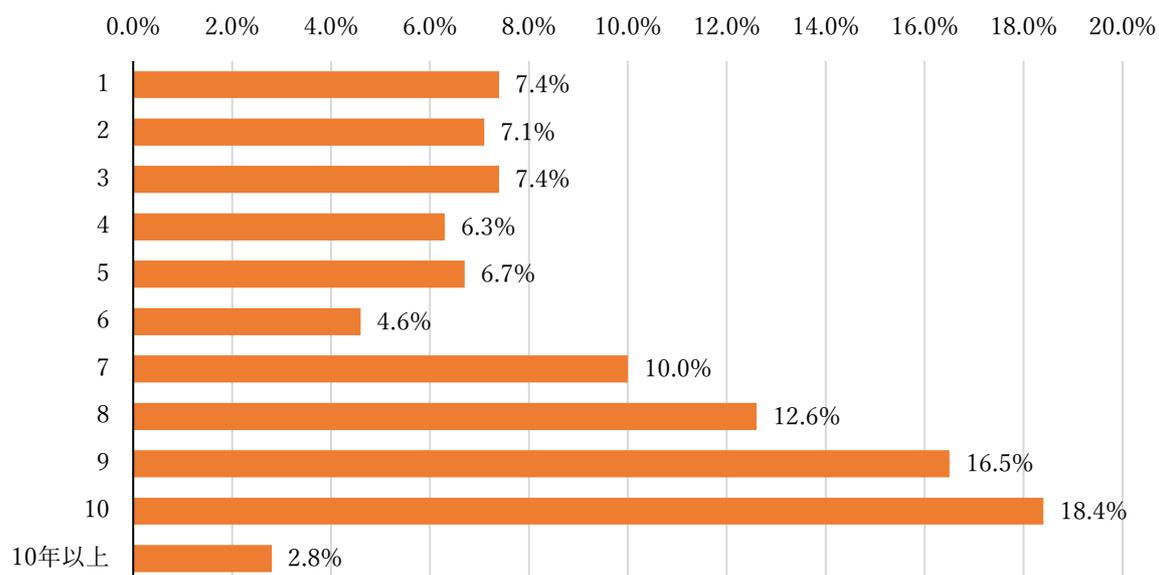
北海道	11	石川県	1	山口県	1
青森県	2	山梨県	1	徳島県	3
岩手県	1	長野県	3	香川県	2
宮城県	8	岐阜県	10	愛媛県	4
秋田県	3	静岡県	10	高知県	2
福島県	2	愛知県	20	福岡県	8
茨城県	7	三重県	2	佐賀県	1
栃木県	10	滋賀県	2	長崎県	1
群馬県	5	京都府	4	熊本県	1
埼玉県	97	大阪府	26	大分県	2
千葉県	57	兵庫県	10	宮崎県	2
東京都	415	和歌山県	3	沖縄県	1
神奈川県	99	島根県	1	海外	23
新潟県	3	岡山県	2		
富山県	1	広島県	7		

Q26. 卒業後最初についてのお仕事は、現在も継続されていますか。出向や転勤などで異動している場合は、同じ会社・団体・組織としてください。



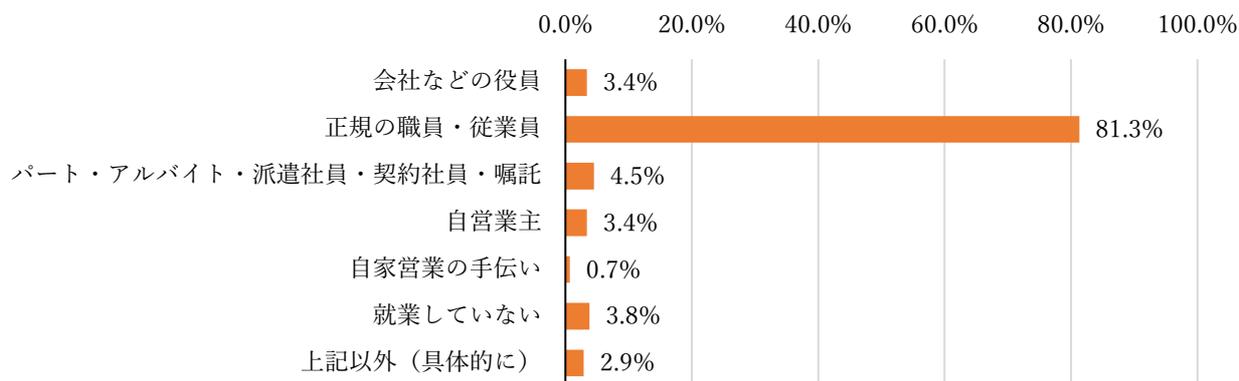
はい	476
いいえ	360
在学中に既に就職しており、現在も継続している	19
在学中に既に就職していたが、現在は継続していない	18

Q27. 学部・大学院等の卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。



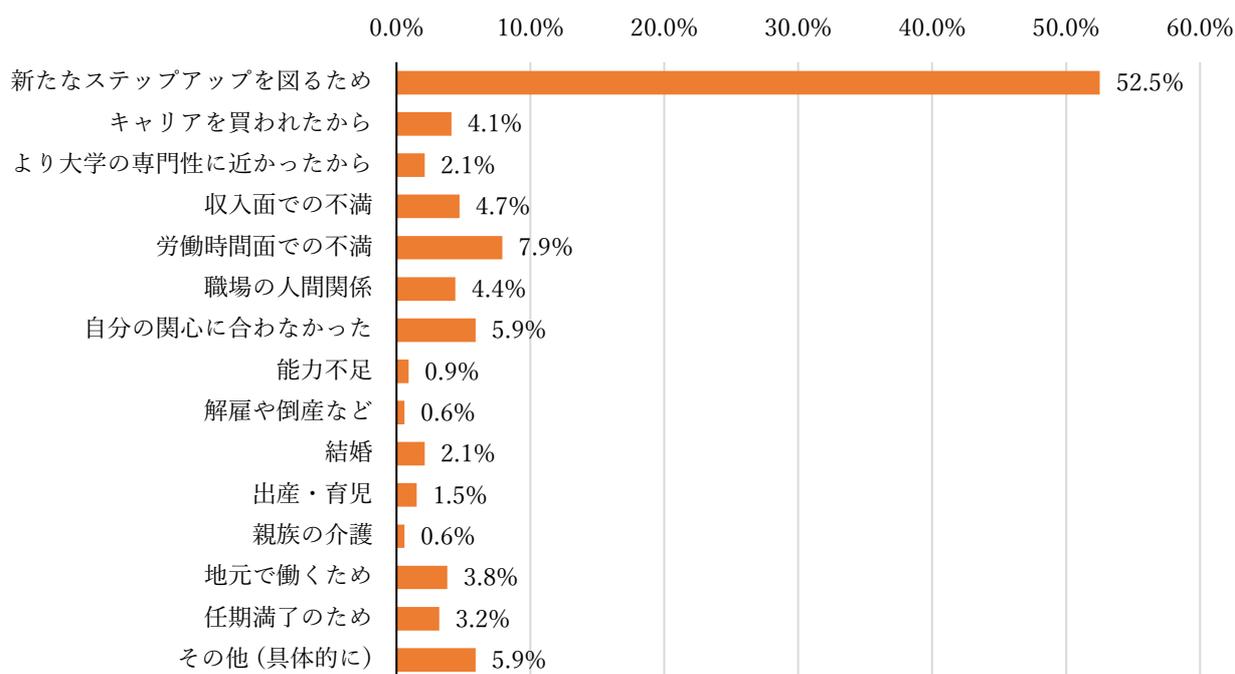
1年	61
2年	58
3年	61
4年	52
5年	55
6年	38
7年	82
8年	103
9年	135
10年	151
10年以上	23

Q28. あなたの現在の就業形態について、該当するものを一つだけお選びください。 ※現在、就業していない方は、「就業していない」を選択してください。



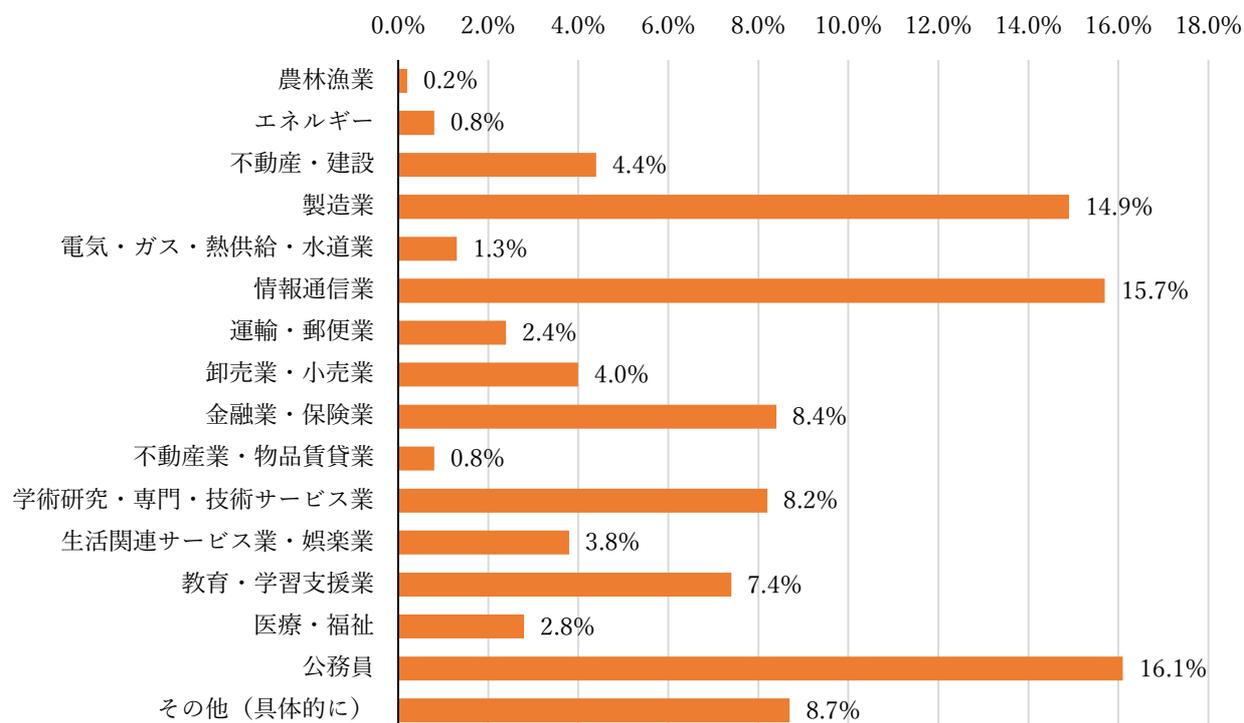
会社などの役員	30
正規の職員・従業員	708
パート・アルバイト・派遣社員・契約社員・嘱託	39
自営業主	30
自家営業の手伝い	6
就業していない	33
上記以外（具体的に）	25

Q29. 転職または辞職された理由は何ですか。最も大きい理由を一つだけお選びください。



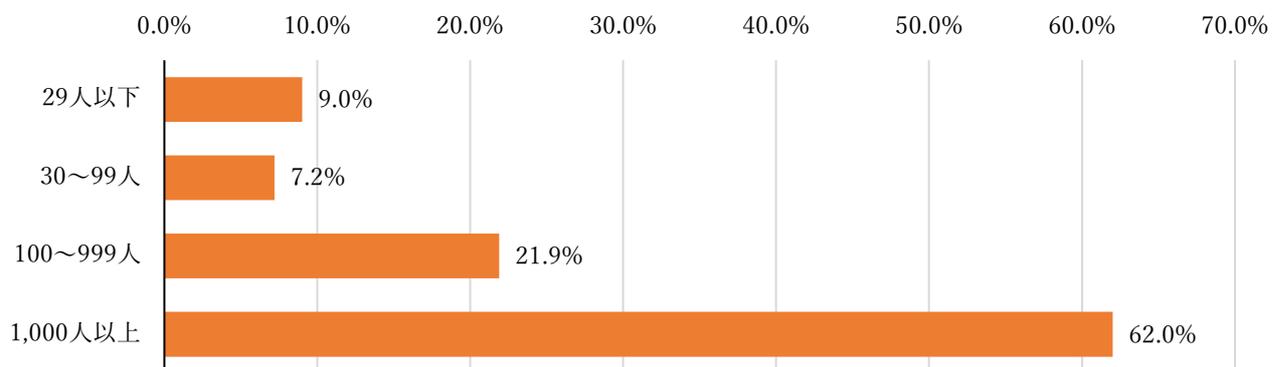
新たなステップアップを図るため	179
キャリアを買われたから	14
より大学の専門性に近かったから	7
収入面での不満	16
労働時間面での不満	27
職場の人間関係	15
自分の関心に合わなかった	20
能力不足	3
解雇や倒産など	2
結婚	7
出産・育児	5
親族の介護	2
地元で働くため	13
任期満了のため	11
その他（具体的に）	20

Q30. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。



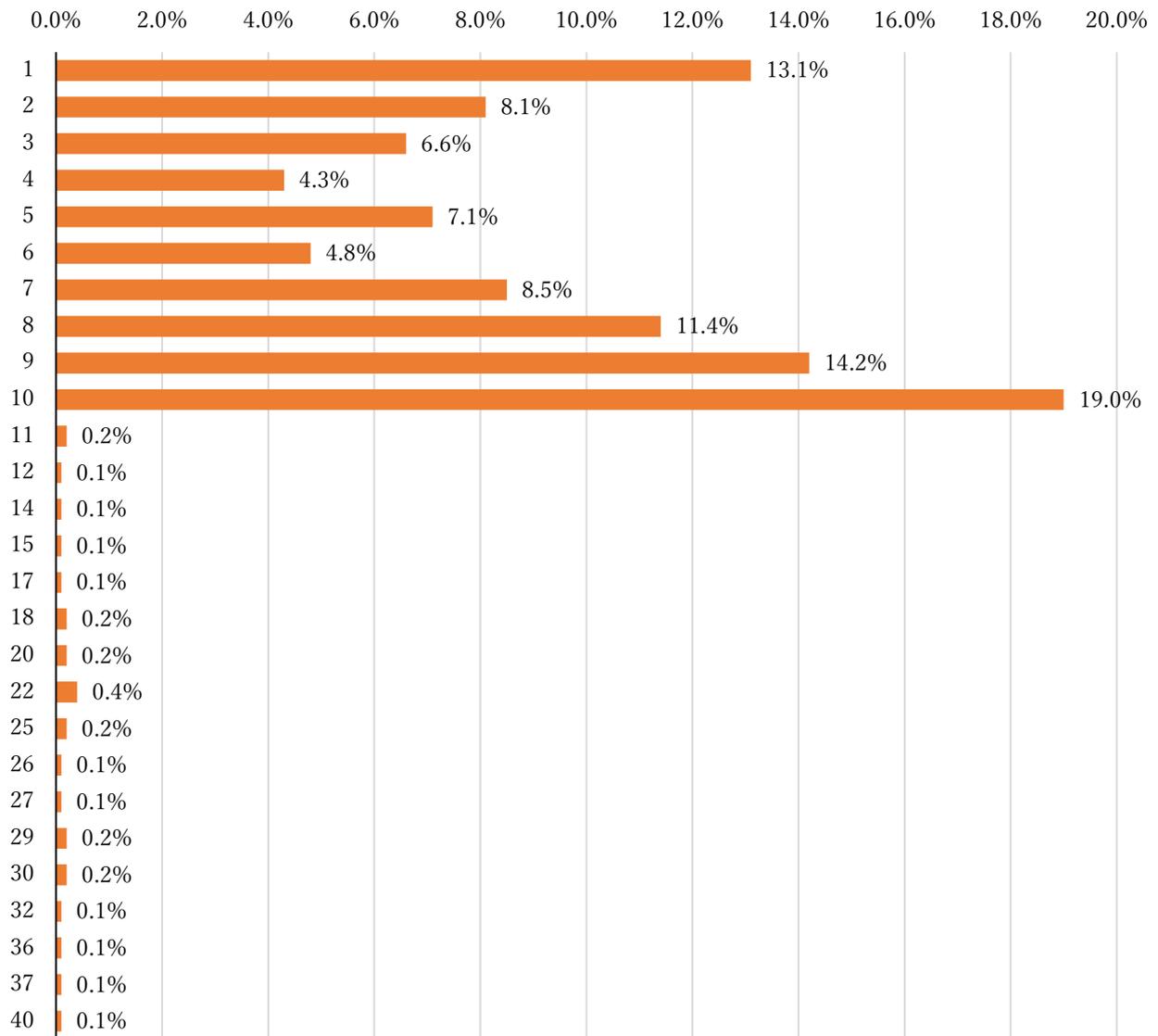
農林漁業	2
エネルギー	7
不動産・建設	36
製造業	123
電気・ガス・熱供給・水道業	11
情報通信業	130
運輸・郵便業	20
卸売業・小売業	33
金融業・保険業	69
不動産業・物品賃貸業	7
学術研究・専門・技術サービス業	68
生活関連サービス業・娯楽業	31
教育・学習支援業	61
医療・福祉	23
公務員	133
その他（具体的に）	72

Q31. 現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該当するものを一つだけお選びください。



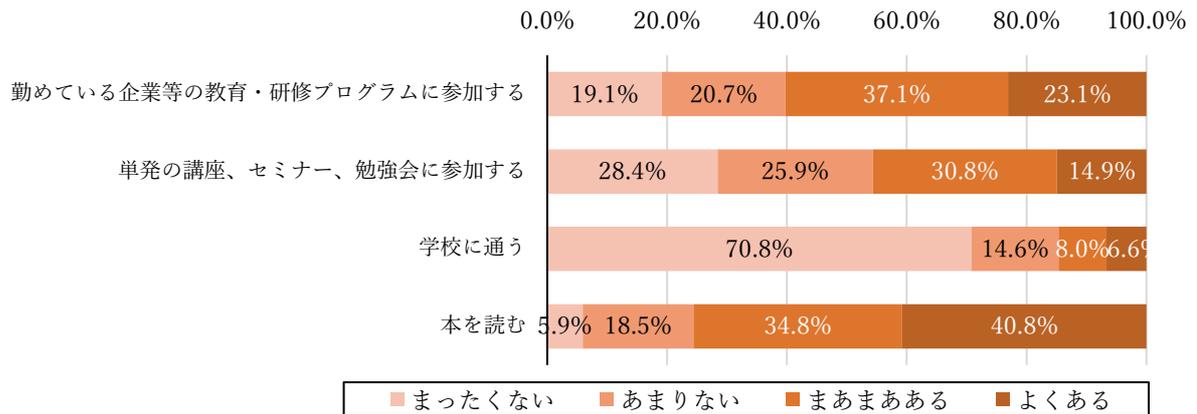
29人以下	74
30~99人	59
100~999人	180
1,000人以上	510

Q32. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。



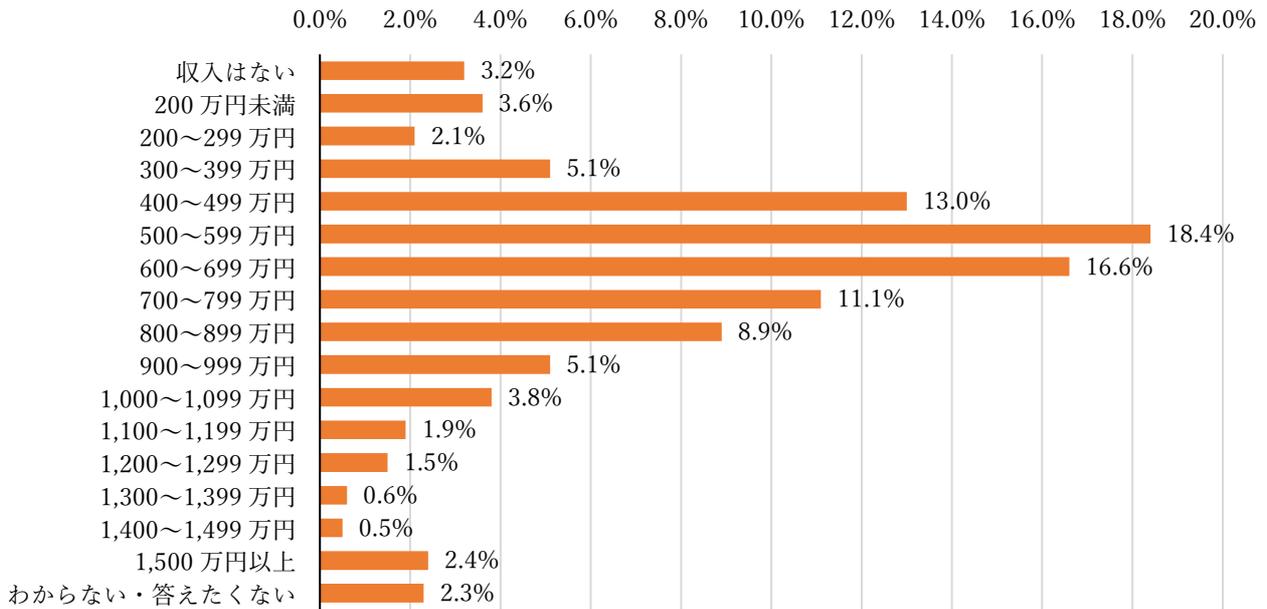
1年	107	12年	1	30年	2
2年	66	14年	1	32年	1
3年	54	15年	1	36年	1
4年	35	17年	1	37年	1
5年	58	18年	2	40年	1
6年	39	20年	2		
7年	70	22年	3		
8年	93	25年	2		
9年	116	26年	1		
10年	156	27年	1		
11年	2	29年	2		

Q33. 現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください。



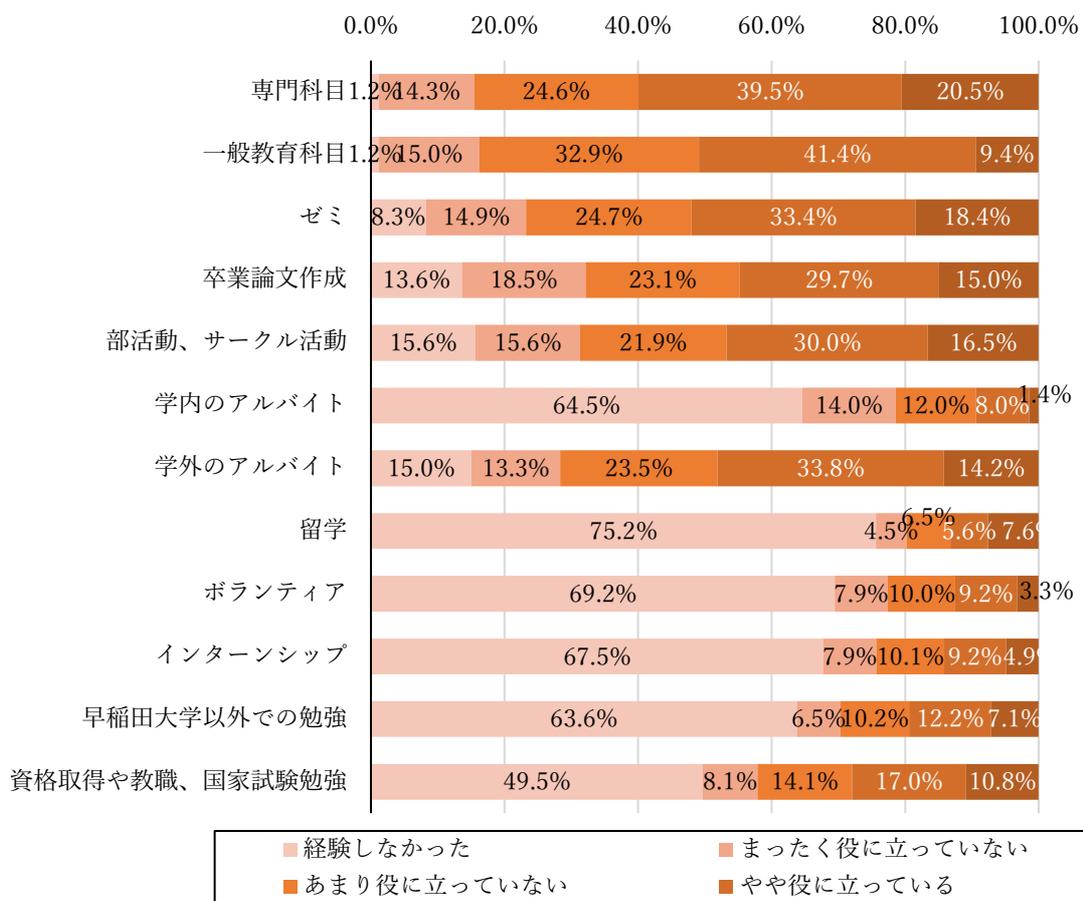
	ま っ た く な い	あ ま り な い	ま あ ま あ る	よ く あ る
勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する	164	177	318	198
単発の講座、セミナー、勉強会に参加する	244	222	264	128
学校に通う	608	125	69	57
本を読む	51	159	300	351

Q34. あなたの現在の年収（税込）について、該当するものを一つだけお選びください。



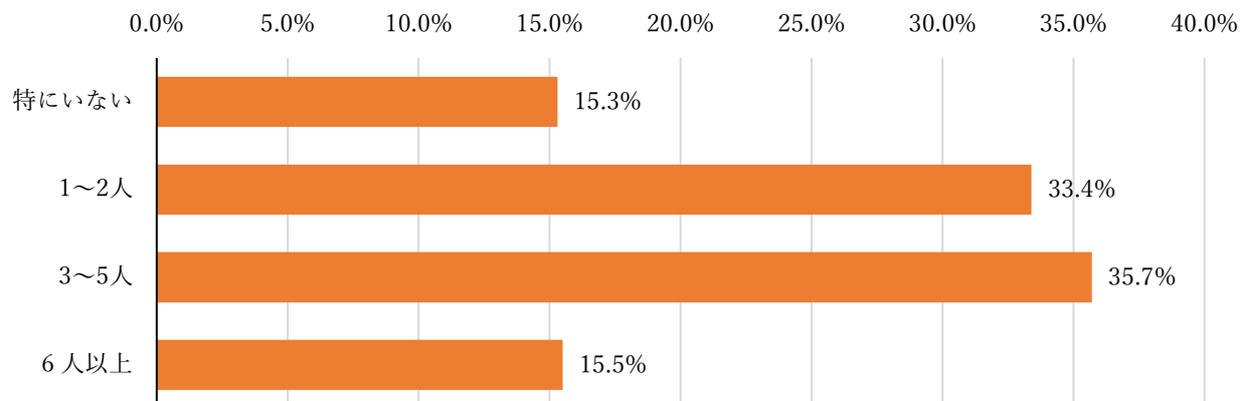
収入はない	28
200万円未満	31
200～299万円	18
300～399万円	44
400～499万円	112
500～599万円	159
600～699万円	143
700～799万円	96
800～899万円	77
900～999万円	44
1,000～1,099万円	33
1,100～1,199万円	16
1,200～1,299万円	13
1,300～1,399万円	5
1,400～1,499万円	4
1,500万円以上	21
わからない・答えたくない	20

Q35. あなたの学部時代の経験は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。該当するものをお選びください。



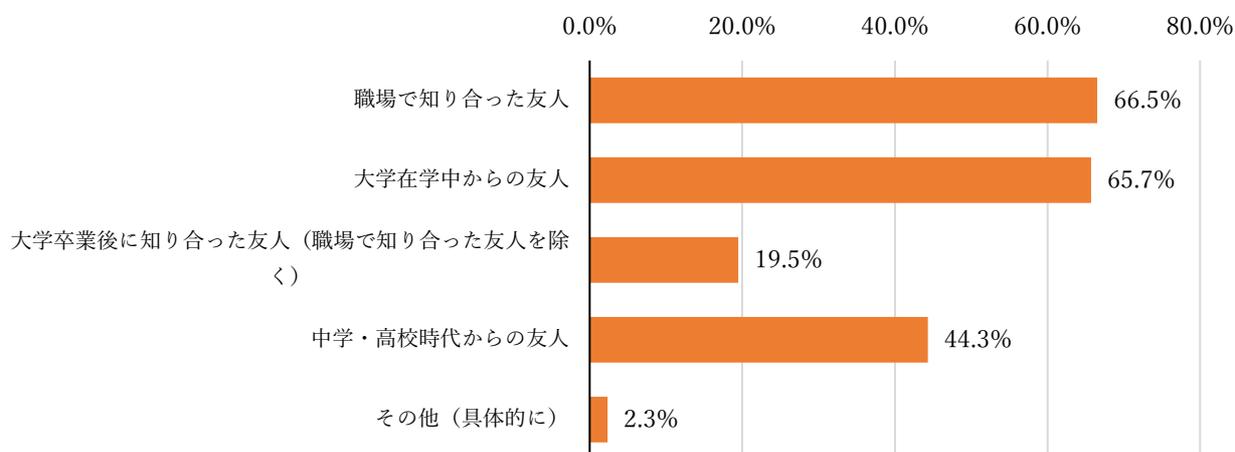
	経験しなかつた	まったく役に立っていない	あまり役に立っていない	やや役に立っている	かなり役に立っている
専門科目	10	123	211	339	176
一般教育科目	10	129	283	356	81
ゼミ	71	128	212	287	158
卒業論文作成	117	159	198	255	129
部活動、サークル活動	134	134	188	258	142
学内のアルバイト	554	120	103	69	12
学外のアルバイト	129	114	202	290	122
留学	646	39	56	48	65
ボランティア	594	68	86	79	28
インターンシップ	580	68	87	79	42
早稲田大学以外での勉強	546	56	88	105	61
資格取得や教職、国家試験勉強	425	70	121	146	93

Q36. あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。該当するものを一つだけお選びください。



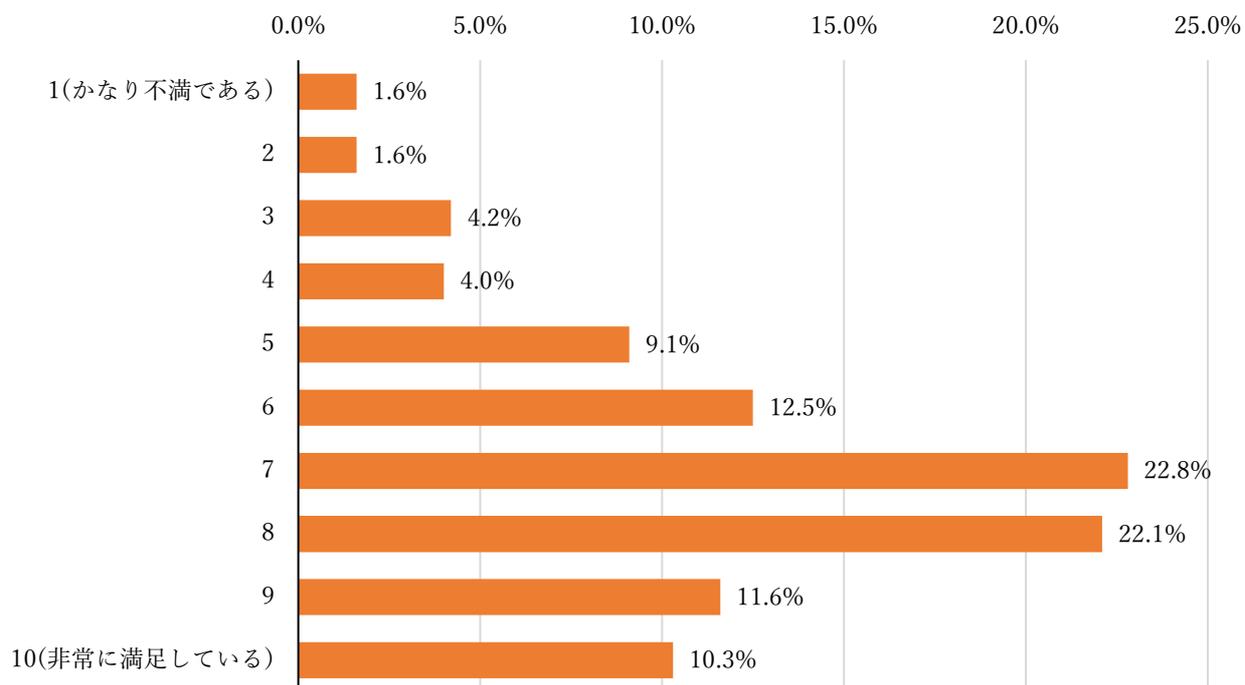
特にいない	132
1~2人	288
3~5人	308
6人以上	134

Q37. その友人は、どのような関係にある方ですか。あてはまるものすべてをお選びください。



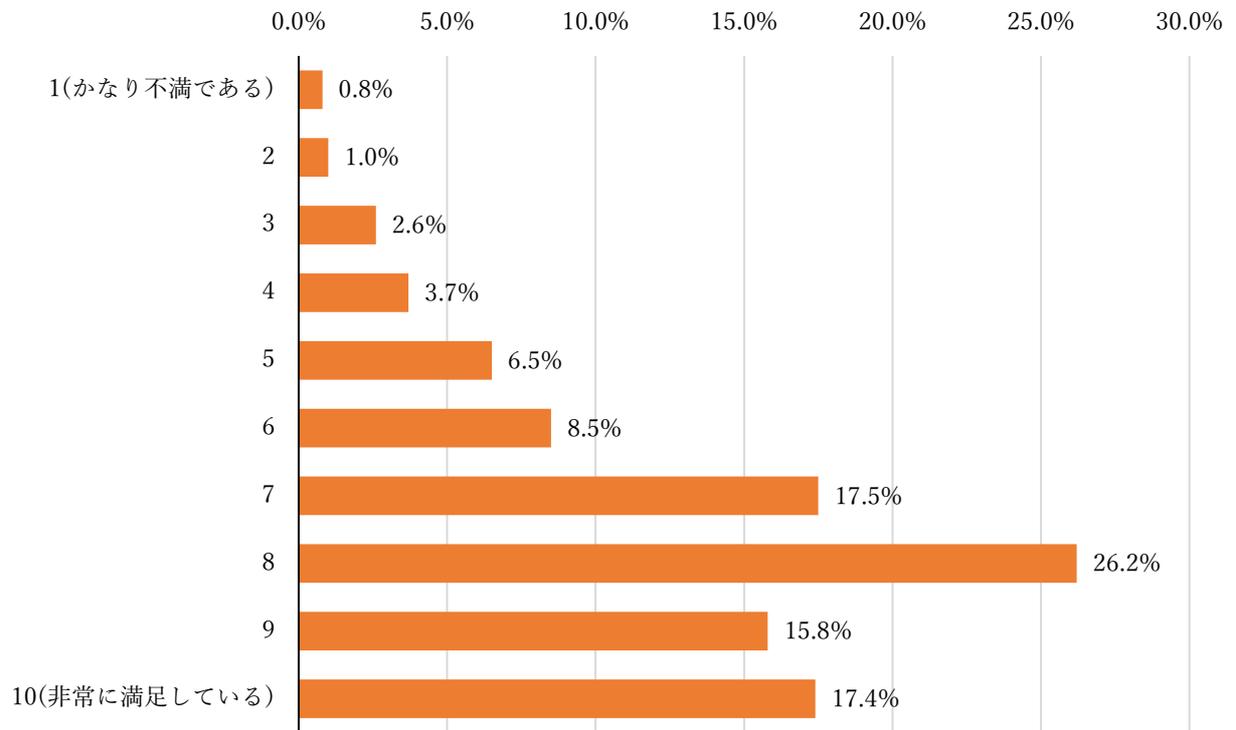
職場で知り合った友人	485
大学在学中からの友人	479
大学卒業後に知り合った友人（職場で知り合った友人を除く）	142
中学・高校時代からの友人	323
その他（具体的に）	17

Q38. あなたの現在の仕事の満足度はどの程度ですか。 それぞれ一つずつお選びください。



1(かなり不満である)	14
2	14
3	36
4	34
5	78
6	107
7	195
8	189
9	99
10(非常に満足している)	88

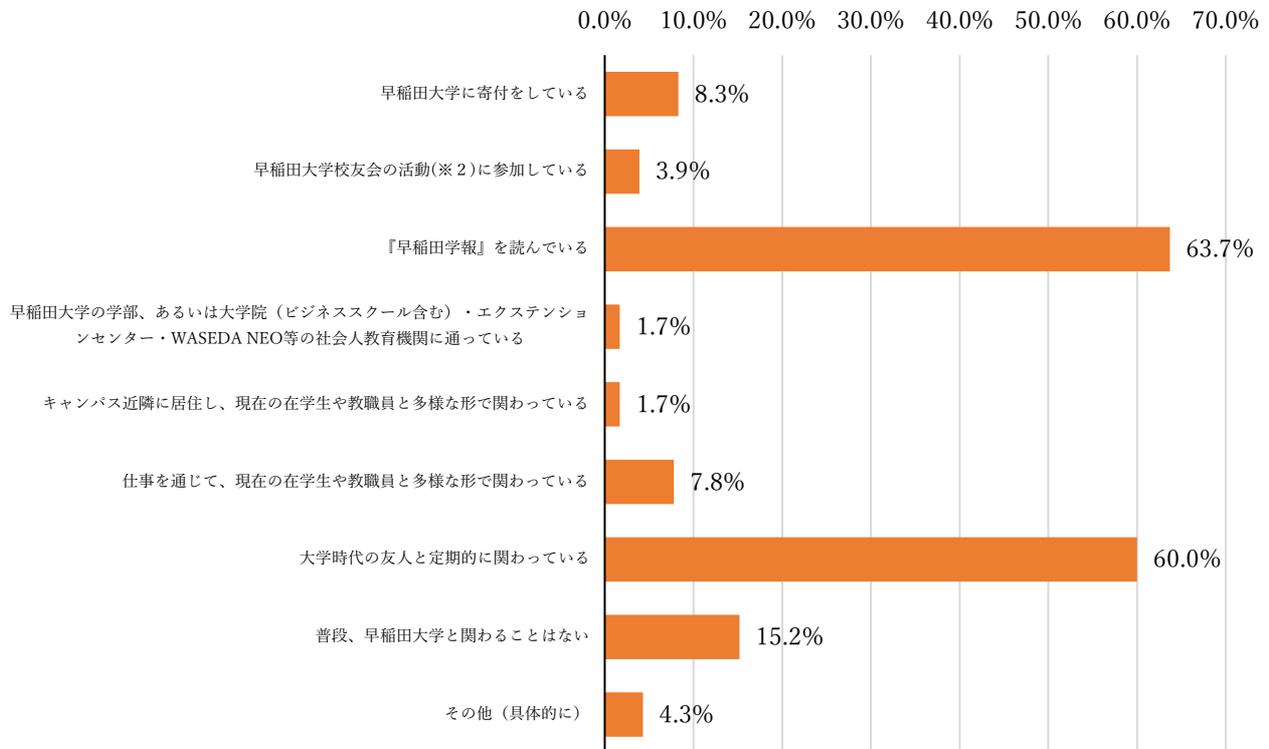
Q39. あなたの生活（仕事を除く）の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。



1(かなり不満である)	7
2	9
3	22
4	32
5	56
6	73
7	151
8	226
9	136
10(非常に満足している)	150

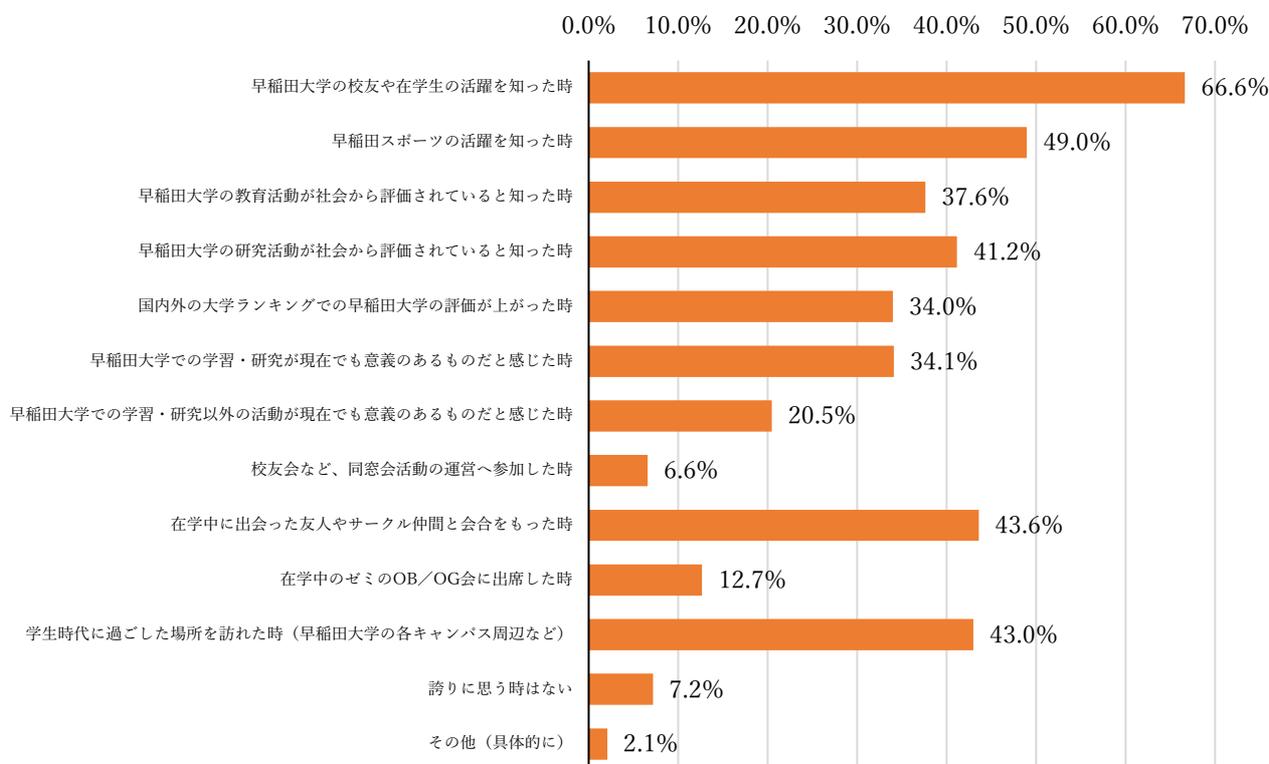
## 5. 交友関連・自由記述

Q42. あなたは早稲田大学の校友(こうゆう)(※1)として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。



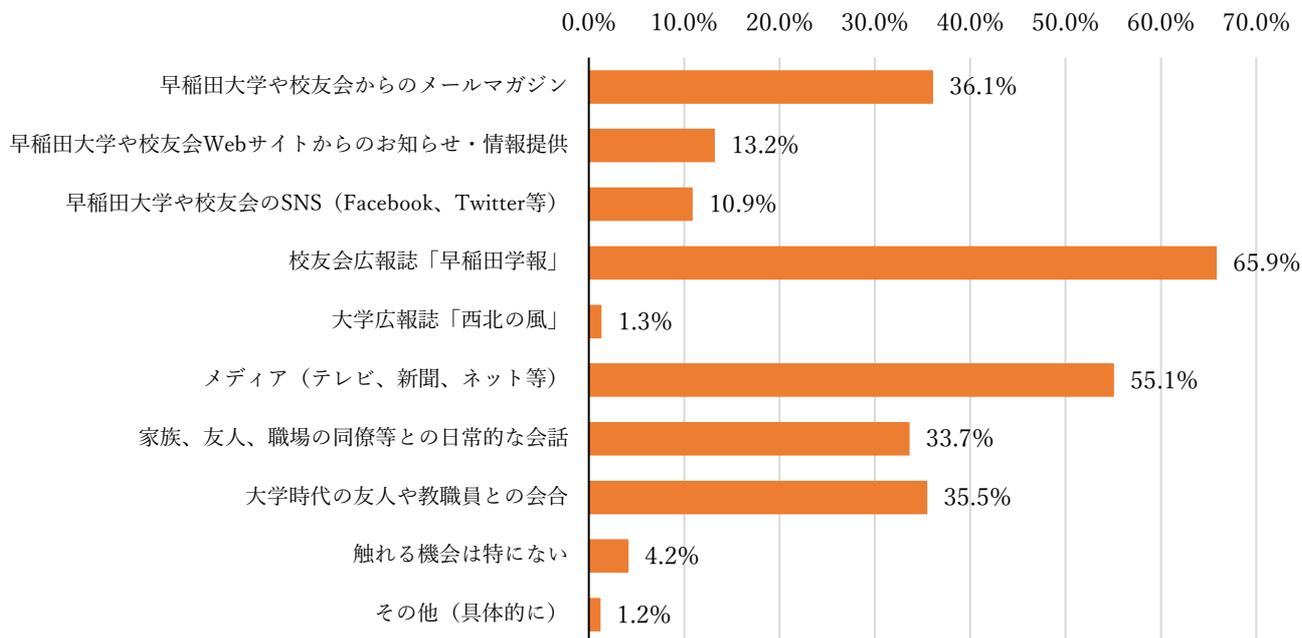
早稲田大学に寄付をしている	68
早稲田大学校友会の活動に参加している	32
『早稲田学報』を読んでいる	522
早稲田大学の学部、あるいは大学院(ビジネススクール含む)・エクステンションセンター・WASEDA NEO等の社会人教育機関に通っている	14
キャンパス近隣に居住し、現在の在學生や教職員と多様な形で関わっている	14
仕事を通じて、現在の在學生や教職員と多様な形で関わっている	64
大学時代の友人と定期的に関わっている	492
普段、早稲田大学と関わることはない	125
その他(具体的に)	35

Q43. 早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時はどのような時ですか。あてはまるものすべてを選んでください。



早稲田大学の校友や在学生の活躍を知った時	547
早稲田スポーツの活躍を知った時	402
早稲田大学の教育活動が社会から評価されていると知った時	309
早稲田大学の研究活動が社会から評価されていると知った時	338
国内外の大学ランキングでの早稲田大学の評価が上がった時	279
早稲田大学での学習・研究が現在でも意義のあるものだと感じた時	280
早稲田大学での学習・研究以外の活動が現在でも意義のあるものだと感じた時	168
校友会など、同窓会活動の運営へ参加した時	54
在学中に出会った友人やサークル仲間と会合をもった時	358
在学中のゼミのOB/OG会に出席した時	104
学生時代に過ごした場所を訪れた時（早稲田大学の各キャンパス周辺など）	353
誇りに思う時はない	59
その他（具体的に）	17

Q44. あなたが早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか。あてはまるものすべてを選んでください。



早稲田大学や校友会からのメールマガジン	295
早稲田大学や校友会 Web サイトからのお知らせ・情報提供	108
早稲田大学や校友会の SNS (Facebook、Twitter 等)	89
校友会広報誌「早稲田学報」	538
大学広報誌「西北の風」	11
メディア (テレビ、新聞、ネット等)	450
家族、友人、職場の同僚等との日常的な会話	275
大学時代の友人や教職員との会合	290
触れる機会はない	34
その他 (具体的に)	10

2021年度 早稲田大学卒業生調査 報告書

2022年5月

早稲田大学 大学総合研究センター

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 (7号館4F)